

# 令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事

(構造)

前川建築設計事務所

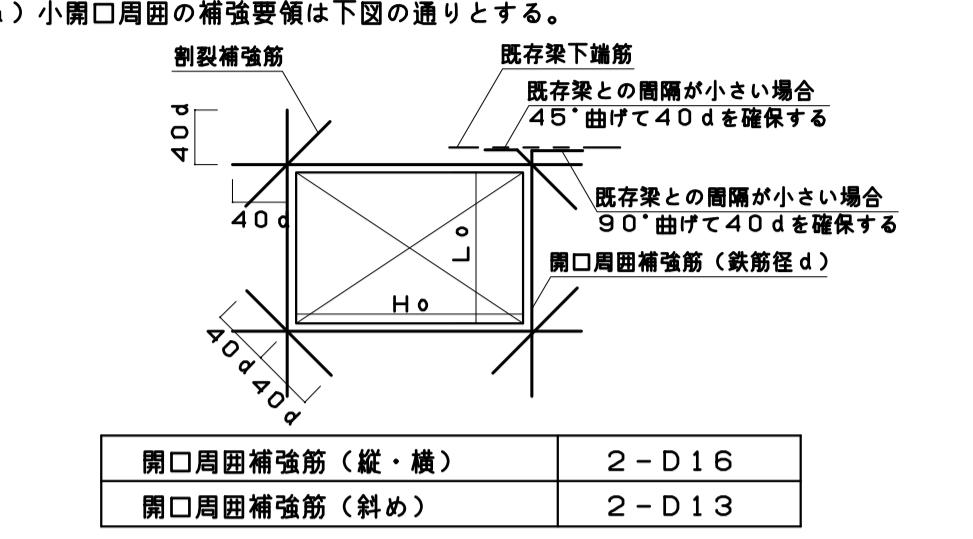
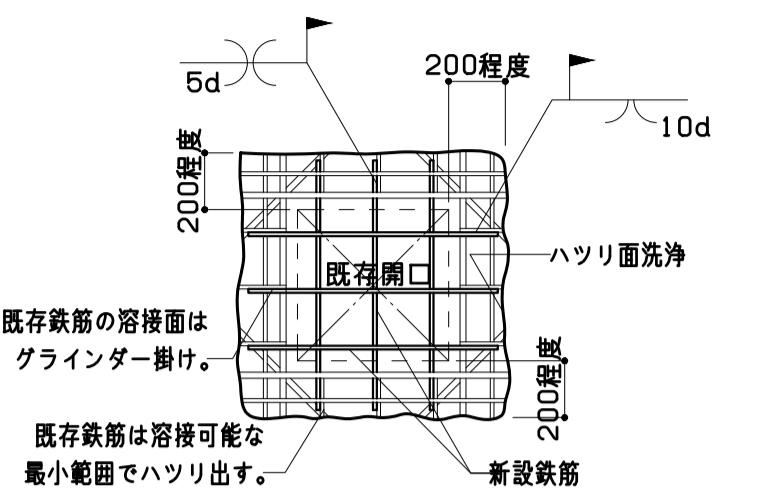
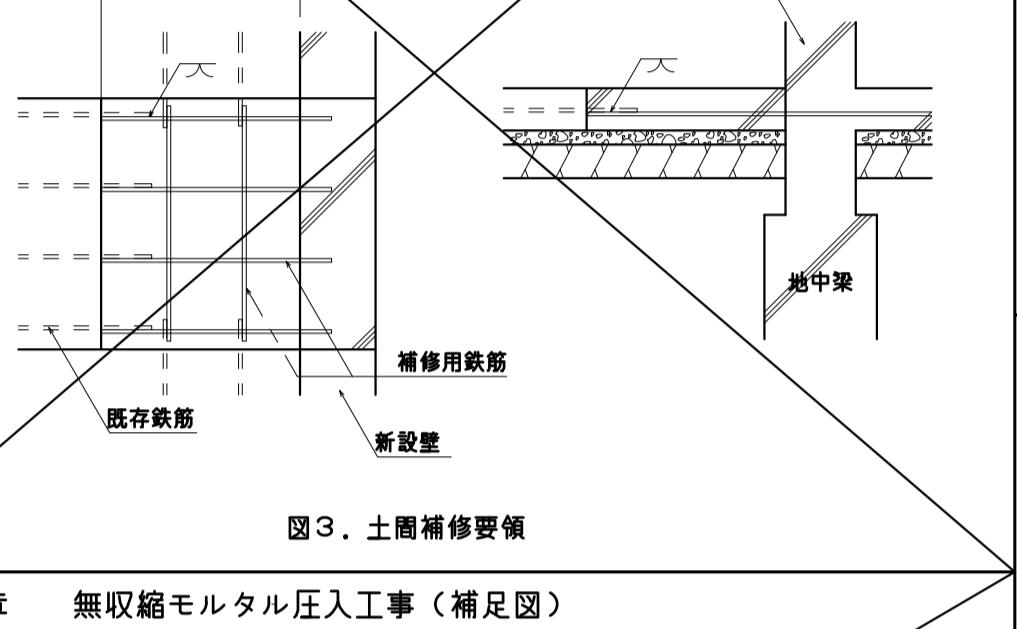
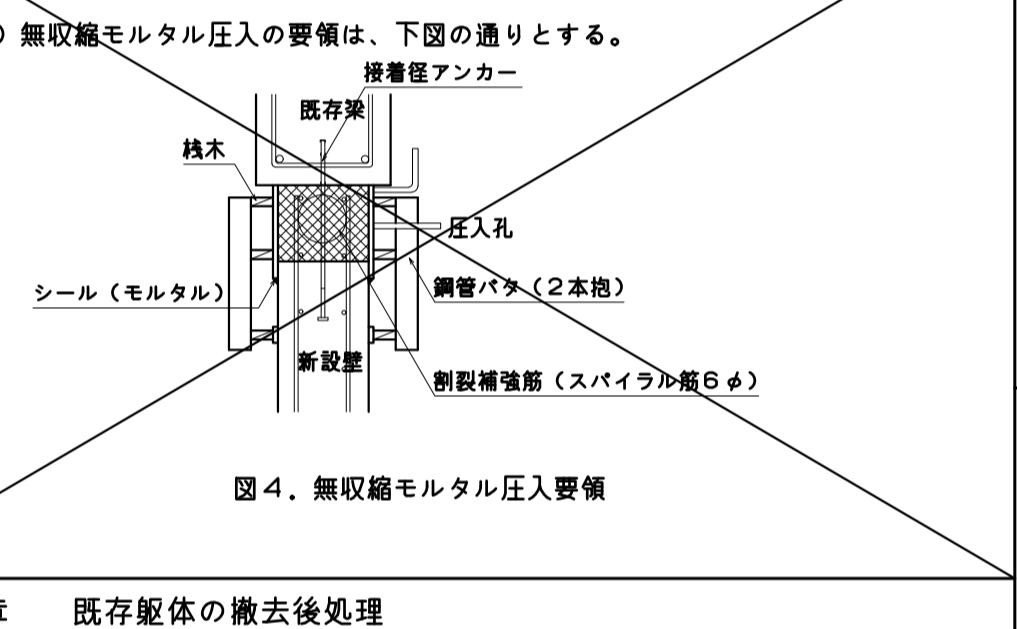
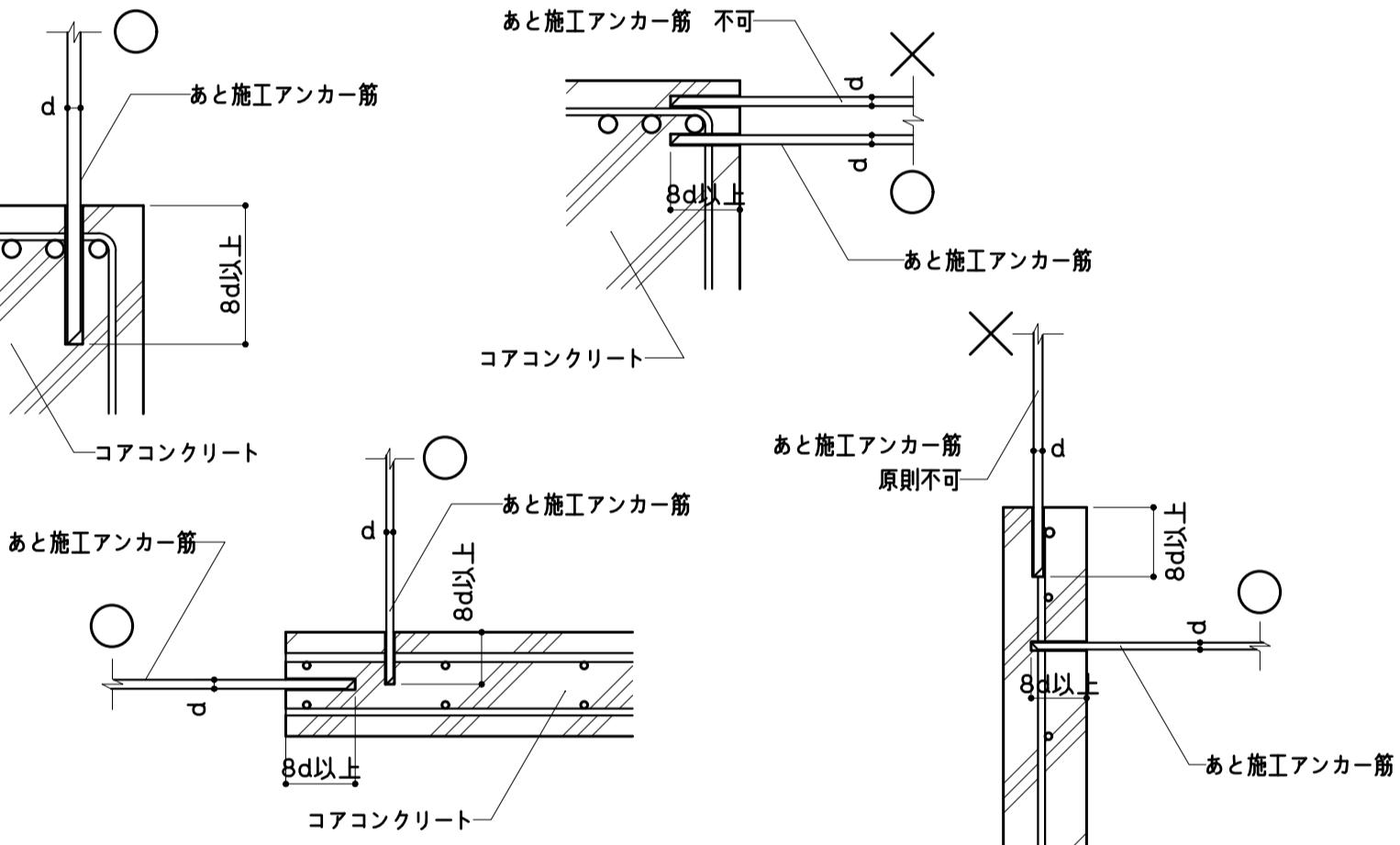
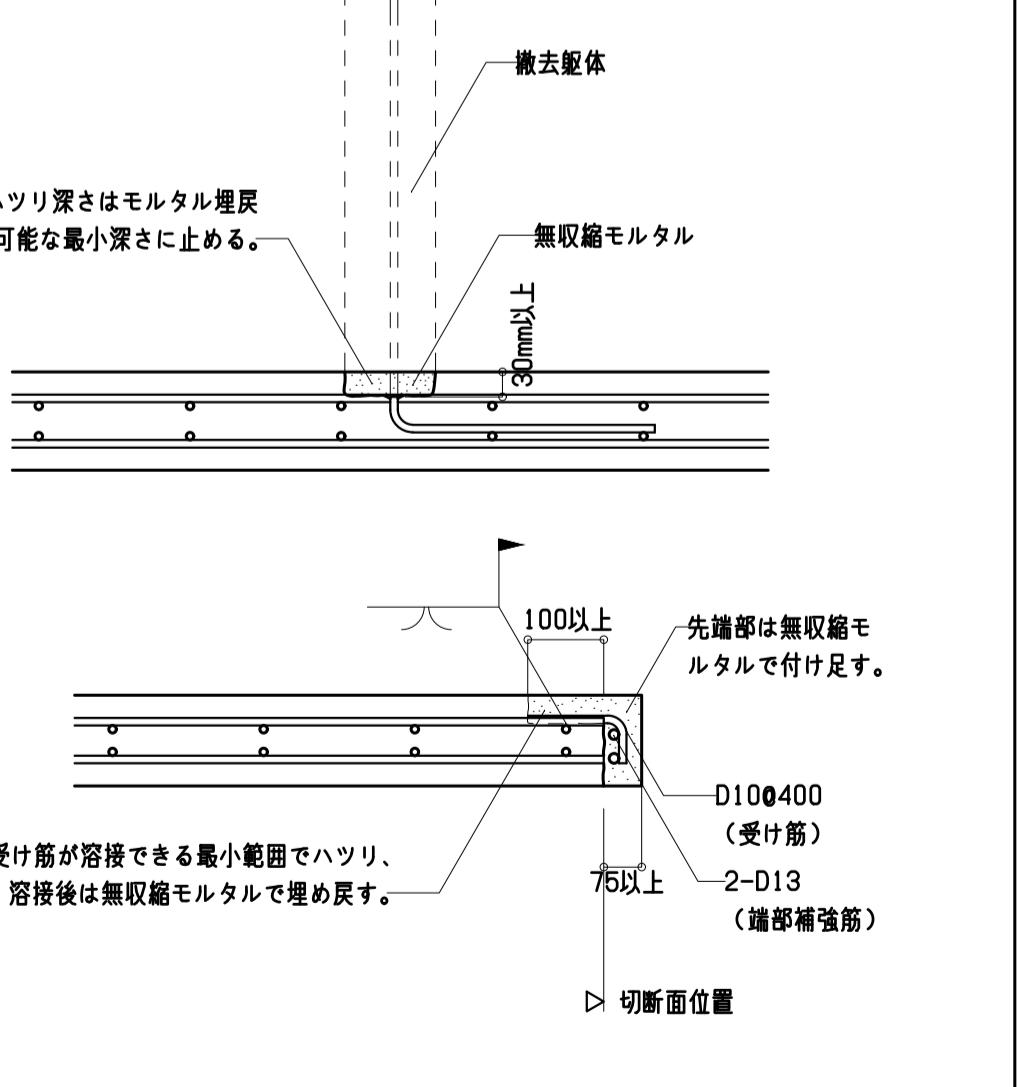
# 図面リスト 構造

図面番号	図面名称	縮尺
S-021	既存 基礎・1階伏図	(A1) 1/125
S-022	既存 M2階伏図	(A1) 1/125
S-023	既存 R1階・R2階伏図	(A1) 1/125
S-024	既存 軸組図(1)	(A1) 1/125
S-025	既存 軸組図(2)	(A1) 1/125
S-026	既存 軸組図(3)	(A1) 1/125
S-027	既存 軸組図(4)	(A1) 1/125
S-028	既存 軸組図(5)	(A1) 1/125
S-029	既存 軸組図(6)	(A1) 1/125
S-030	既存 軸組図(7)	(A1) 1/125
S-031	既存 基礎断面表	(A1) 1/30
S-032	既存 柱・スラブ断面表	(A1) 1/30
S-033	既存 基礎梁・基礎スラブ断面表	(A1) 1/30
S-034	既存 大梁・片持梁断面表	(A1) 1/30
S-035	既存 小梁・壁断面表	(A1) 1/30

# 躯体工事特記仕様書（1）

第1章 工事概要		第3章 仮設工事		第6章 鉄骨枠付きプレース 増設工事		第8章 スリット新設工事	
1. 工事件名	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事)	1. 施工内容	(2) 試験・確認等	1. 材料	1. 施工内容	1. 施工内容	
2. 工事場所	青森県弘前市大字常盤坂2丁目20-1	a) 工事期間中に職員の建物使用が考えられるため、工事箇所周囲に仮囲いを設け、工事関係者以外の工事箇所立ち入りを防ぎ安全を図る。	b) 増設部材の周りには、枠組足場等を設けて施工性の向上と安全性の確保を図る。	(1) 使用材料及びメーカー指定	a) スリット幅は図示の通りとし、深さは壁厚とする。壁筋は、切断しないこと。		
3. 工事計画	本工事は、改修工事に伴う既存の構造体の変更に対して、改修後の安全性を確保するため既存躯体と新設躯体との接合が極めて重要である。 また、この工事は限られた場所で行われるもので、一般的な建築工事とは施工方法等相当異なる面がある。 よって、設計の主旨及び最終的な建物の状態を十分理解した上で工法を選び、施工計画をたてなければならない。特に、次の点に十分注意する事。 a) 鋼体寸法、階高寸法その他は実測による。 b) 既存コンクリートとの一体化を図る。 c) 新設部と既存部材との定着を十分に行うこと。 d) 騒音、粉塵及び汚染など支障を及ぼす範囲をできるだけ小さくする。 e) 仕上げ及びコンクリート等の撤去に際しては、最小限必要な範囲とし、残りの部分を傷めない様に十分注意する。 f) 既存配管、配線及び器具等を十分調査し、損傷を与えないよう注意する。 g) 施工に先立ち全行程の施工計画書を作成し承認を得る事。各試験は、試験方法及び結果報告を通常なく行うこと。なお、施工計画書は工事種別ごとに作成すること。	c) 執務中の工事となるので、粉塵及び騒音に対しての養生を充分に行うこと。 施工完了後清掃は、全階行うこと。	d) 建築部材の試験方法はJGAA あと施工アンカー現場試験方法による。 試験本数は、1日に施工された各個ごとを1ロットとし、の中から3本を行う。ただし1日で同一箇所のものを複数回、複数の場所で施工する場合は、状況に合わせて監督員の指示により、ロットの構成の変更を行なうことができる。 場所は監督員の指示に従い下記の張力を確認する。	(2) 材料	a) スリットは外側から施工することを原則とする。		
第2章 総則	1. 摘要範囲	2. 施工上の注意事項	(3) アンカーワークは、JIS G 3112(鉄筋コンクリート用鋼鉄)に規定されている、熱間圧延異形鋼SD345規格品とする。頭部はネジ切り加工し、ナット取付のこと。	2. 施工内容	a) スリット幅は既存躯体の幅より狭い場合、その部分に最大引張力がかかるように曲げる。		
	本工事は、設計図及び本仕様書に基づくものとし、これらに記載なき場合は、次に定める優先順位の仕様書に従うこととする。 (1) 本特記仕様書 (2) 「公共建築改修工事標準仕様書」(国土交通省大臣官房官房企画部監修 最新版) (3) 「公共建築工事標準仕様書」(国土交通省大臣官房官房企画部監修 最新版) (4) 「改訂版既存鉄筋コンクリート建築物の耐震診断基準、耐震改修設計指針・同解説」(建設省住宅局建築指導課)	a) 既存躯体の実測とスミ出し b) 既存柱面及び梁(地中梁含)面にアンカーワークを施し、樹脂接着アンカーセット後、鉄筋を定着 c) 鉄筋の加工及び組立 d) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。 e) 増設部材と接する既存コンクリート面は、充分に目荒らしを行なう。 f) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	e) 型枠組立 f) 清掃及び水湿し g) コンクリート養生 h) 無収縮モルタルモルタル i) 型枠撤去及び清掃 j) 圧縮試験	(4) 試験・確認等	a) 鉄骨は、JIS G 3101に規定されているSS400規格品以上とする。 b) 頭付きスタッドは、JIS B 1198に規定されている規格品とする。 c) アンカーワークは、JIS G 3112(鉄筋コンクリート用鋼鉄)に規定されている、熱間圧延異形鋼SD345規格品とする。頭部はネジ切り加工し、ナット取付のこと。	2. 施工上の注意事項	a) スリット幅は既存躯体の幅より狭い場合、その部分に最大引張力がかかるように曲げる。
2. 総義	2. 撤去工事における注意事項	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。 又、養生期間中は、振動等を与えないよう注意する。	a) ポンチ試験は、1辺につき1本行う。曲げ試験は、頭付きスタッドの角度が垂直から30°になるまでハンマー又はその他適当な方法で曲げる。曲げ方向は、溶接部の外観に欠陥がある場合、その部分に最大引張力がかかるように曲げる。 b) カプセル型樹脂接着アングル(全数打音確認) c) カプセル型樹脂接着アングル(引張試験)	3. 施工内容	a) アンカーワークは、カプセル型樹脂接着アングルとする。 b) 鉄筋は、A Rケミカルセッター APシリーズ c) 日本デラックス株式会社 ケミカルアンカーライフ d) 漆喰工業 ジョイナーカプセルSP e) 日本ヒューリック株式会社 H E Aヒューリックミカル 若しくは同等品以上とする。 ◎同等品の認定については、公的機関による引張強度・せん断強度確認を必要とする。	3. 施工上の注意事項	a) 施工に際し、アンカーワークの位置を確認し、既存部の損傷を極力避ける。
3. 材料等の試験	4. 無収縮モルタル圧入工事	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。 又、養生期間中は、振動等を与えないよう注意する。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	4. 施工内容	a) 既存躯体の実測とスミ出し b) 鉄筋の加工組立(工場で行う) c) アンカーワークを施し、樹脂接着アングルを設置する d) 清掃 e) 鉄骨建て方及び水湿し f) 型枠組立 g) 無収縮モルタルモルタル h) 型枠撤去及び清掃	4. 施工上の注意事項	a) アンカーワークは、カプセル型樹脂接着アングルとする。 b) 鉄筋は、A Rケミカルセッター APシリーズ c) 日本デラックス株式会社 ケミカルアンカーライフ d) 漆喰工業 ジョイナーカプセルSP e) 日本ヒューリック株式会社 H E Aヒューリックミカル 若しくは同等品以上とする。
4. 工事記録	5. 鉄筋コンクリート造新設壁 増設工事	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。 又、養生期間中は、振動等を与えないよう注意する。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	5. 施工内容	a) 既存躯体の実測とスミ出し b) 鉄筋の加工組立(工場で行う) c) アンカーワークを施し、樹脂接着アングルを設置する d) 清掃 e) 鉄骨建て方及び水湿し f) 型枠組立 g) 無収縮モルタルモルタル h) 型枠撤去及び清掃	5. 施工上の注意事項	a) アンカーワークは、カプセル型樹脂接着アングルとする。 b) 鉄筋は、A Rケミカルセッター APシリーズ c) 日本デラックス株式会社 ケミカルアンカーライフ d) 漆喰工業 ジョイナーカプセルSP e) 日本ヒューリック株式会社 H E Aヒューリックミカル 若しくは同等品以上とする。
5. 工事記録撮影写真は、別に定める要領による。	6. 鉄骨枠付きプレース 増設工事	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。 又、養生期間中は、振動等を与えないよう注意する。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	6. 施工内容	a) 既存躯体の実測とスミ出し b) 鉄筋の加工組立(工場で行う) c) アンカーワークを施し、樹脂接着アングルを設置する d) 清掃 e) 鉄骨建て方及び水湿し f) 型枠組立 g) 無収縮モルタルモルタル h) 型枠撤去及び清掃	6. 施工上の注意事項	a) アンカーワークは、カプセル型樹脂接着アングルとする。 b) 鉄筋は、A Rケミカルセッター APシリーズ c) 日本デラックス株式会社 ケミカルアンカーライフ d) 漆喰工業 ジョイナーカプセルSP e) 日本ヒューリック株式会社 H E Aヒューリックミカル 若しくは同等品以上とする。
6. 施工記録	7. 鉄筋コンクリート造増設壁 増設工事	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。 又、養生期間中は、振動等を与えないよう注意する。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	7. 施工内容	a) 既存躯体の実測とスミ出し b) 鉄筋の加工組立(工場で行う) c) アンカーワークを施し、樹脂接着アングルを設置する d) 清掃 e) 鉄骨建て方及び水湿し f) 型枠組立 g) 無収縮モルタルモルタル h) 型枠撤去及び清掃	7. 施工上の注意事項	a) アンカーワークは、カプセル型樹脂接着アングルとする。 b) 鉄筋は、A Rケミカルセッター APシリーズ c) 日本デラックス株式会社 ケミカルアンカーライフ d) 漆喰工業 ジョイナーカプセルSP e) 日本ヒューリック株式会社 H E Aヒューリックミカル 若しくは同等品以上とする。
7. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	8. スリット新設工事	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	8. 施工内容	a) 使用材料及びメーカー指定	8. 施工上の注意事項	a) スリット幅は既存躯体の幅より狭い場合、その部分に最大引張力がかかるように曲げる。
8. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	9. 接着系アンカーの施工	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	9. 施工内容	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	9. 施工上の注意事項	a) 施工に際し、アンカーワークの位置を確認し、既存部の損傷を極力避ける。
9. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	10. 新設壁の開口補強	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	10. 施工内容	a) 開口補強筋は、開口端より40d以上の長さで、壁内に定着させる。	10. 施工上の注意事項	a) 開口補強筋は、開口端より40d以上の長さで、壁内に定着させる。
10. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	11. スパイラル筋	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	11. 施工内容	a) 新設壁(プレースを含む)の周囲で、あと施工アンカーを設置した部分には、割裂防止のため、スパイラル筋又は、はしご筋を配置する。	11. 施工上の注意事項	a) 新設壁(プレースを含む)の周囲で、あと施工アンカーを設置した部分には、割裂防止のため、スパイラル筋又は、はしご筋を配置する。
11. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	12. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	12. 施工内容	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	12. 施工上の注意事項	a) 新設壁(プレースを含む)の周囲で、あと施工アンカーを設置した部分には、割裂防止のため、スパイラル筋又は、はしご筋を配置する。
12. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	13. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	13. 施工内容	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	13. 施工上の注意事項	a) 新設壁(プレースを含む)の周囲で、あと施工アンカーを設置した部分には、割裂防止のため、スパイラル筋又は、はしご筋を配置する。
13. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	14. 施工記録撮影写真は、別に定める要領による。	a) 型枠の加工にさきがけで、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確定になるよう充分な注意を払う。 b) 型枠は一般の型枠と異なり、周辺既存部材との接続となり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントベーストが漏失する恐れがあるので、サポート及びゴムパッキン等を用いて十分注意を払う。 c) コンクリートの打設は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとする。 d) コンクリート強度の発現中(7日間程度)は充分な養生を行なう。	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	14. 施工内容	a) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、両面からカッタードで切り込みを設け、既存部分の保護をはかる。	14. 施工上の注意事項</	

## 躯体工事特記仕様書 (2)

<p><b>第12章 新設壁の設備開口</b></p> <p>a) 特記なき設備開口は、W300×H300以下とし、3Dの間隔を確保する。 b) あと施工アンカーが設備開口に当る場合は、アンカー位置をずらし、設計通りの総本数を確保する。</p>	<p><b>第16章 小開口周囲の補強</b></p> <p>a) 小開口周囲の補強要領は下図の通りとする。</p>  <p>図5. 小開口周囲の補強</p>	<p><b>壁既存開口塞ぎに関する特記事項</b></p> <p>1) 壁開口部の筋筋は、その開口の隣接する壁配筋で配筋する。 2) 既存鉄筋と開口部新設鉄筋の接合は溶接接合（フレア溶接）とする。溶接有効長さは片面フレア溶接の場合は10d、両面フレア溶接の場合は5dとする。 3) 既存筋筋をハツリ出す場合、既存躯体は溶接可能な最小範囲をハツるものとする。既存躯体のハツル範囲は既存開口より200mmを目的とする。 4) 既存筋筋はできる限り直角にハツリ出し、筋筋表面に付着した有害なペーストを除去する。さらに溶接面となる範囲はグラインダー掛けを行うものとする。 5) コンクリート打込みに先立ち、既存躯体ハツリ面は充分に洗浄し潤滑状態にしておく。 6) コンクリートの打込みは新設耐震壁の整部打設要領と同じで、塞ぎ壁上部20cm程度はグラウトする。</p> 																								
<p><b>第13章 土間の撤去及び補修</b></p> <p>a) 1階の新設壁増設部は、工事に先立ち、土間コンクリートを撤去する。撤去範囲は、新設壁面から幅500mmの範囲とする。 b) 既存の土間筋筋は、コンクリート撤去後より100mm程度を残し、切断する。 c) 新設土間の筋筋は、既存筋筋とフレア溶接により接続する。 d) 一般部土間撤去後の復元工事の筋筋接手は、既存土間筋筋による重ね接手を原則とする。</p>	<p>図3. 土間補修要領</p> 																									
<p><b>第14章 無収縮モルタル圧入工事（補足図）</b></p> <p>a) 無収縮モルタル圧入の要領は、下図の通りとする。</p> 	<p>図4. 無収縮モルタル圧入要領</p>	<p><b>第19章 試験</b></p> <p>* JCAA - 社団法人 日本建築あと施工アンカーアソシエイション</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料</th> <th>項目</th> <th>試験方法</th> <th>試験回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカーリング</td> <td>打音</td> <td>ハンマー</td> <td>全数</td> </tr> <tr> <td></td> <td>引張試験</td> <td>JCAA</td> <td>壁厚さ4mm程度に付けて1本</td> </tr> <tr> <td></td> <td>せん断試験</td> <td>油圧ポンプと油圧ラムによる試験（床・梁を交互に行う）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>スランプ 空気量 塩化物量</td> <td>JIS A 5308</td> <td>圧縮強度試験供試体採取</td> </tr> <tr> <td></td> <td>構造体コンクリートの強度指定のための圧縮強度</td> <td>打込み毎に1回とし、1回につき材令7日と28日それぞれ3本とする。</td> <td>供試体の養生は、工事現場における水中養生または封かん養生とする。</td> </tr> </tbody> </table>	材 料	項目	試験方法	試験回数	アンカーリング	打音	ハンマー	全数		引張試験	JCAA	壁厚さ4mm程度に付けて1本		せん断試験	油圧ポンプと油圧ラムによる試験（床・梁を交互に行う）		コンクリート	スランプ 空気量 塩化物量	JIS A 5308	圧縮強度試験供試体採取		構造体コンクリートの強度指定のための圧縮強度	打込み毎に1回とし、1回につき材令7日と28日それぞれ3本とする。	供試体の養生は、工事現場における水中養生または封かん養生とする。
材 料	項目	試験方法	試験回数																							
アンカーリング	打音	ハンマー	全数																							
	引張試験	JCAA	壁厚さ4mm程度に付けて1本																							
	せん断試験	油圧ポンプと油圧ラムによる試験（床・梁を交互に行う）																								
コンクリート	スランプ 空気量 塩化物量	JIS A 5308	圧縮強度試験供試体採取																							
	構造体コンクリートの強度指定のための圧縮強度	打込み毎に1回とし、1回につき材令7日と28日それぞれ3本とする。	供試体の養生は、工事現場における水中養生または封かん養生とする。																							
<p><b>第15章 既存躯体の撤去後処理</b></p> <p>a) 既存スラブ・壁の撤去又は切断後、撤去又は切断面の既存筋筋の防錆は下図のようにする。 無収縮モルタル埋戻し後、切断される既存筋筋の被りが30mm以上確保できるよう既存筋筋を切断すること。 b) 切断される既存スラブ・壁の切断面が先端部となる場合、端部補強筋として2-D13をその先端部に配筋する。</p>	<p>図4. 無収縮モルタル圧入要領</p>	<p><b>あと施工アンカーに関する特記事項</b></p> <p>1) 新設コンクリートとの接觸面となる既存躯体面の自荒し（電動ピック等を用い、平均深さ0.5~1.0cm程度、最大1.5cm程度の凸凹を、接觸面の全体に渡って@90度で設ける。）、および清浄は充分に行なう。 2) あと施工アンカーの有効埋込深度は8d以上とする。ただし、新設壁の開口補強筋のためのあと施工アンカーの有効埋込深度は10d以上とする。 3) あと施工アンカーの施工は、日本建築あと施工アンカーアソシエイション（JCAA）の発行する「第1種あと施工アンカーワーク」以上を取得した者がある。 4) 既存梁・柱に打つ場合、あと施工アンカー打設位置は原則としてコアコンクリート内（フープ状に閉じた筋筋によって囲まれたコンクリート部分）にアンカー先端が取まるような位置とし、コンクリート被り部分に打つてはならない。（右図参照） 5) 既存壁・スラブに打つ場合あと施工アンカーは、ダブル配筋なら2面の筋筋を挟まれたコアコンクリート部分にアンカー先端が取まるように、また、シングル配筋なら筋筋面に垂直に打ち、アンカー先端が筋筋格子面を超えるように打設する。（右図参照） 6) あと施工アンカー打ちで既存筋筋を痛めてはならない。従って、アンカー打設前ミーティングで既存躯体の部材断面表を確認し、予め筋筋の並び等を確認しておくものとする。その後、被り厚程度の穿孔予留りを行い、孔底をたがね等で叩いて既存筋筋の有無を確認してから、あと施工アンカー本施工を行う。 7) 既存部材の切断後、切断面の筋筋の防錆は下図のように切断面を50mm程度の無収縮モルタルで覆うことで対処する。</p> 																								
<p>図5. 切断面の筋筋の防錆</p> 																										

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項															
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。															
(2) 記号															
d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値(径) D: 部材の成、又は鉄筋内法直徑 ø: 半径 c: 中心線 $l_0$ : 部材間の内法距離 h <sub>0</sub> : 部材間の内法高さ ST: あら筋 HOOP: 帯筋 S, HOOP: 強筋															
2. 鉄筋加工															
(1) 鉄筋の折り曲げ加工															
<table border="1"> <tr> <th>折曲げ角度</th> <th>180°</th> <th>135°</th> <th>90°</th> </tr> <tr> <td>図</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋の余長</td> <td>4d以上</td> <td>6d以上</td> <td>8d以上</td> </tr> </table> <p>折曲げ内法寸法Dは、SD345のD16以下は3d以上、D19以上は4d以上 SD390のD41以下と、SD490のD25以下は5d以上、SD490のD29以上は6d以上</p>	折曲げ角度	180°	135°	90°	図				鉄筋の余長	4d以上	6d以上	8d以上			
折曲げ角度	180°	135°	90°												
図															
鉄筋の余長	4d以上	6d以上	8d以上												
<p>[注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。          (2) スパイラル筋の重ね継手部に90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。          (3) 片持スラブ先端・壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。          (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。          (5) 折り曲げ内法直徑を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。          (6) SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。</p>															
(2) 加工寸法の許容差															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>符号</th> <th>許容差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各加工寸法 * 主筋</td> <td>D25以下</td> <td>a, b ± 15</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D29以上D41以下</td> <td>a, b ± 20</td> </tr> <tr> <td>あら筋・帯筋・スパイラル筋</td> <td>a, b</td> <td>± 5</td> </tr> <tr> <td>加工後の全長</td> <td>L</td> <td>± 20</td> </tr> </tbody> </table>	項目	符号	許容差	各加工寸法 * 主筋	D25以下	a, b ± 15		D29以上D41以下	a, b ± 20	あら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5	加工後の全長	L	± 20
項目	符号	許容差													
各加工寸法 * 主筋	D25以下	a, b ± 15													
	D29以上D41以下	a, b ± 20													
あら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5													
加工後の全長	L	± 20													
<p>[注] *各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。</p>															
(3) 鉄筋のあき															
異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。															
(4) 鉄筋のフック															
<p>* a~fに示す鉄筋の末端部にはフックをつける。          a. あら筋、帯筋、および縮止め筋          b. 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)          c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出隅部分          および下筋の両端にある場合の鉄筋(右図参照)          d. 単純梁の下筋          e. その他、本配筋標準に記載する箇所</p>															

(5) 定着長さ						
鉄筋種別	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ				
		一般		小梁下筋		スラブ下筋
SD295	18	40d	30d	20d	15d	
	21	35d	25d	15d	15d	
	24~27	30d	20d	15d	15d	
	30~36	30d	20d	15d	15d	
	39~45	25d	15d	15d	15d	
	48~60	25d	15d	15d	15d	
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d
	21	35d	25d	20d	20d	20d
	24~27	35d	25d	20d	15d	10dかつ 150以上
	30~36	30d	20d	15d	15d	
	39~45	30d	20d	15d	15d	
	48~60	35d	25d	15d	15d	
SD390	18	40d	30d	20d	20d	
	21	40d	30d	20d	20d	
	24~27	40d	30d	20d	20d	
	30~36	35d	25d	20d	15d	
	39~45	35d	25d	15d	15d	
	48~60	30d	20d	15d	15d	
SD490	24~27	45d	35d	25d	-	
	30~36	40d	30d	25d	-	
	39~45	40d	30d	20d	-	
	48~60	35d	25d	20d	-	

[注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まれない。

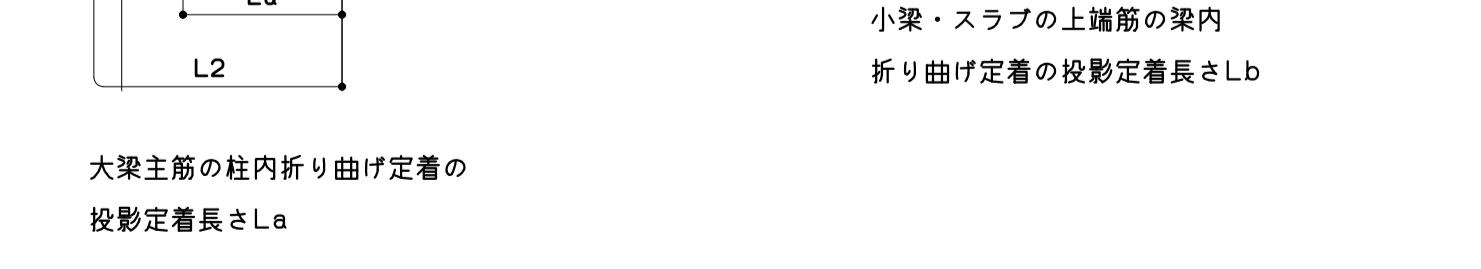
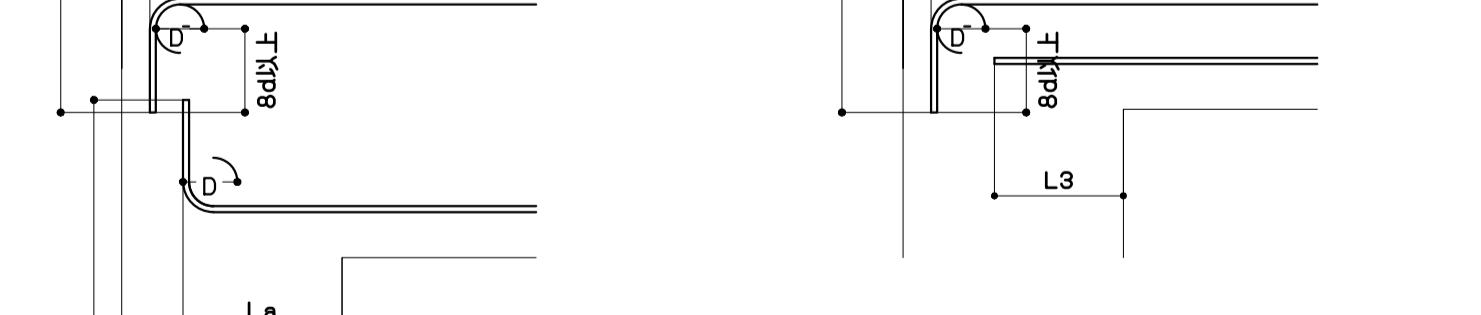
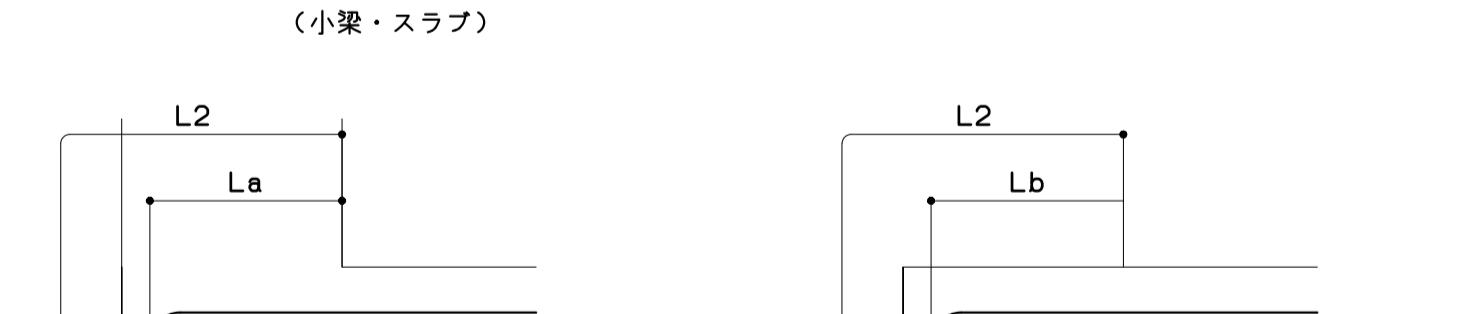
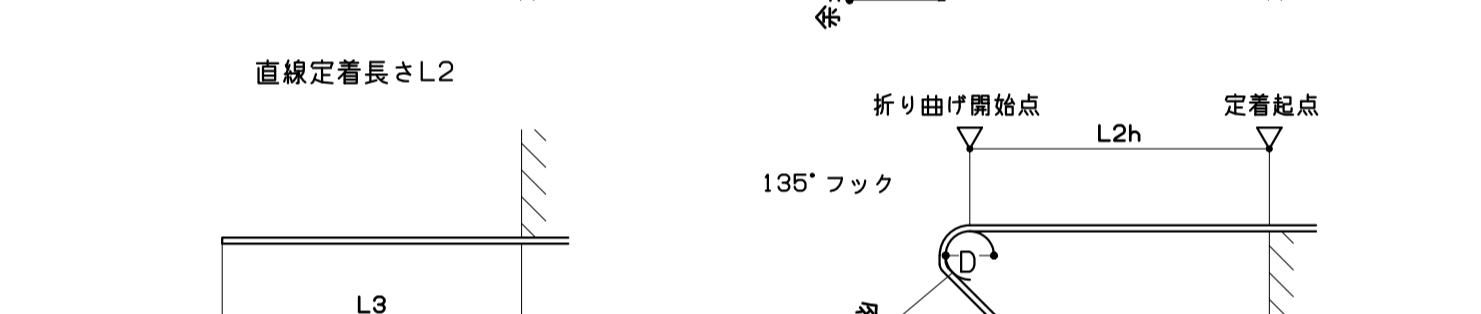
(2) フック部の折り曲げ内法直徑D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

(3) \*梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長さをL2以上とともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。

尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

(4) 耐圧スラブの下筋の定着長は一般定着L2とする。

直線定着長さL2

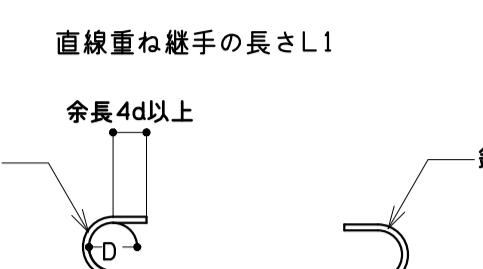


## (6) 継手

### ■重ね継手

鉄筋種別	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手長さ	
		L1	L1h
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24~27	35d	25d
	30~36	35d	25d
	39~45	30d	20d
	48~60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24~27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
	48~60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24~27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
	48~60	35d	25d
SD490	24~27	55d	40d
	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d
	48~60	40d	30d

直線重ね継手の長さL1

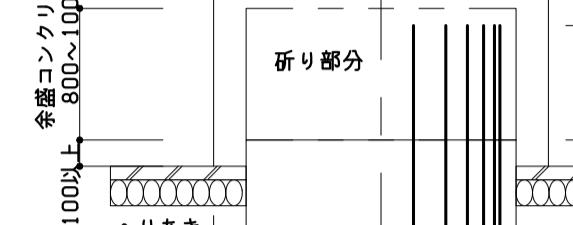
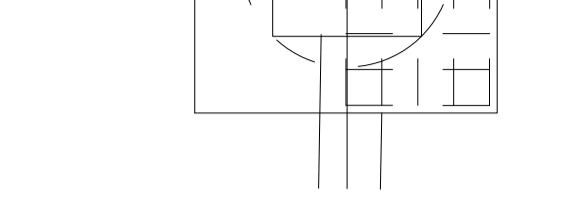
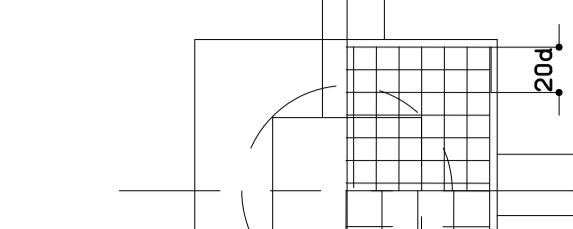


フック付き重ね継手の長さL1h

折り曲げ開始点 (鉄筋A)  
折り曲げ開始点 (鉄筋B)

## (2) 杭基礎

### ①場所打ち杭



HOOP筋の巻きは片側溶接  
10d又は重ね継手40d  
フック付き

スペーサー  
フラットバー  
(各4ヶ所)

主筋のかぶりは  
100以上とする

杭間隔は2φかつ  
φ+100以上

コンクリート面

内部欠損がないもの

2mm以下

圧接面

d5以下

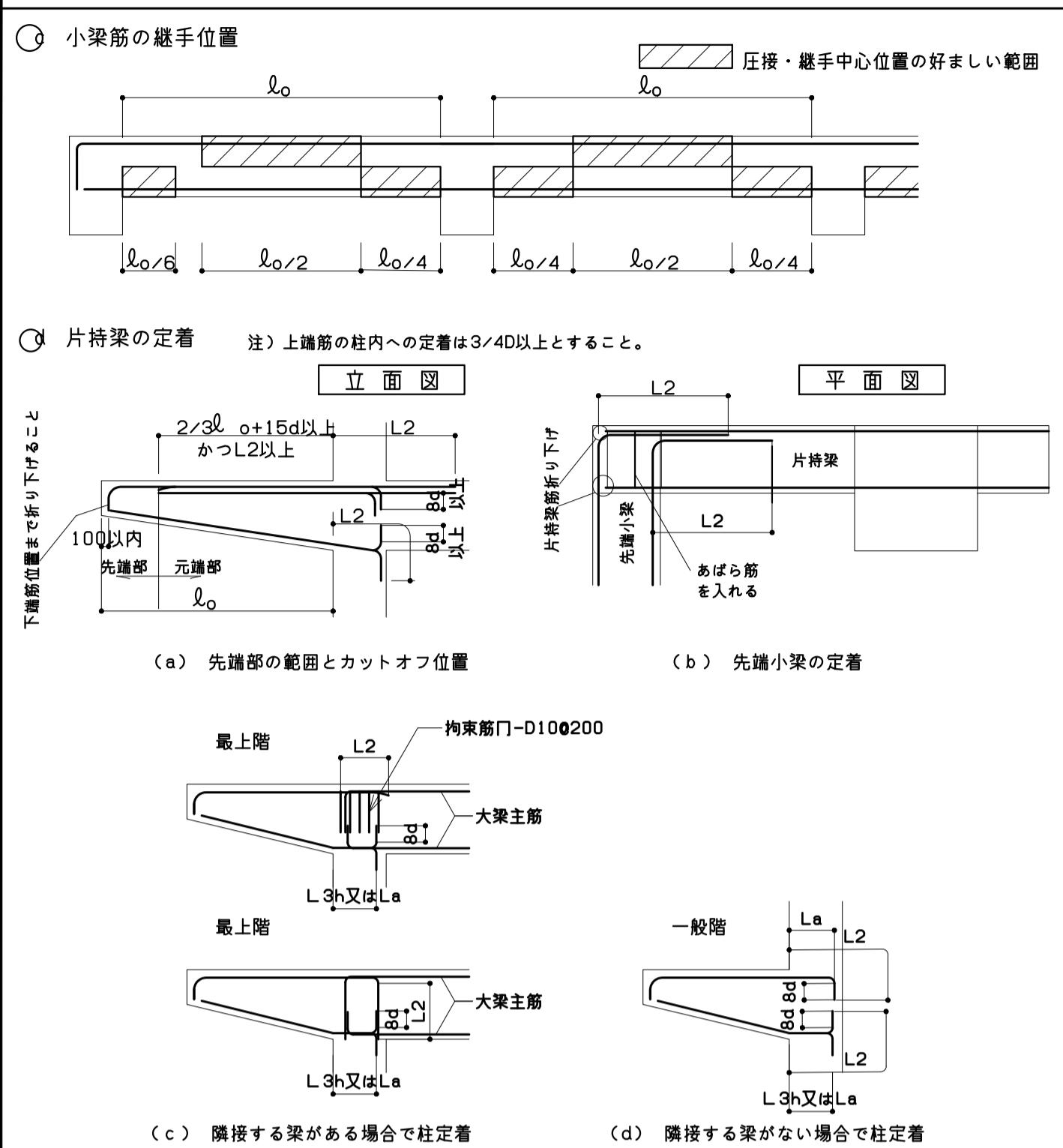
1.1d以上 (1.2d) \*

( ) 内はSD490の場合

1.1d以上



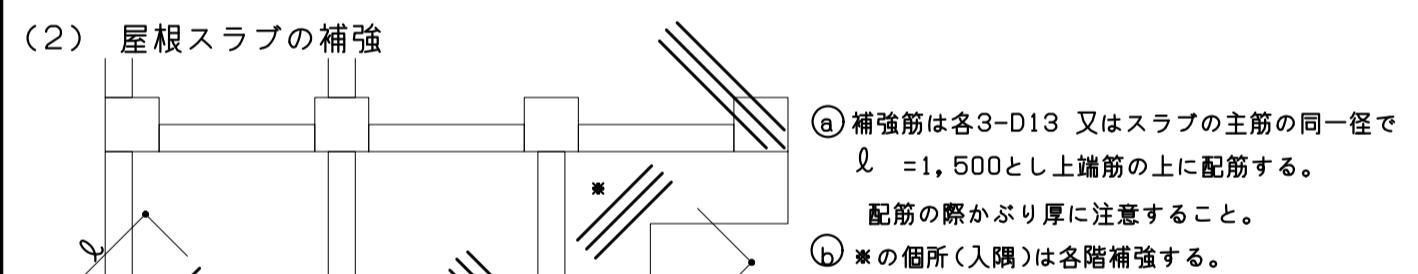
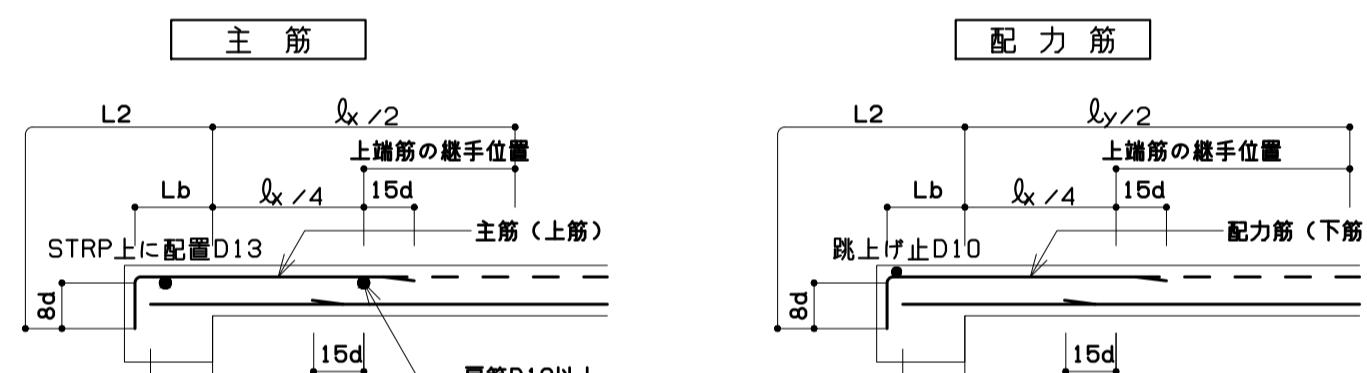
### 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)



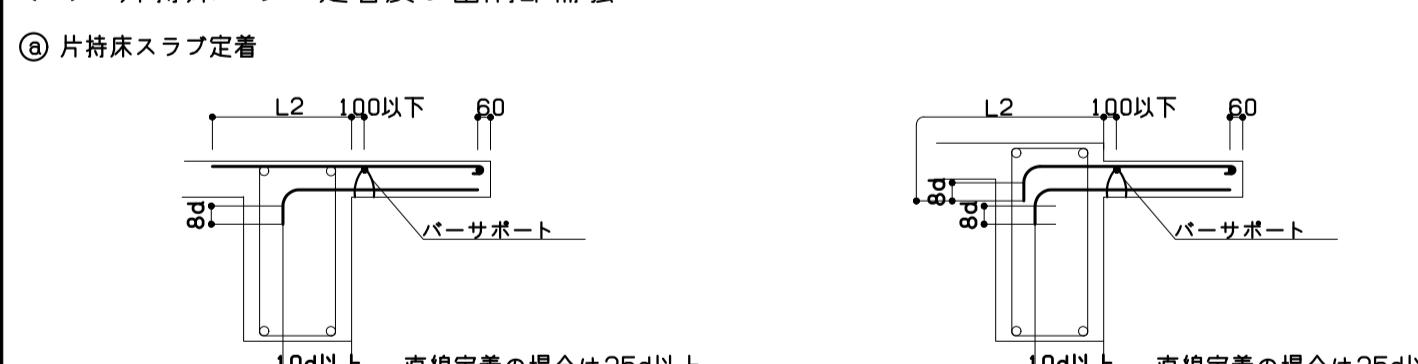
### 8. 床板

#### (1) 定着および継手

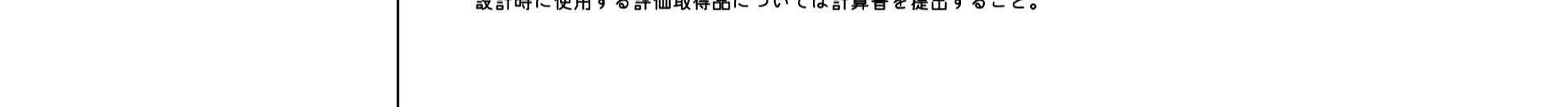
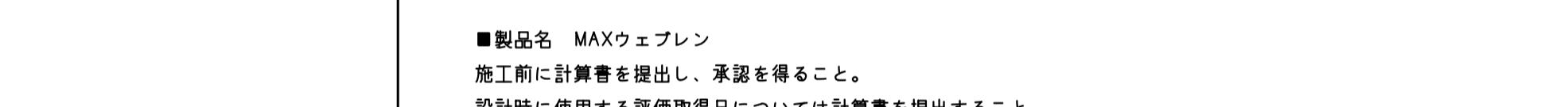
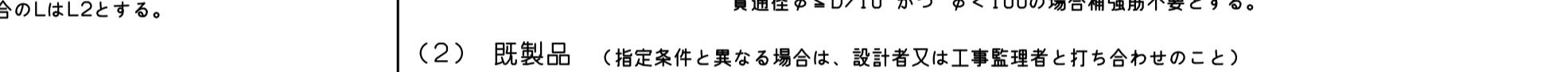
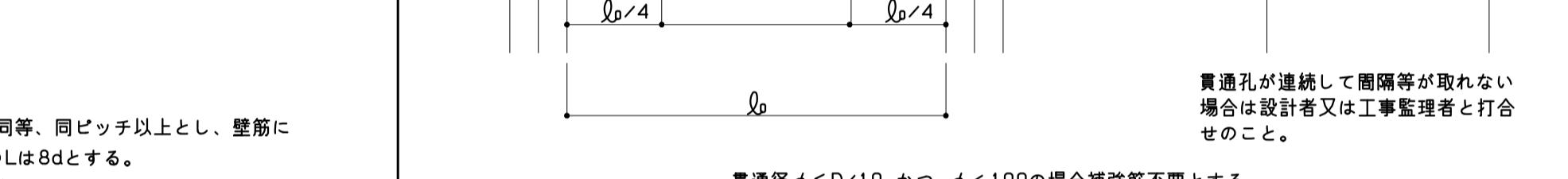
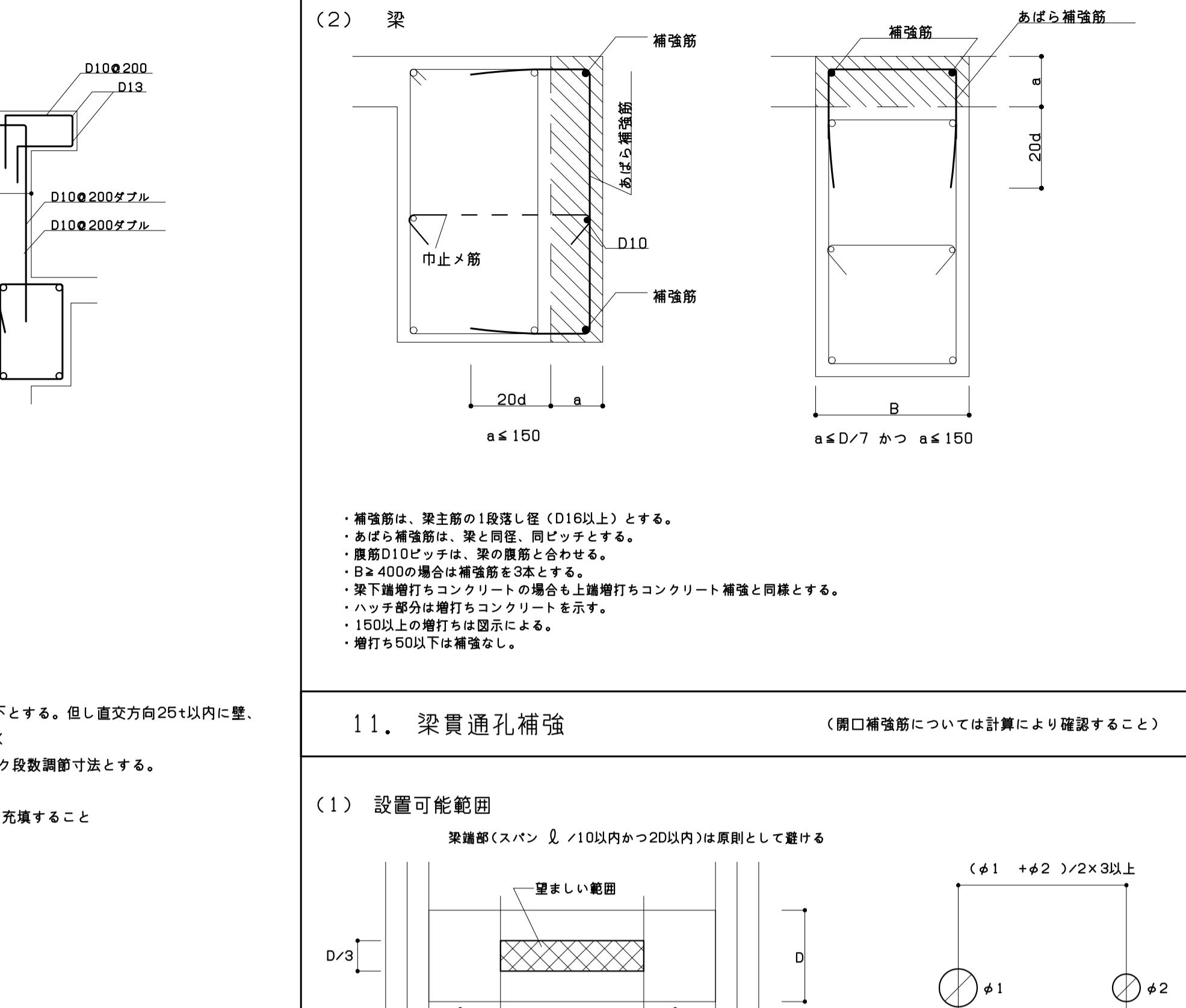
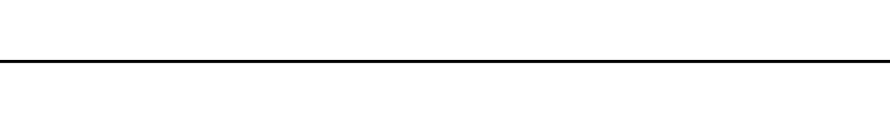
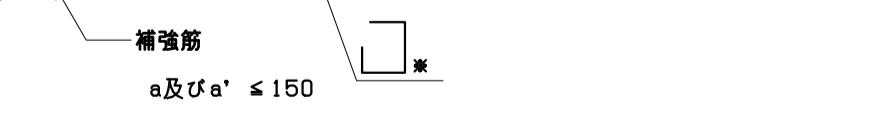
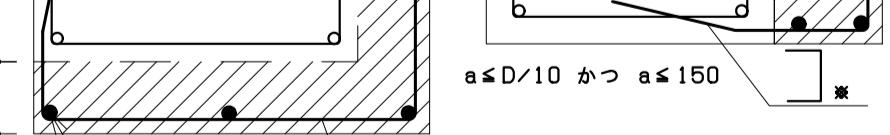
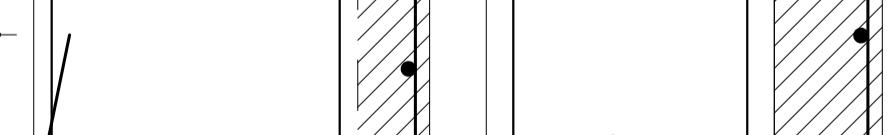
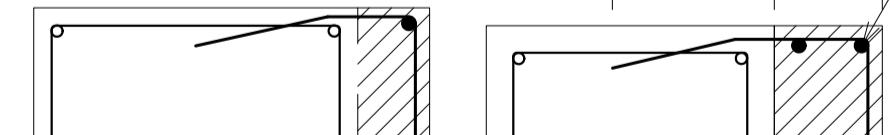
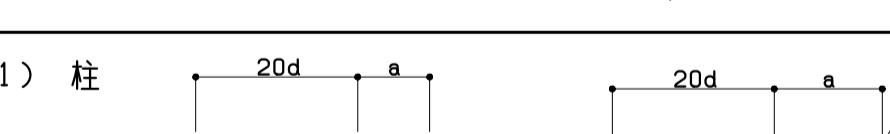
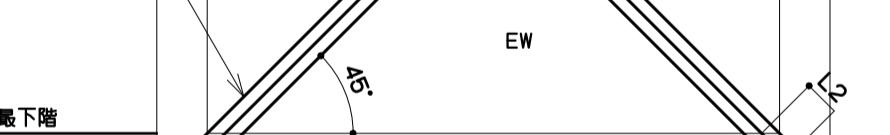
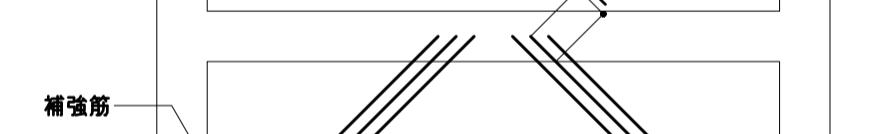
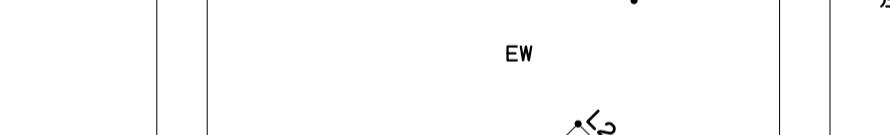
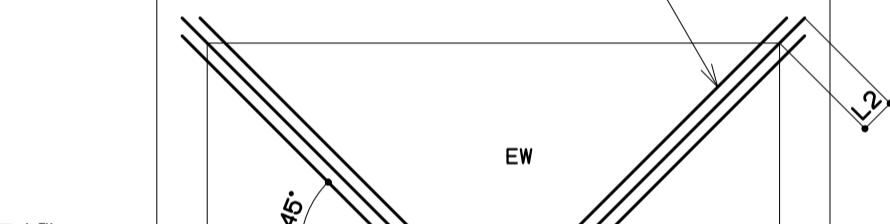
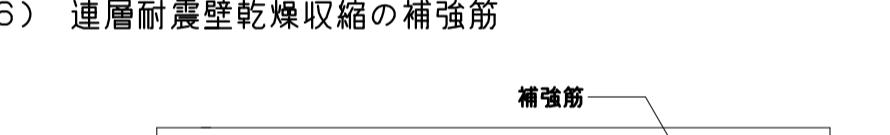
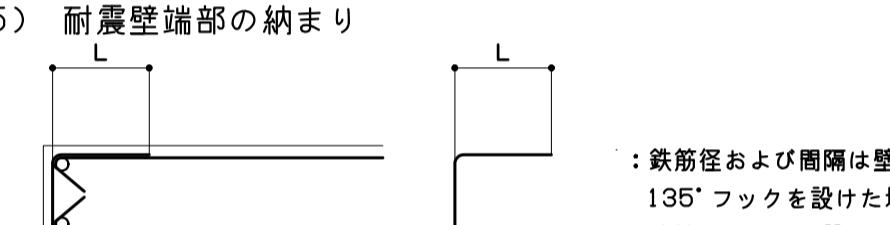
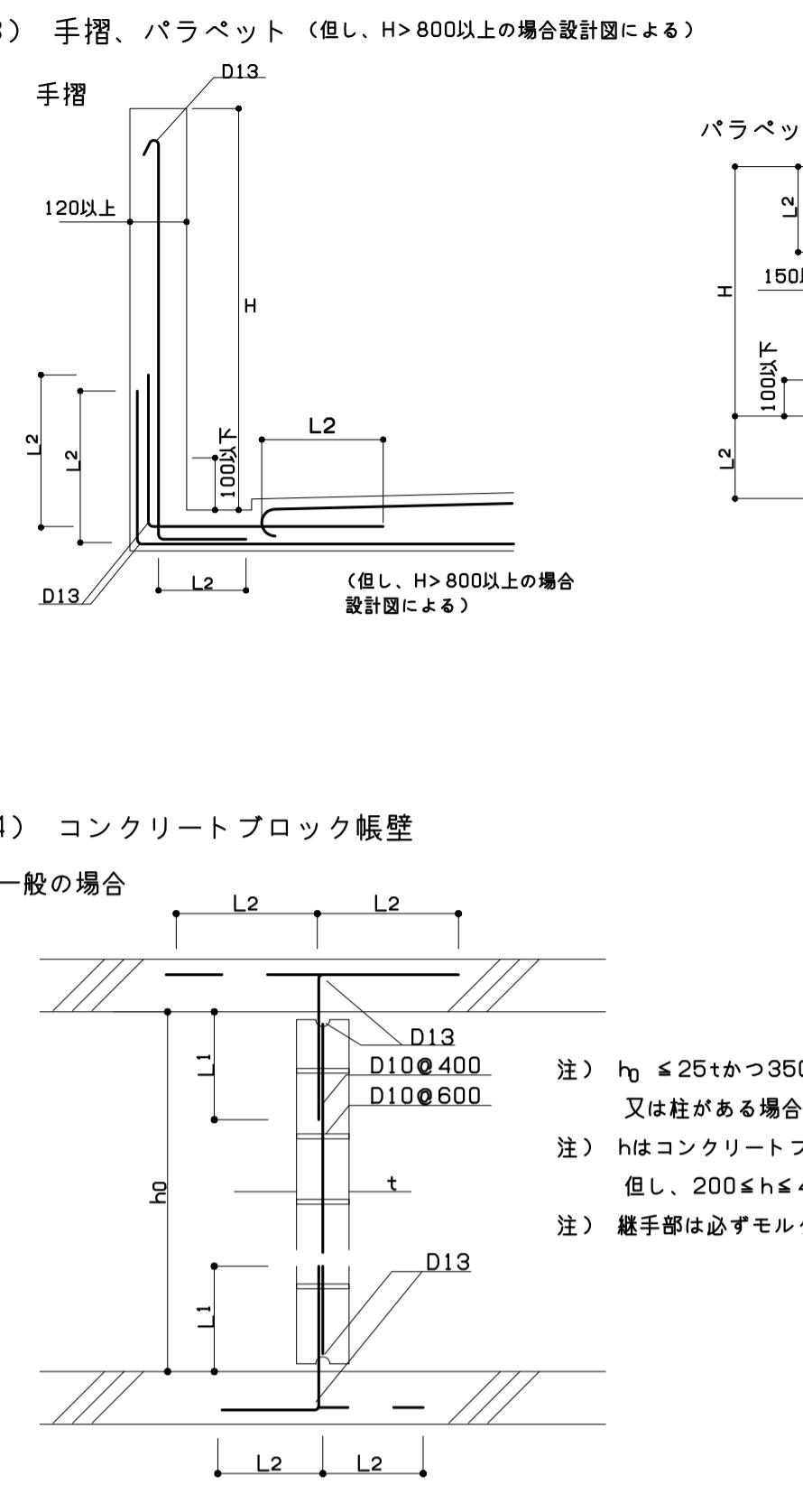
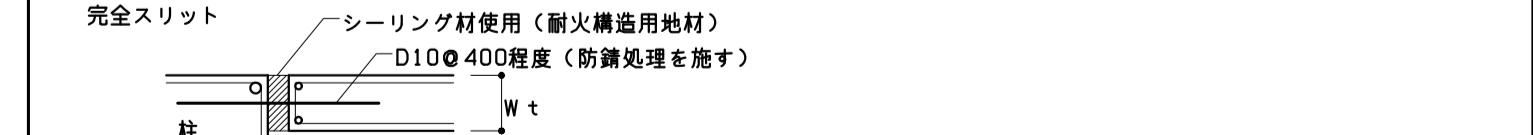
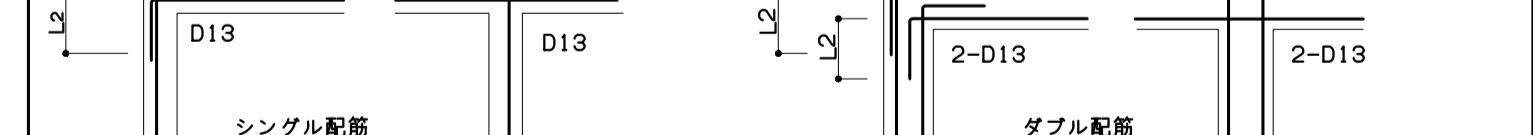
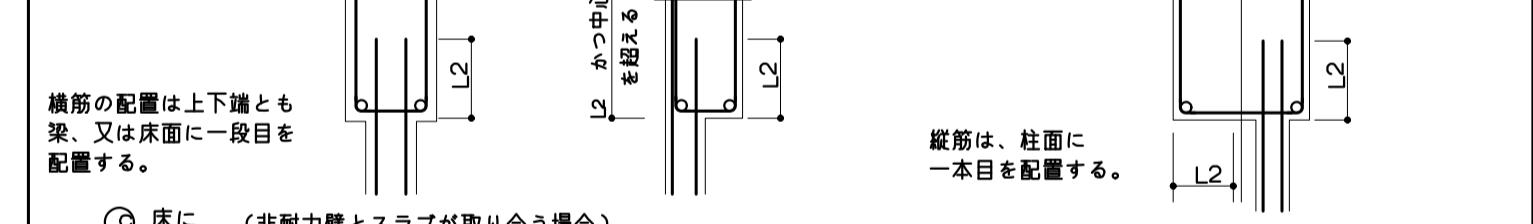
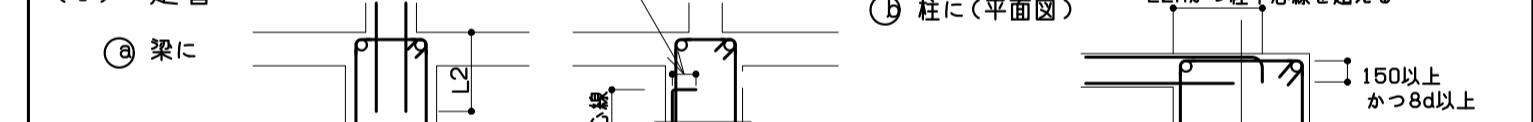
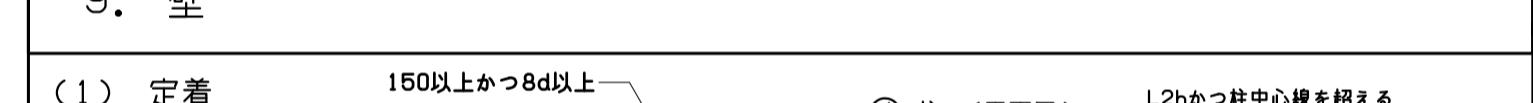
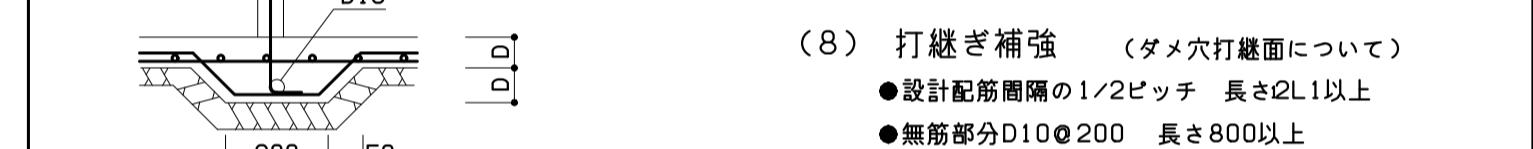
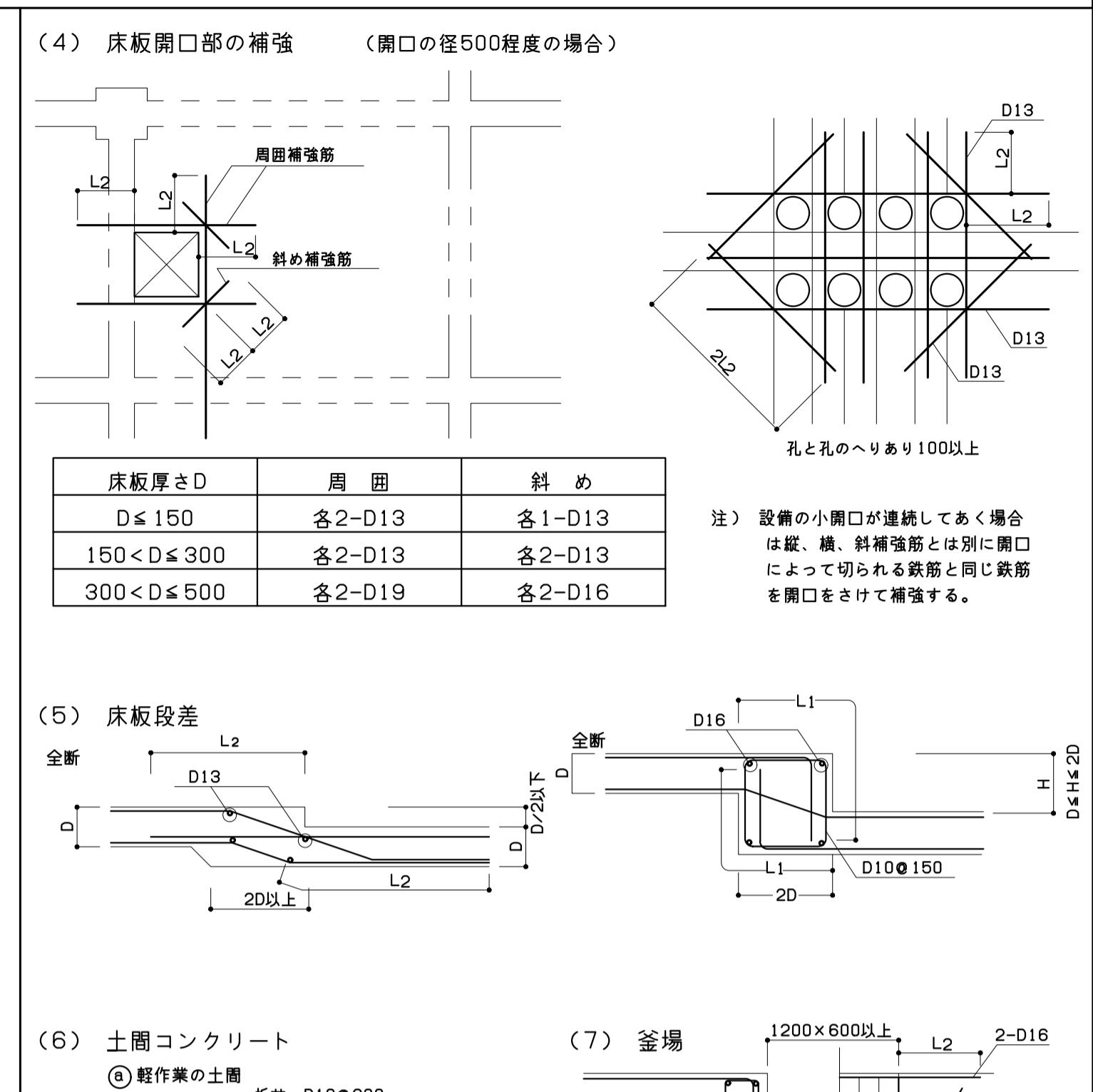
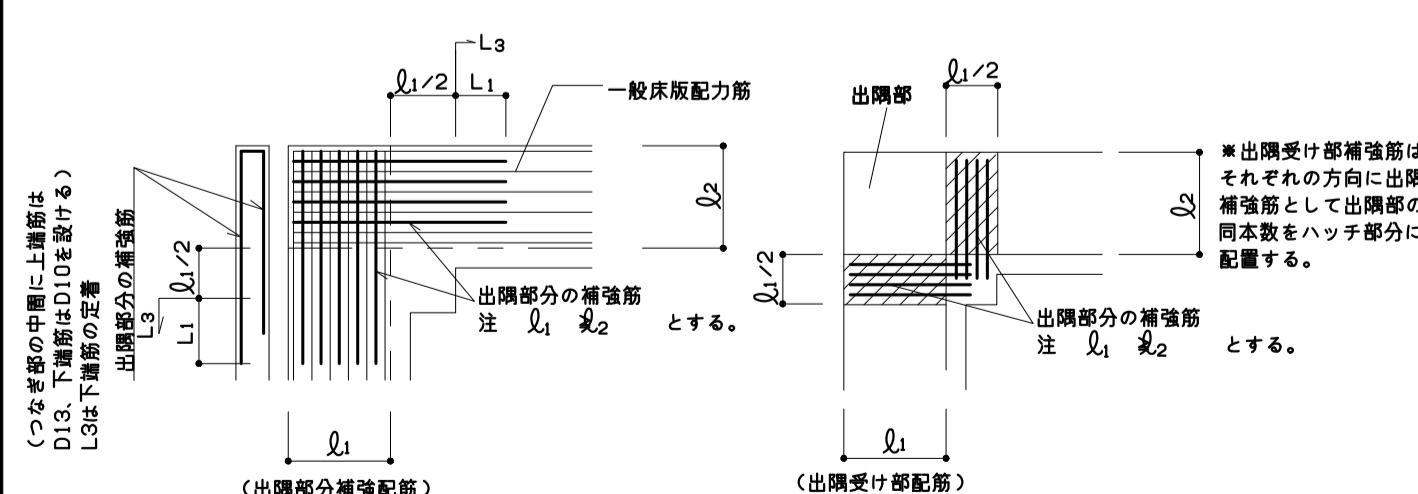
一般床スラブ(四辺固定)

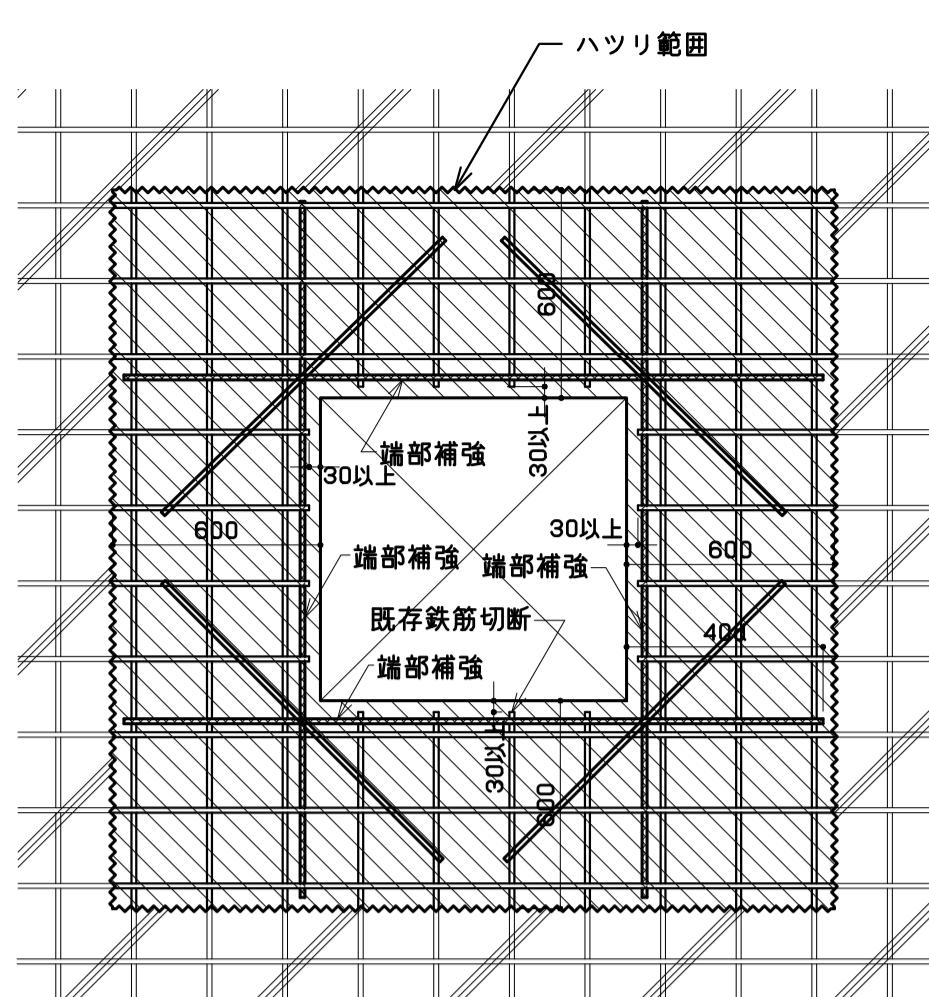


#### (3) 片持床スラブ定着及び出隅部補強

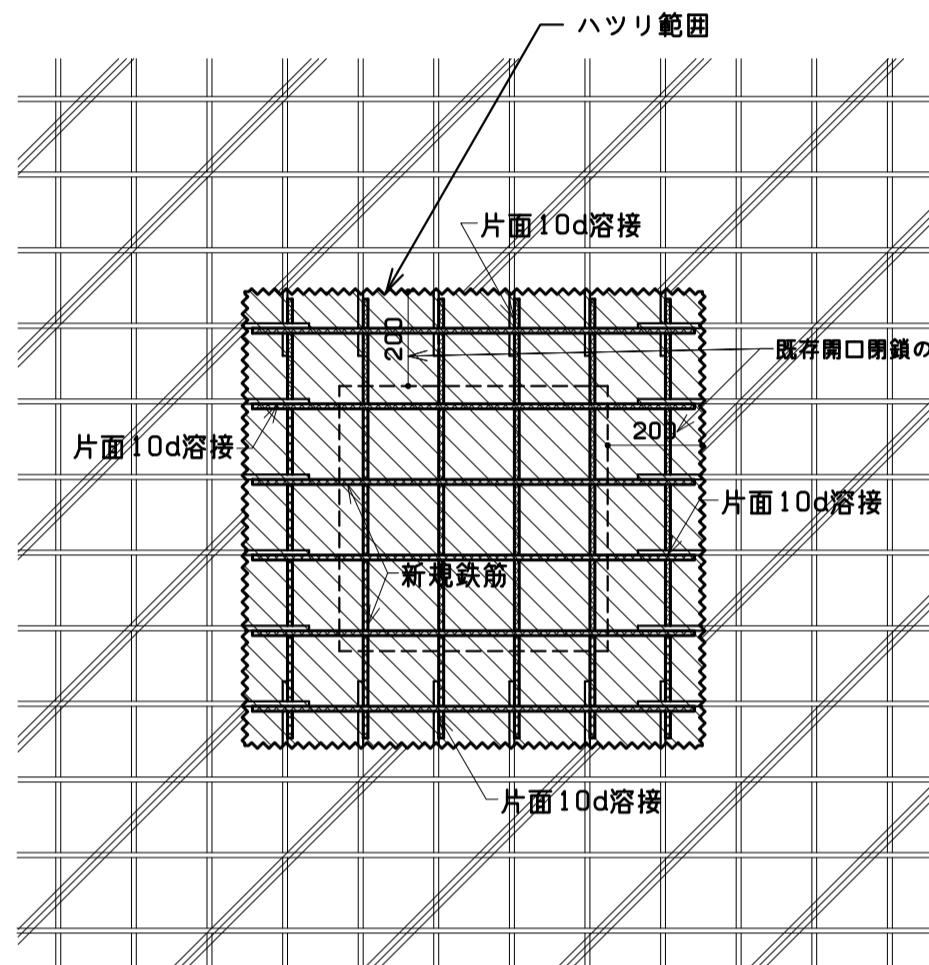


#### (4) 片持スラブ出隅部補強

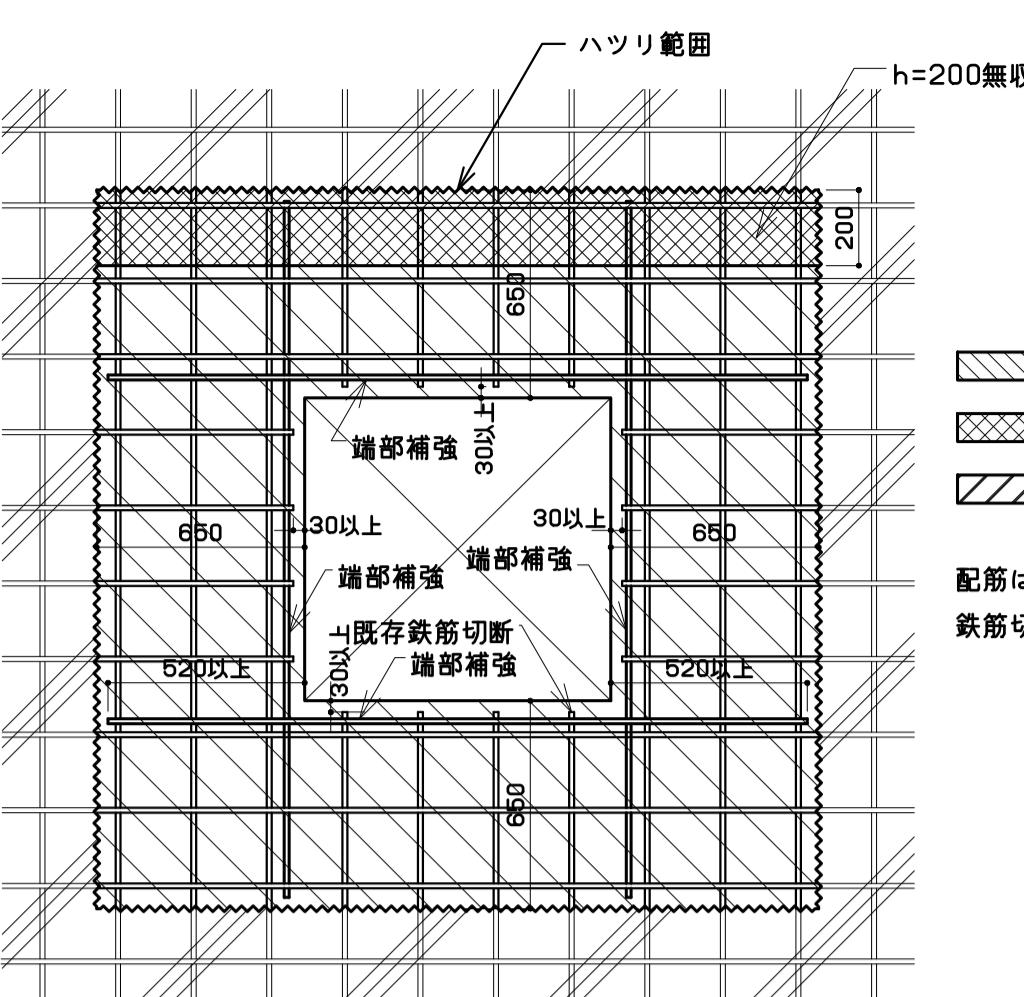




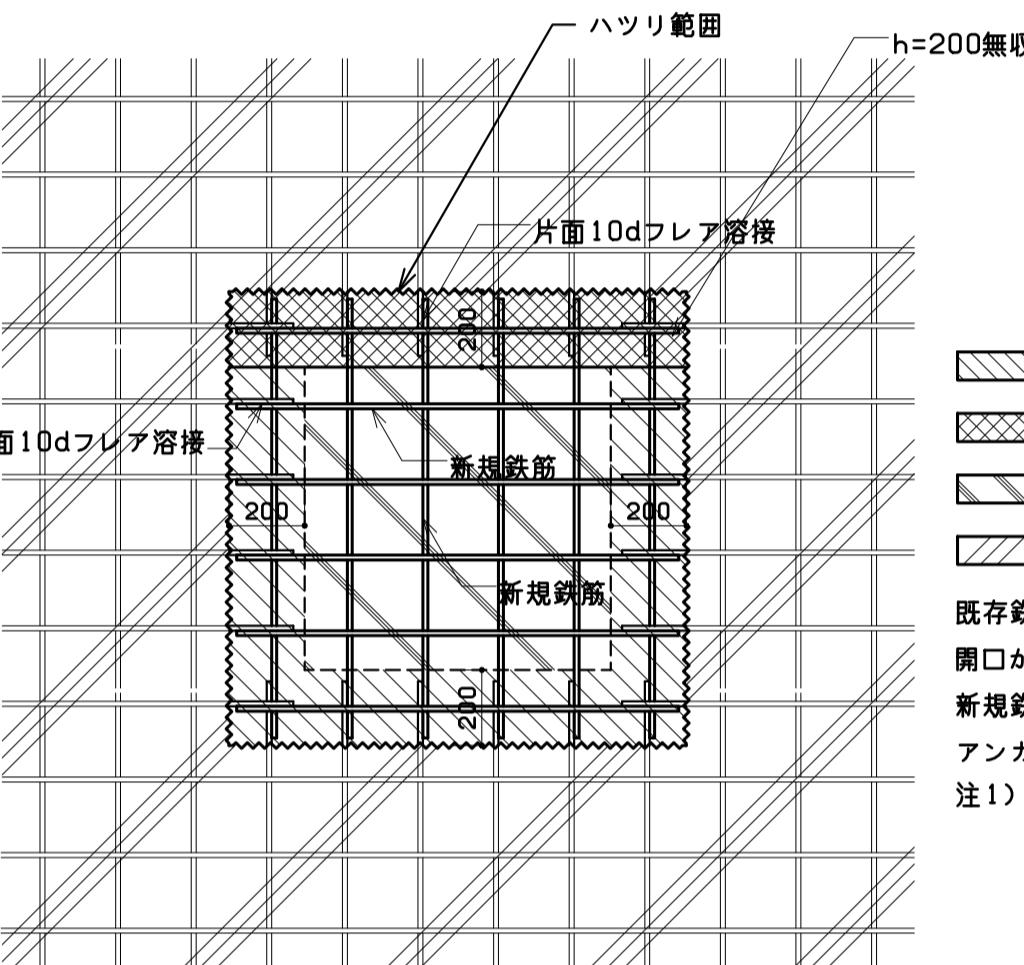
既存スラブ 開口新設



既存スラブ 撤去復旧

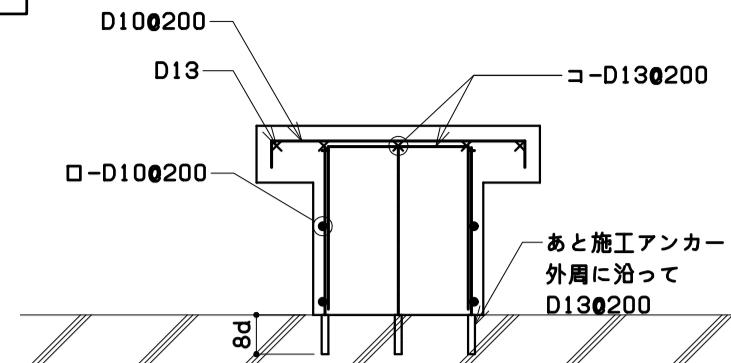


既存壁開口新設標準



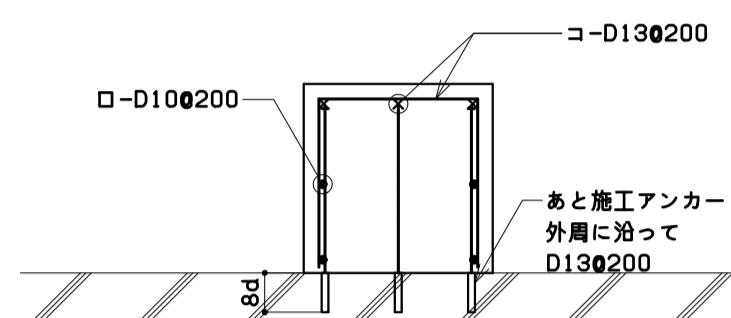
既存壁撤去復旧標準

既存躯体と機械基礎新設



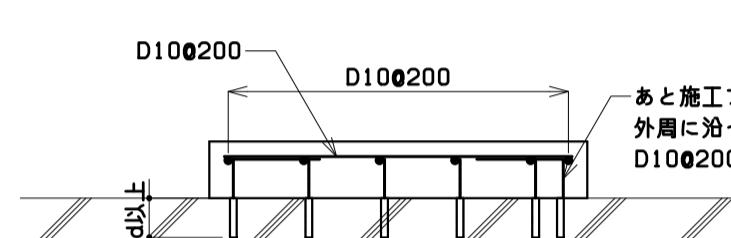
げた型機械基礎（防水仕様）

特記なきあと施工アンカーは、接着系アンカー（カプセル型）



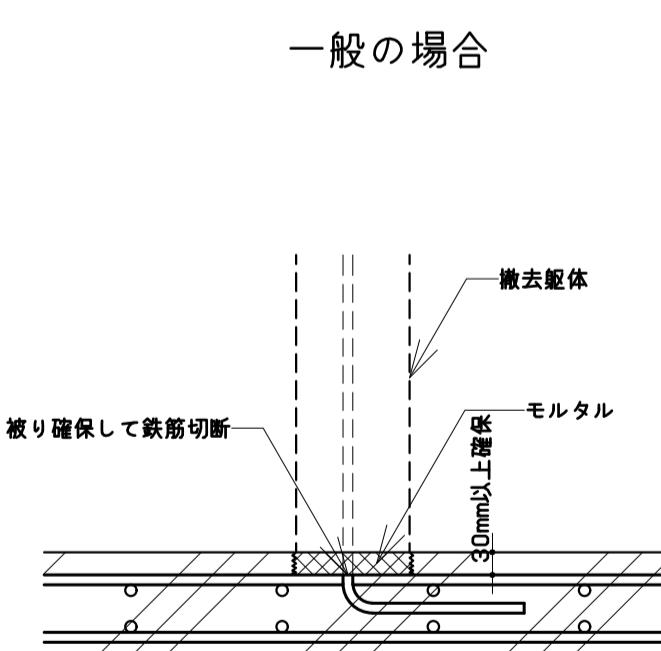
げた型機械基礎

特記なきあと施工アンカーは、接着系アンカー（カプセル型）

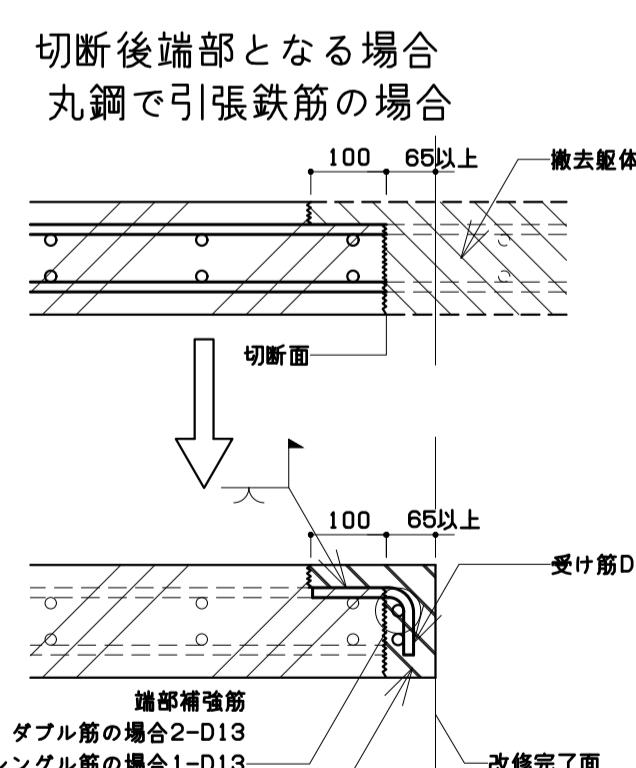


べた型機械基礎

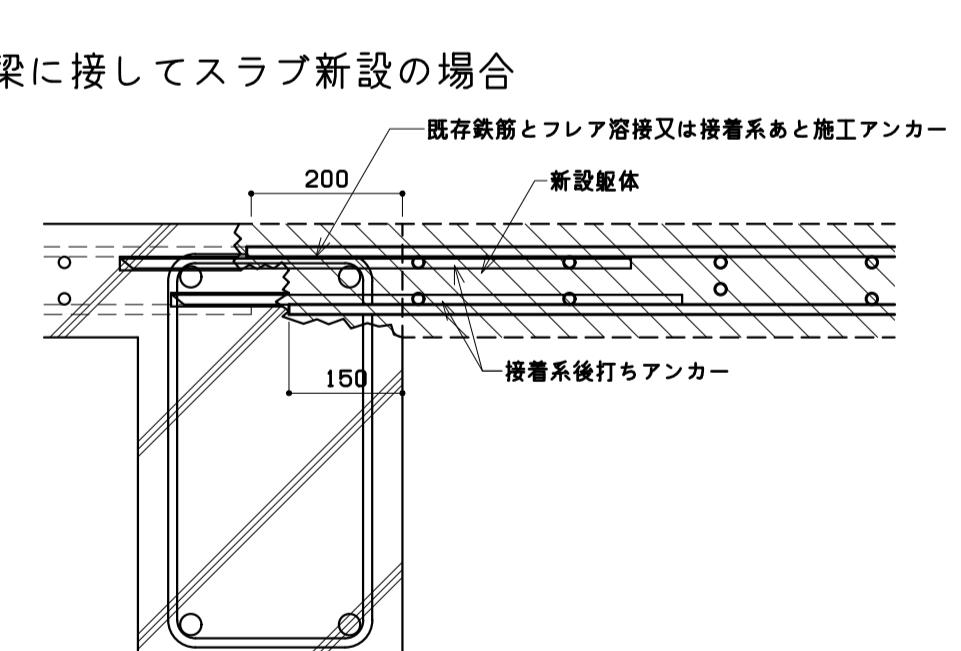
特記なきあと施工アンカーは、金属系アンカー



一般の場合



切断後端部となる場合  
丸鋼で引張鉄筋の場合



梁に接してスラブ新設の場合

既存スラブ・壁の撤去後の既存鉄筋の防護のため、上図のように既存鉄筋の被りが30mm以上確保する。

端部補強筋は既存躯体に同径、同本数の接着系アンカーで定着をとること。

撤去後処理

既存スラブ・壁撤去について共通事項

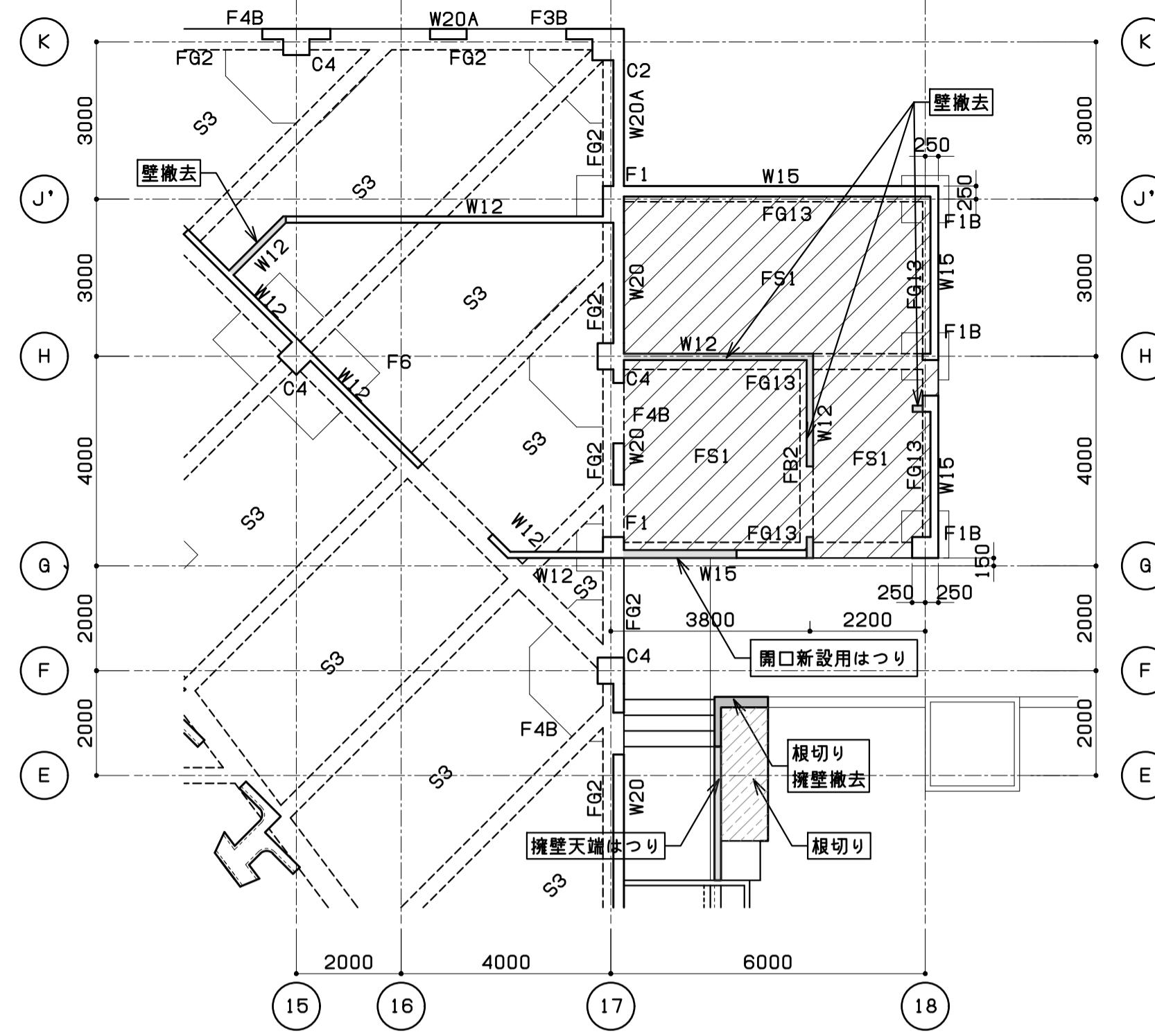
スラブ新設1

特記ある場合は特記に従う。

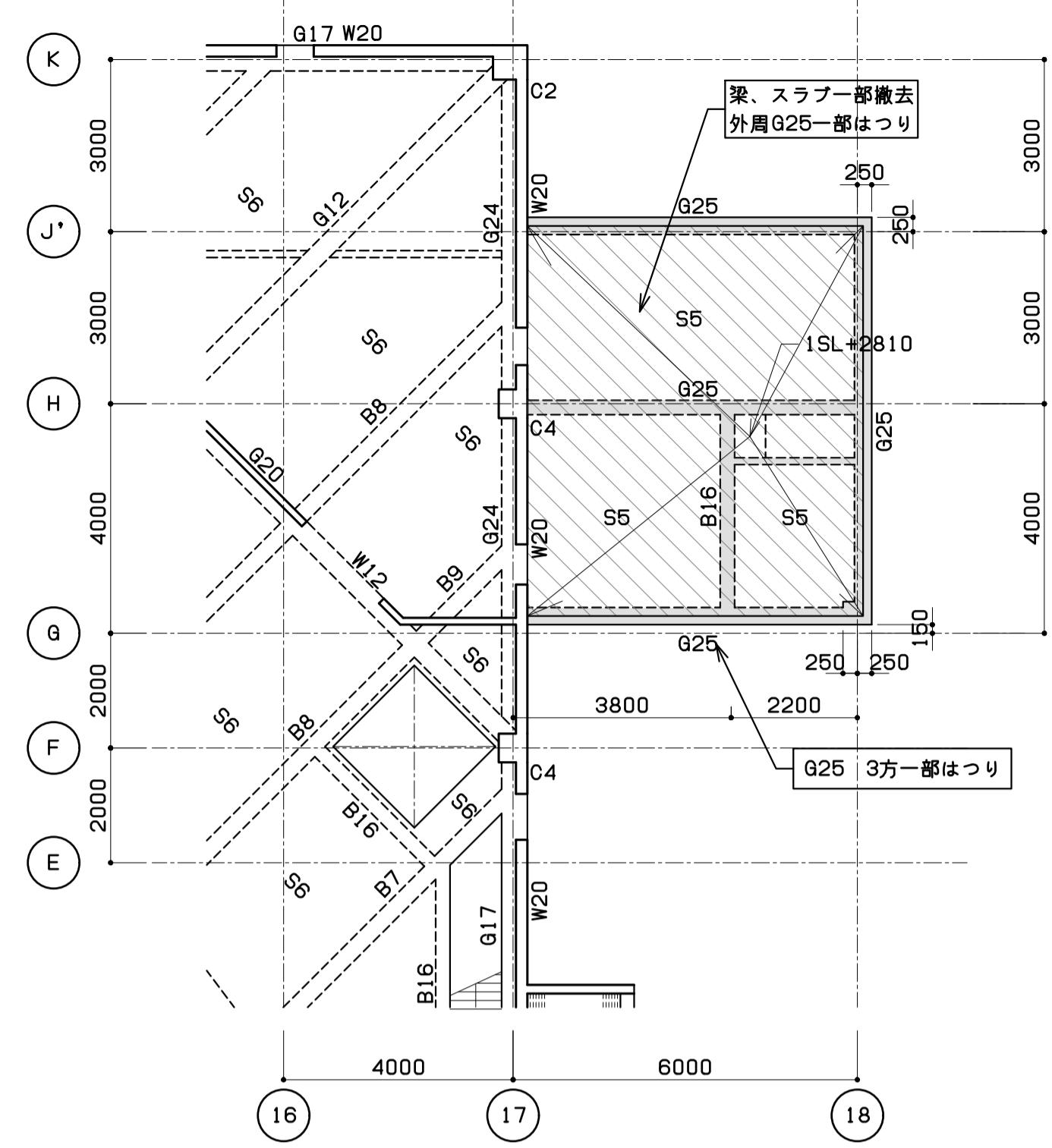
使用材料			
コンクリート	躯体一般 普通コンクリート $F_c = 24 N/mm^2$	S=18	
機械基礎	普通コンクリート $F_c = 21 N/mm^2$	S=18	
無収縮モルタル	$F_c = 30 N/mm^2$		
鉄筋	SD295 D10~D16 規格品 継ぎ手は全て重ね継ぎ手又はフレア溶接とする		
スパイラル筋	SD295 D6 規格品		
アンカー	接着系アンカー（カプセル型） D13~D16 SD295 D19以上 SD345 補強壁内に定着するアンカー筋は、ナット付き異形鋼とし、 有効定着長さは、一般部 20da 埋込み長さは、一般部 12da da：アンカー筋の呼び径		

特記なきあと施工アンカーは、接着系あと施工アンカーとしカプセル型を用いる。

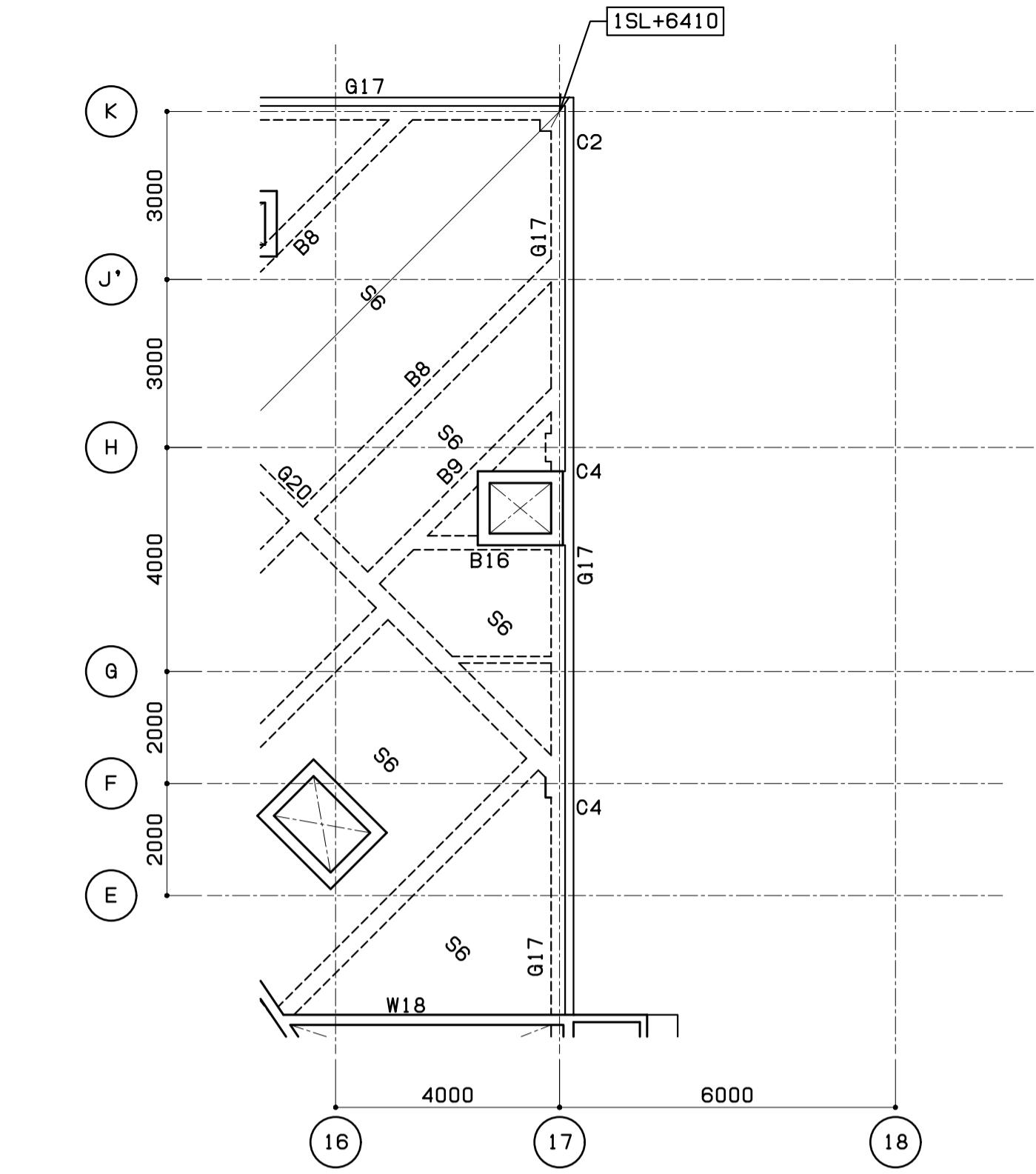
DRAWN BY Ishikawa	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 改修要領団
株式会社 林・石川構造設計事務所 一般建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(5315)0275	S-006	検査 株式会社 前川建築設計事務所 一般建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(3361)7101 一般建築士 国土交通大臣登録第94270号 様本	担当 S-NON



1階伏図(撤去)



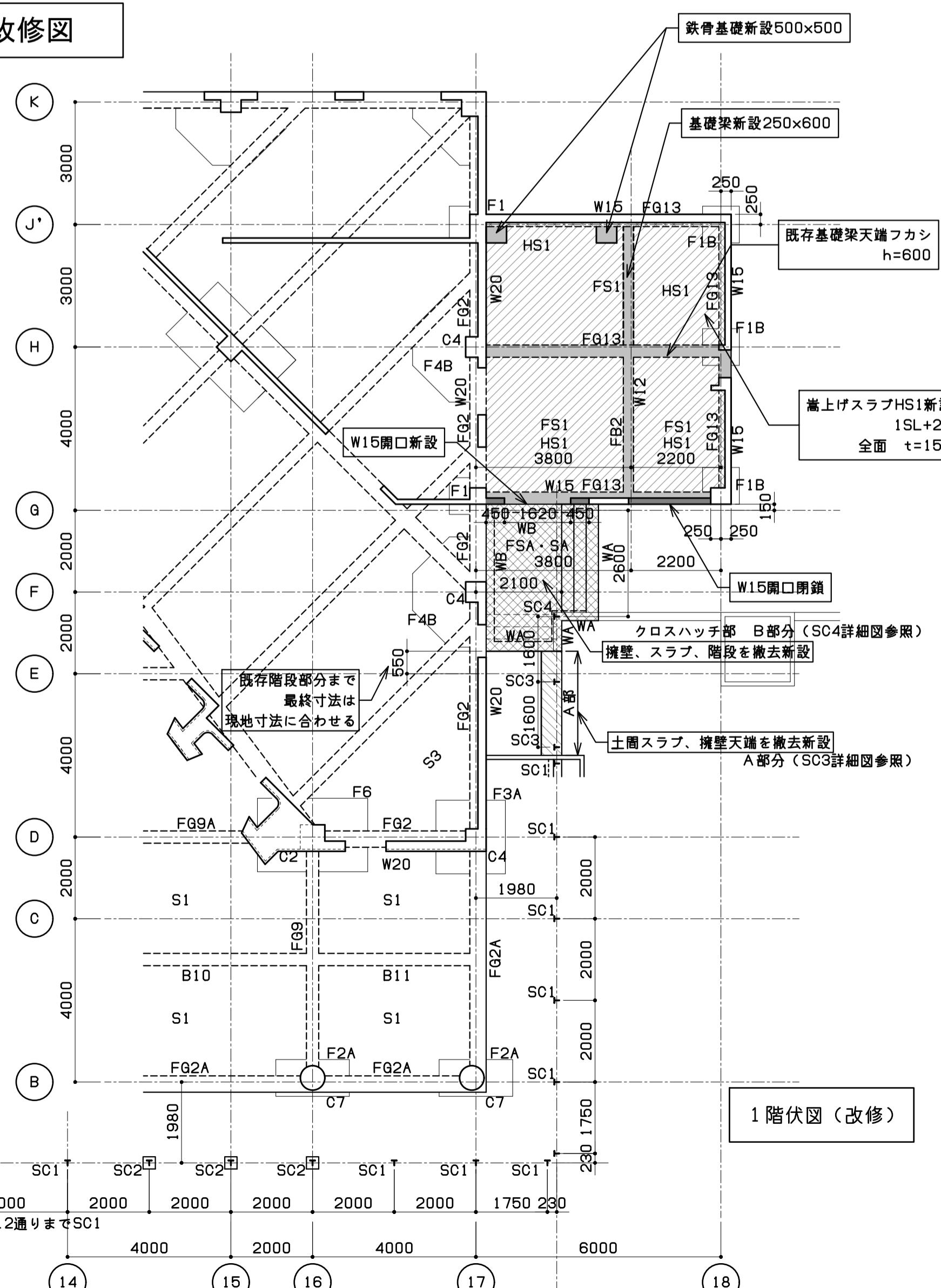
M2階伏図(撤去)



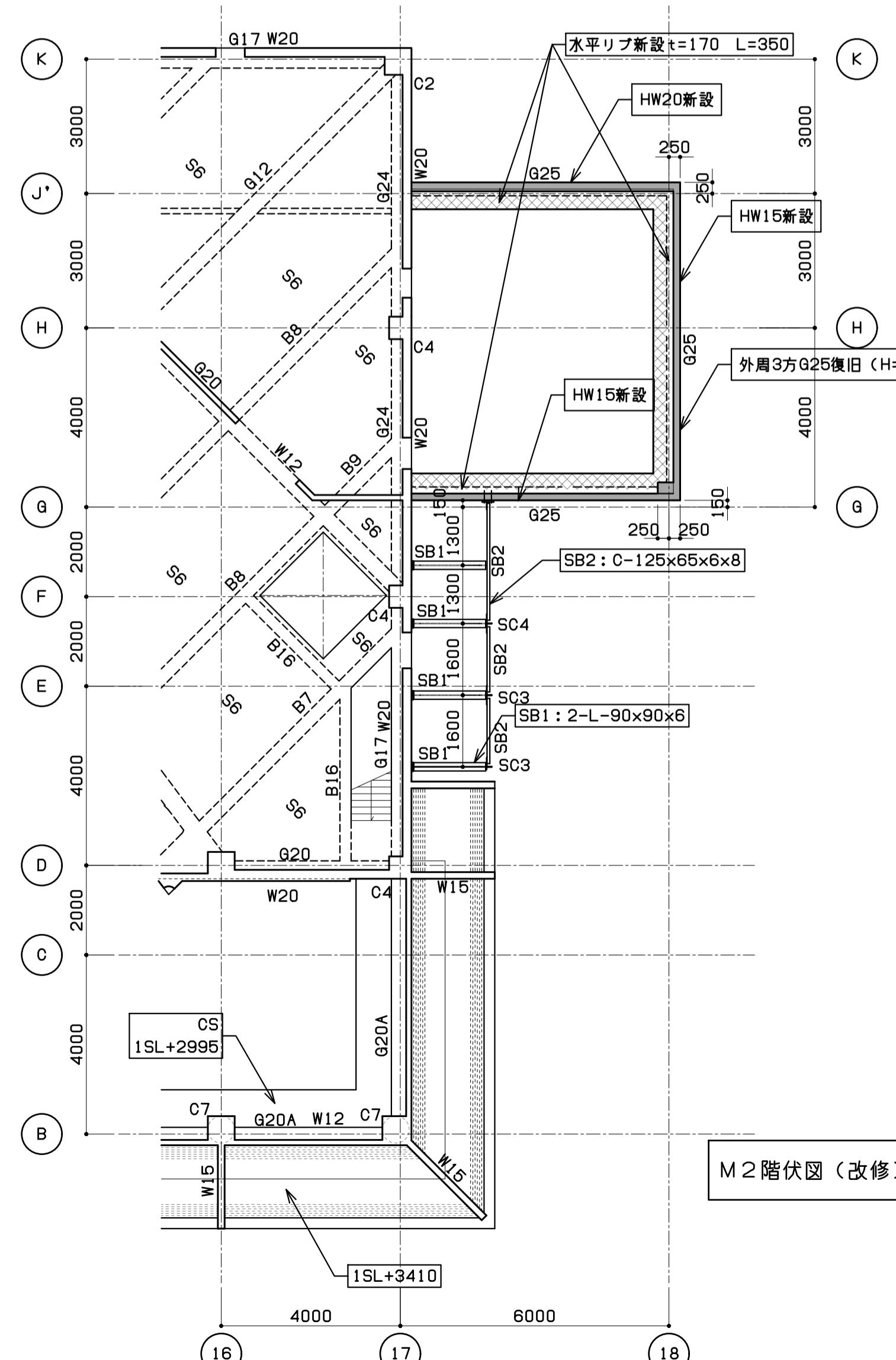
R2階伏図(撤去)

## 撤去図

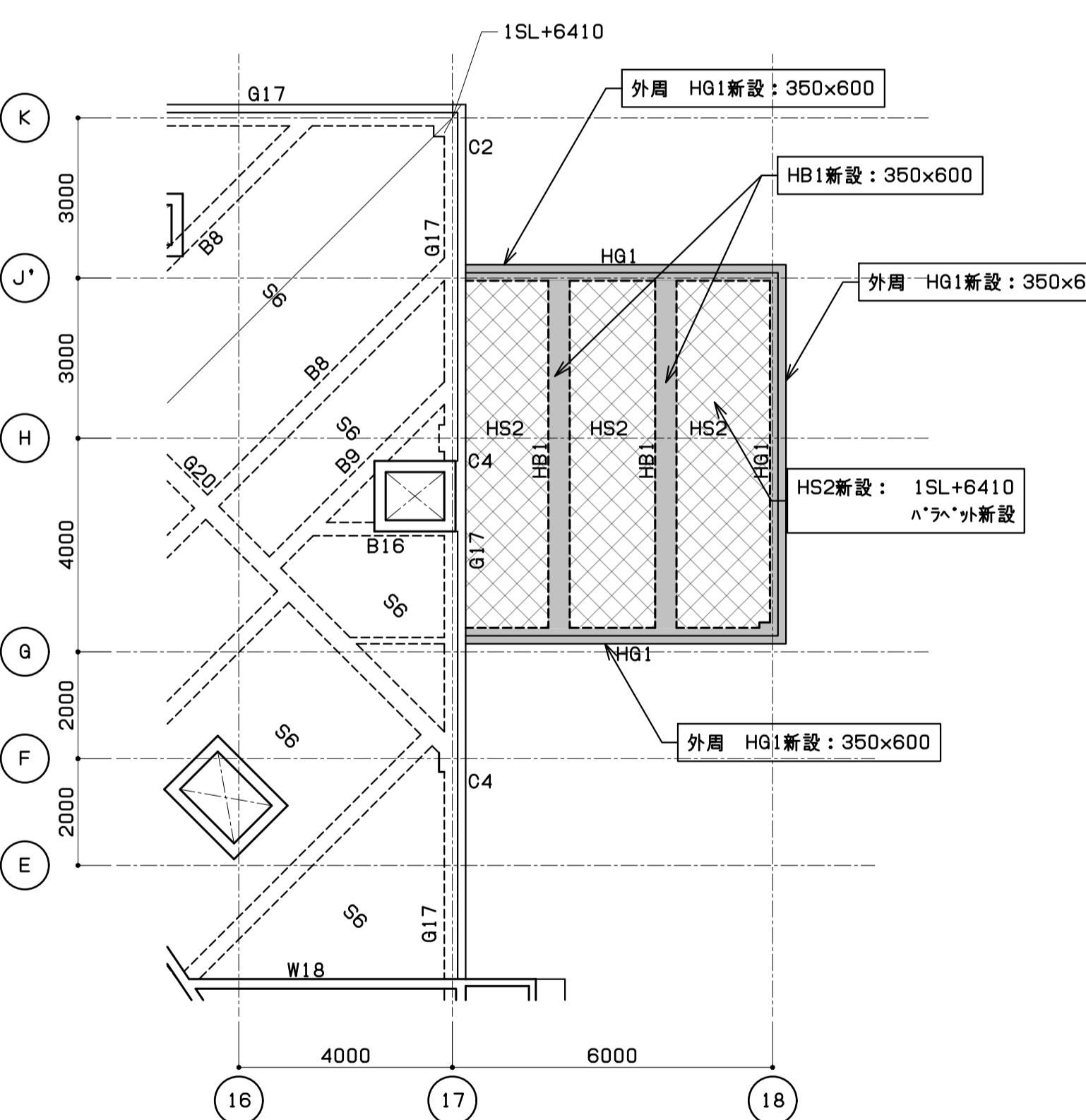
## 改修図



1階伏図(改修)

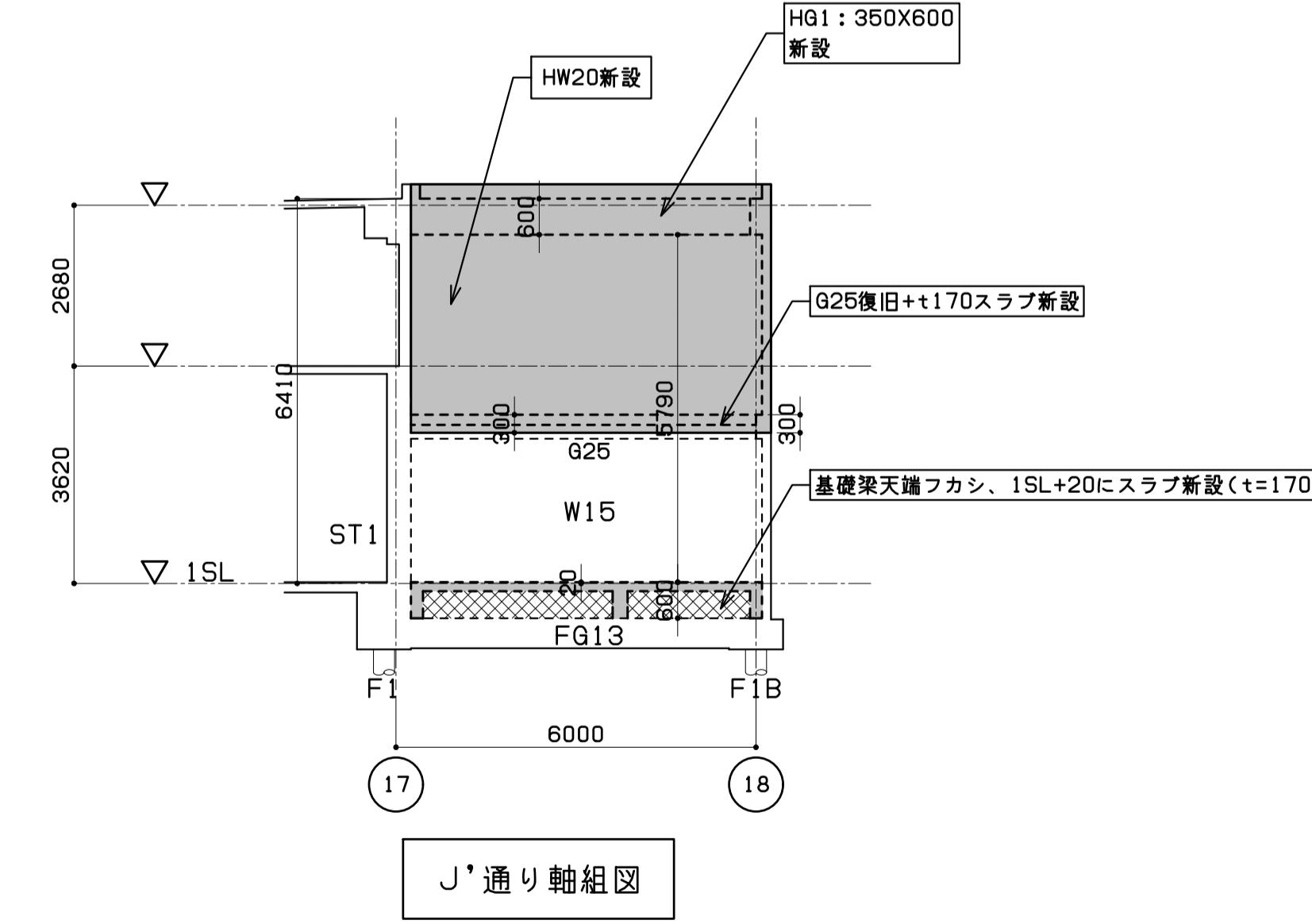
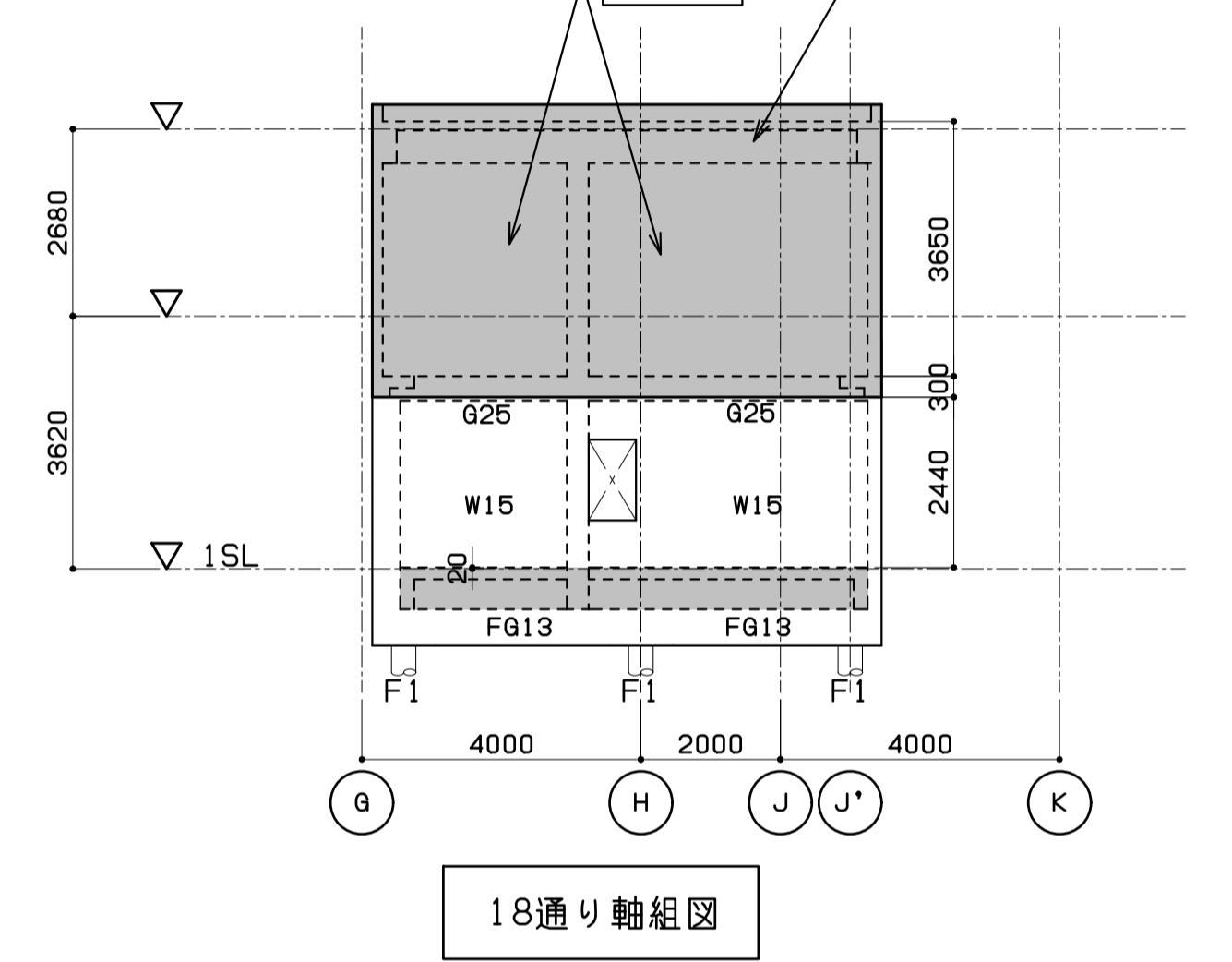
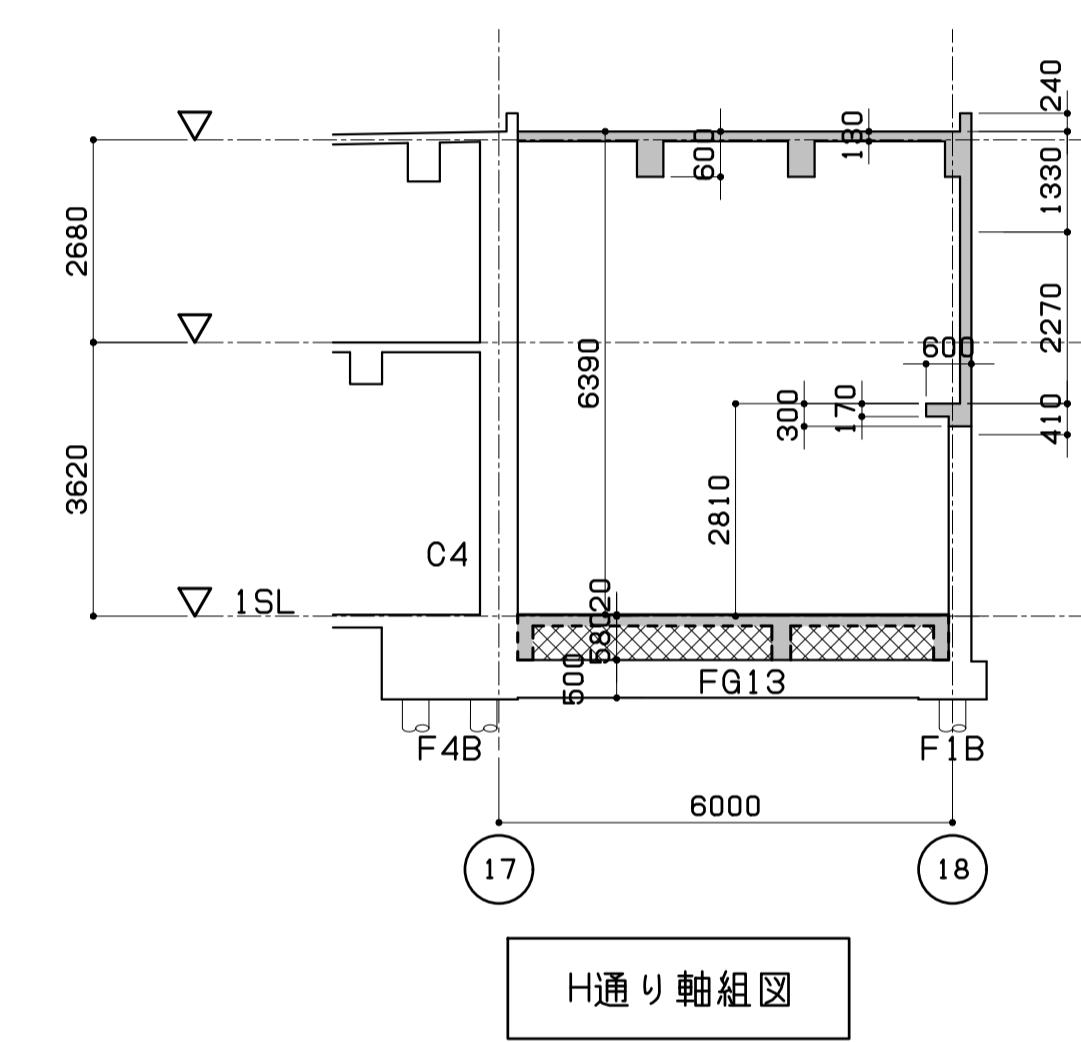
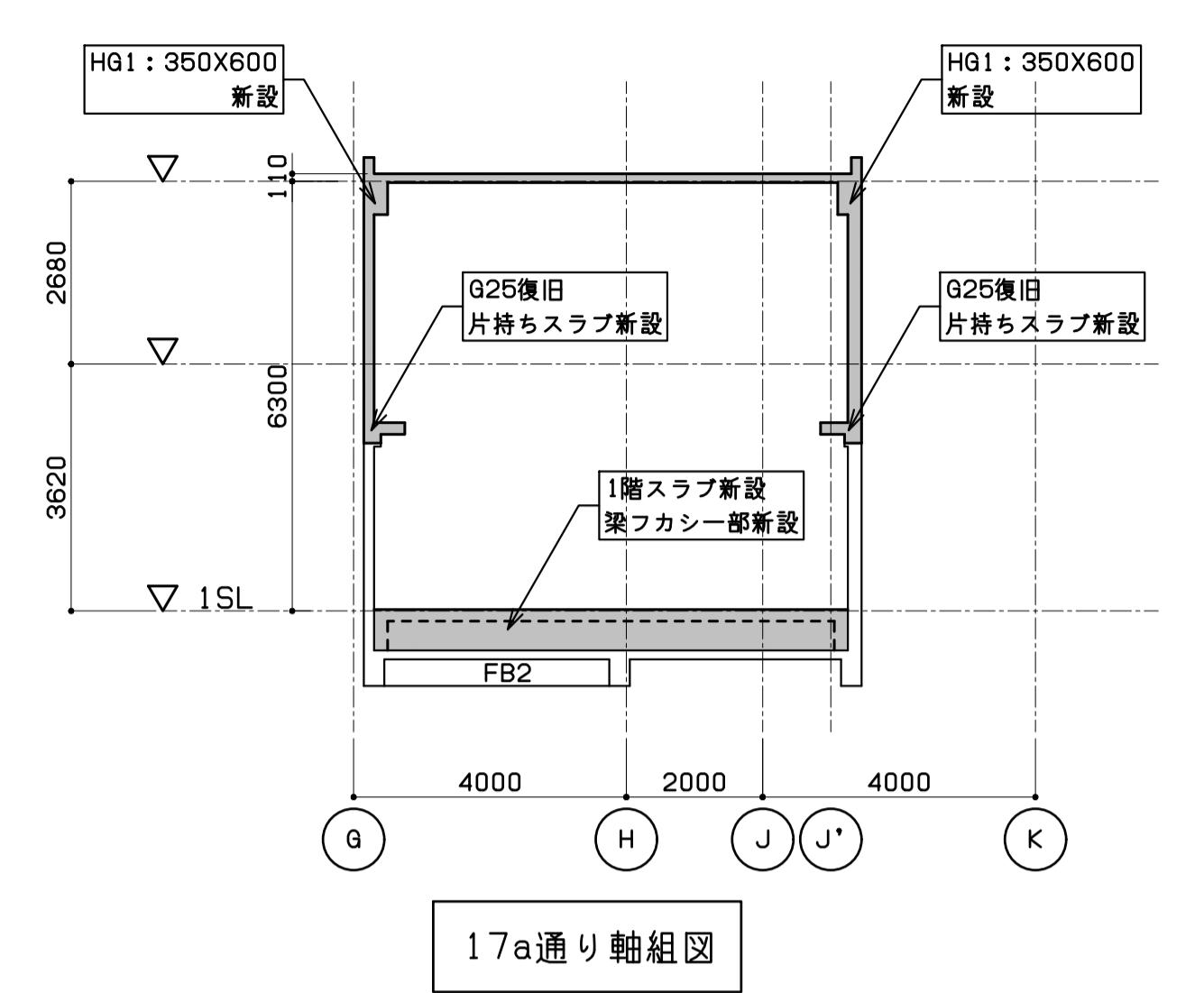
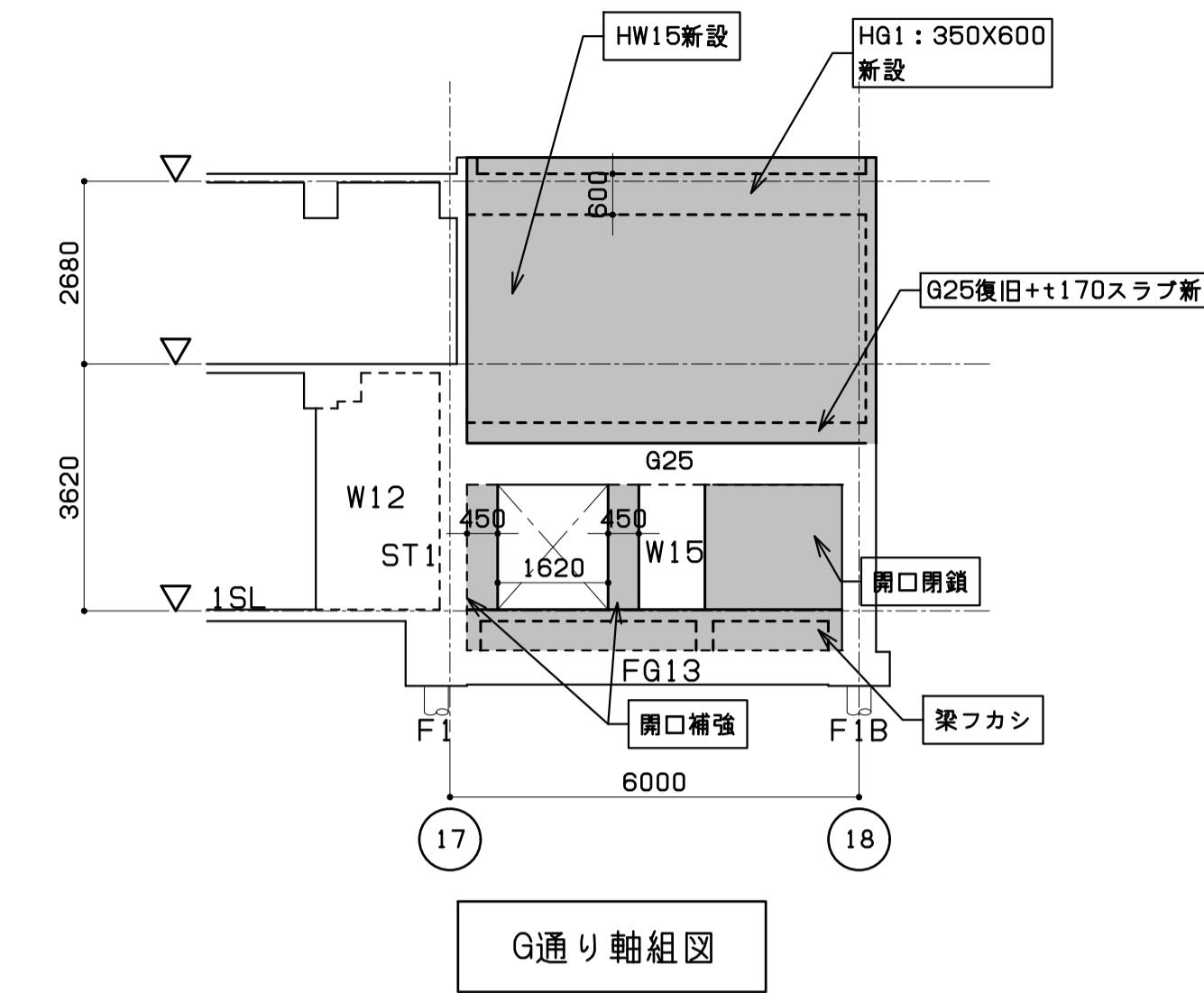
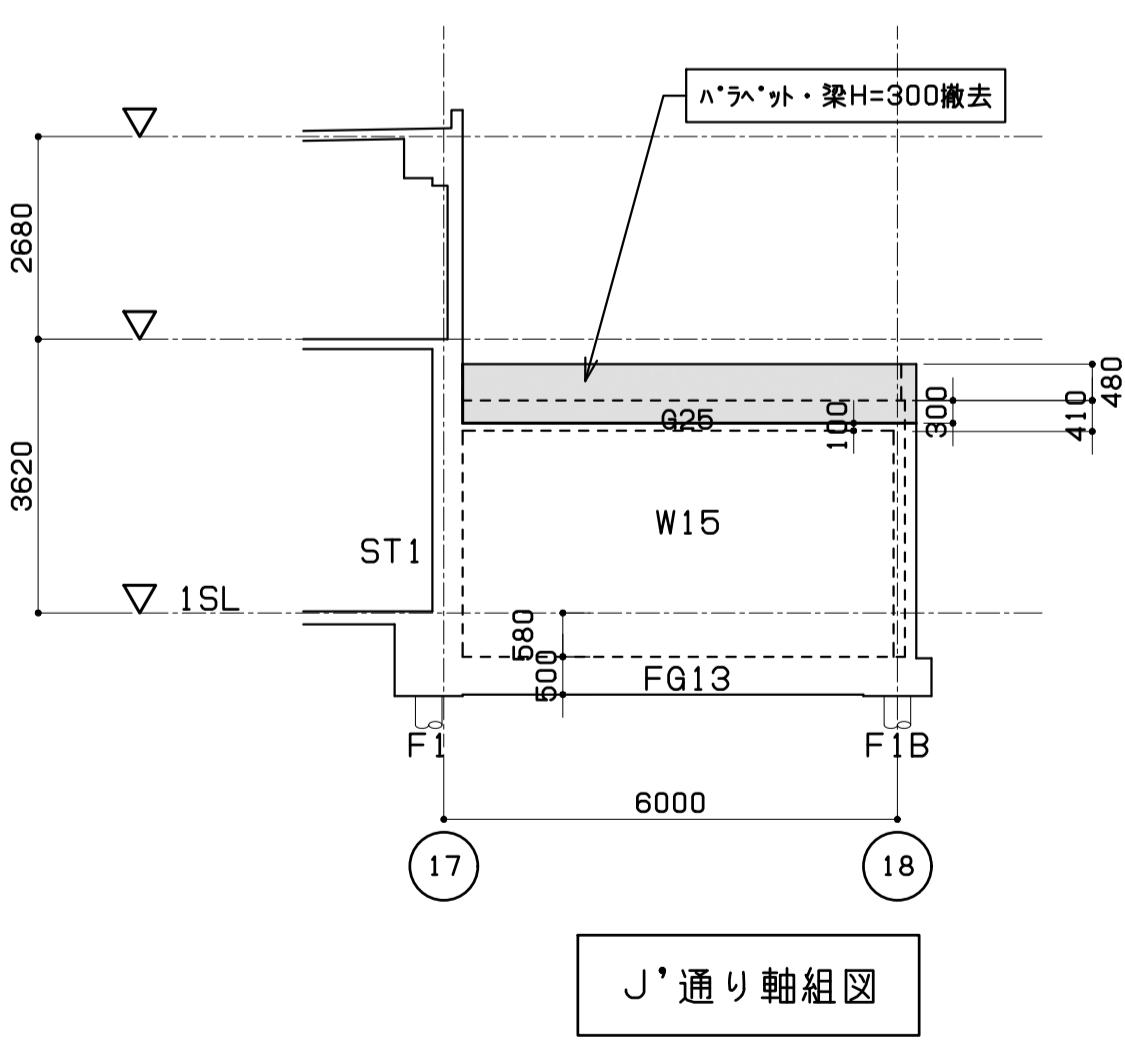
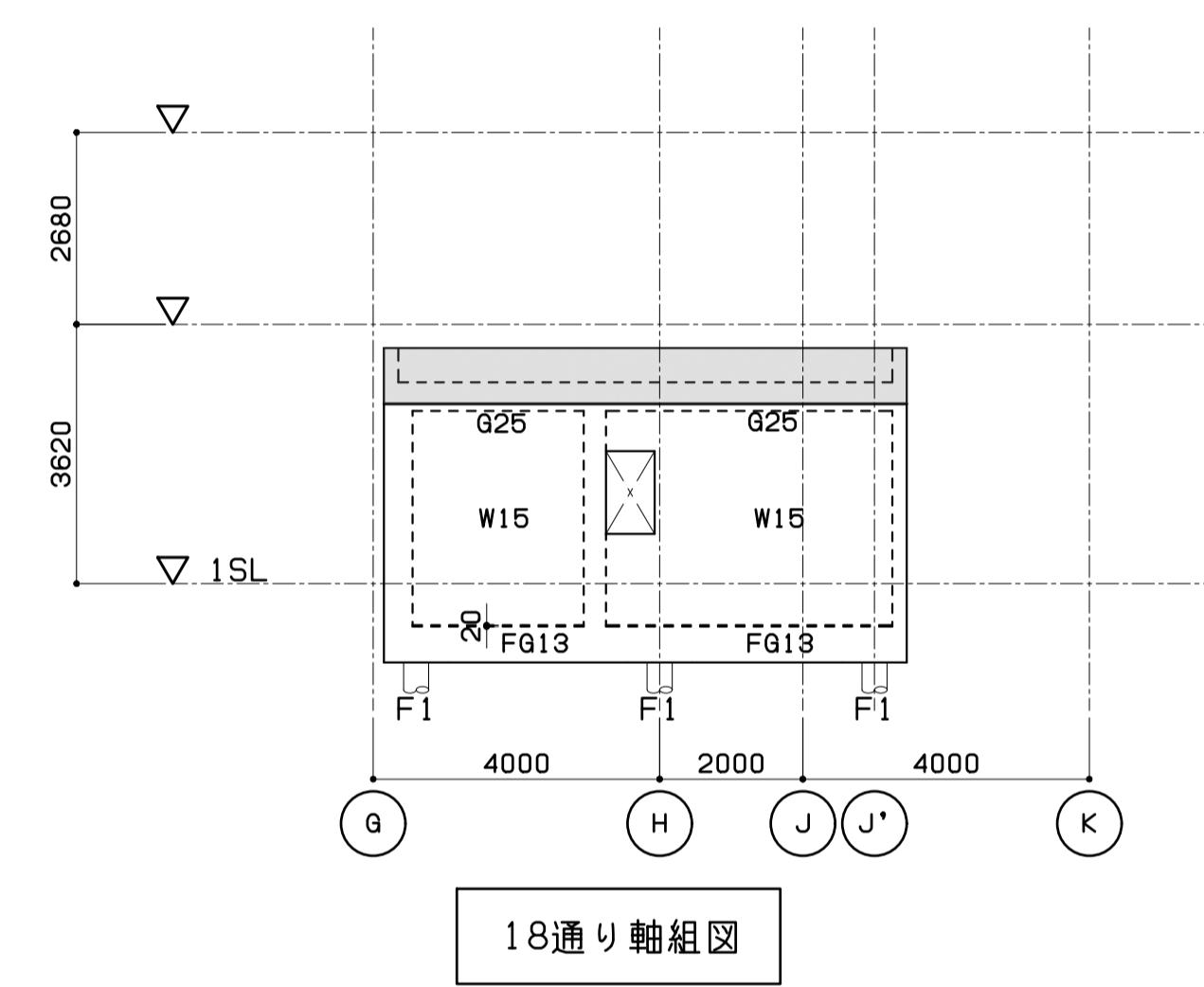
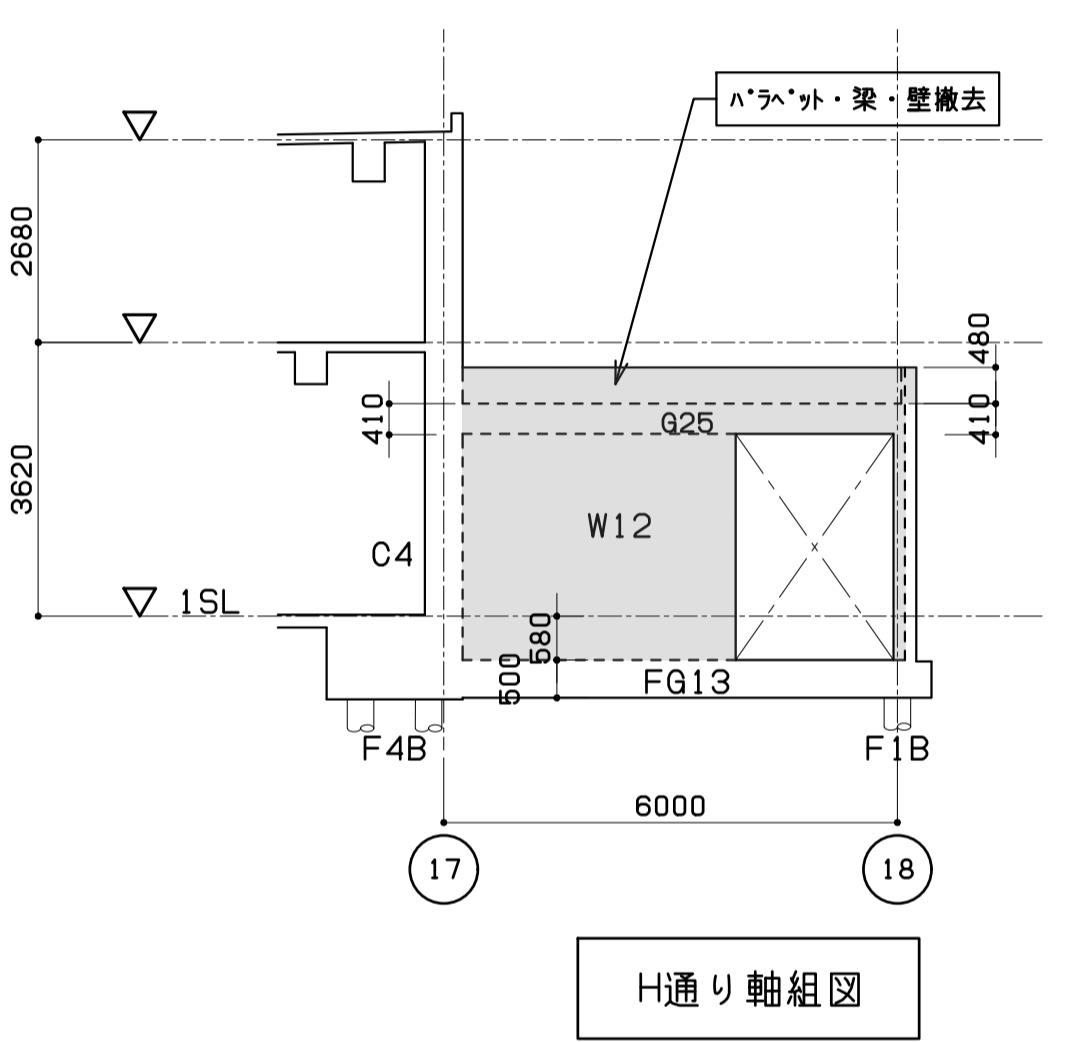
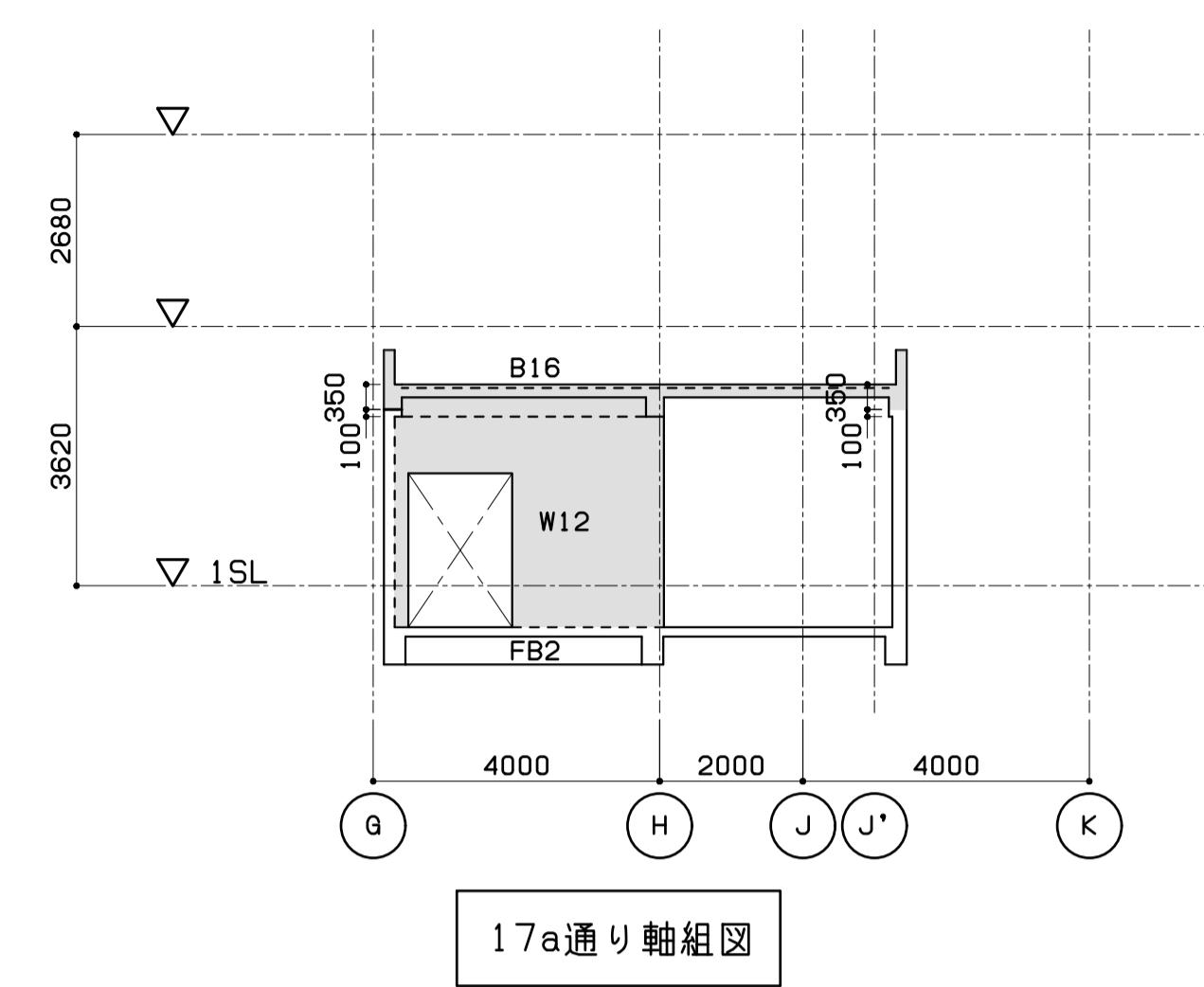
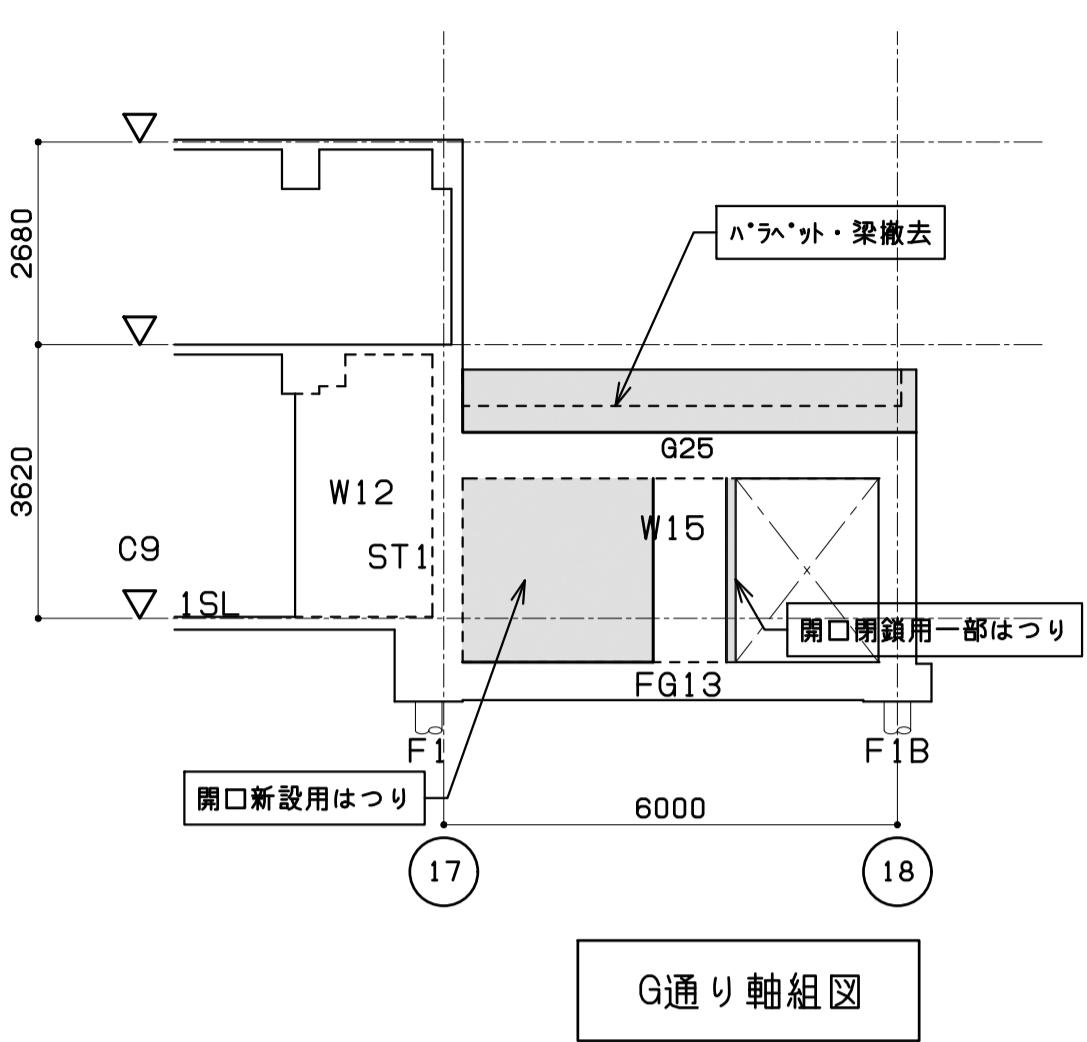


M2階伏図(改修)



R2階伏図(改修)

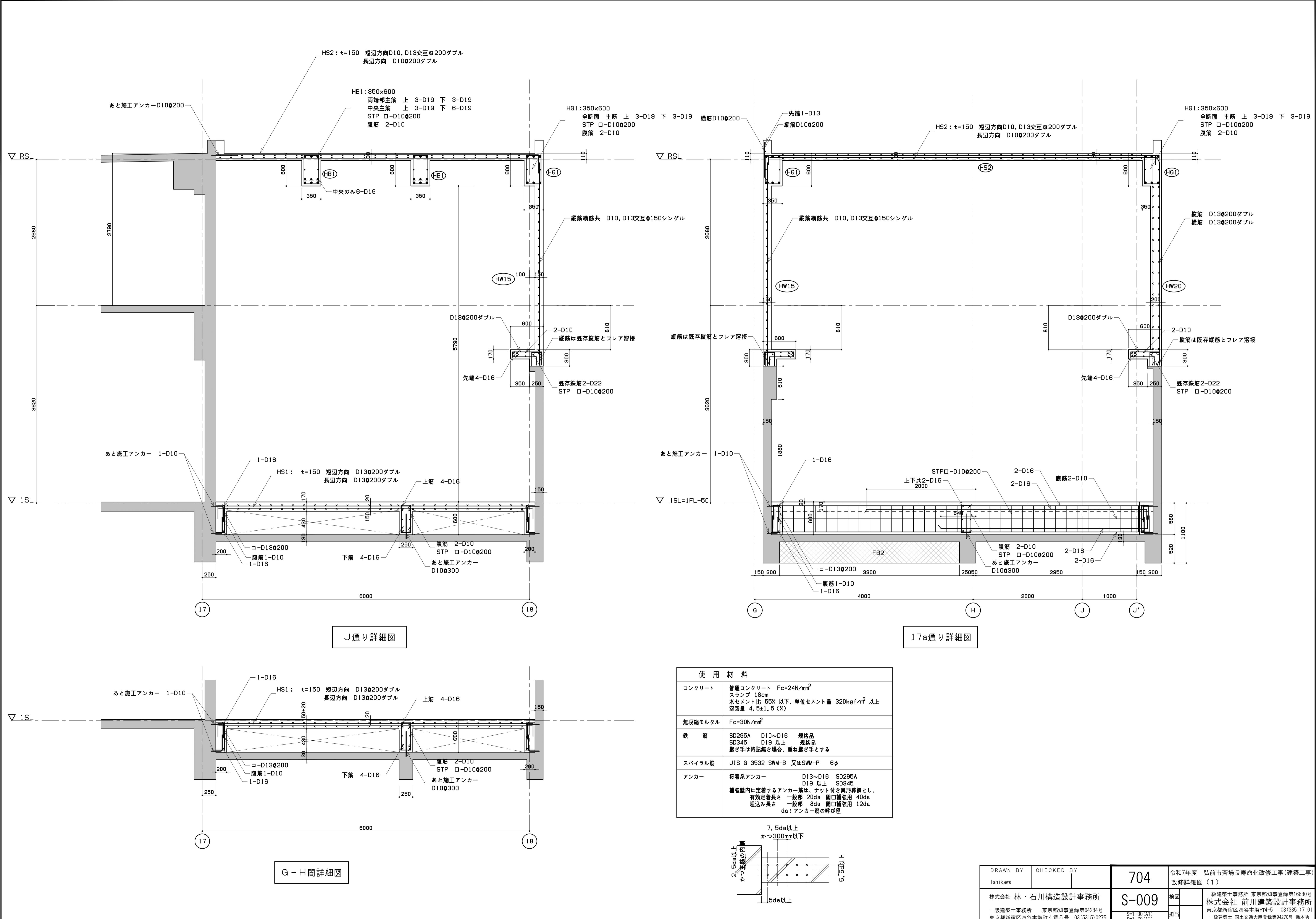
DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事)
Ishikawa			撤去・改修 伏図
株式会社 林・石川構造設計事務所		S-007	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塙町4番5号 03(5315)0275	S-1:100(A1) S-1:200(A3)		担当 一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 横本功

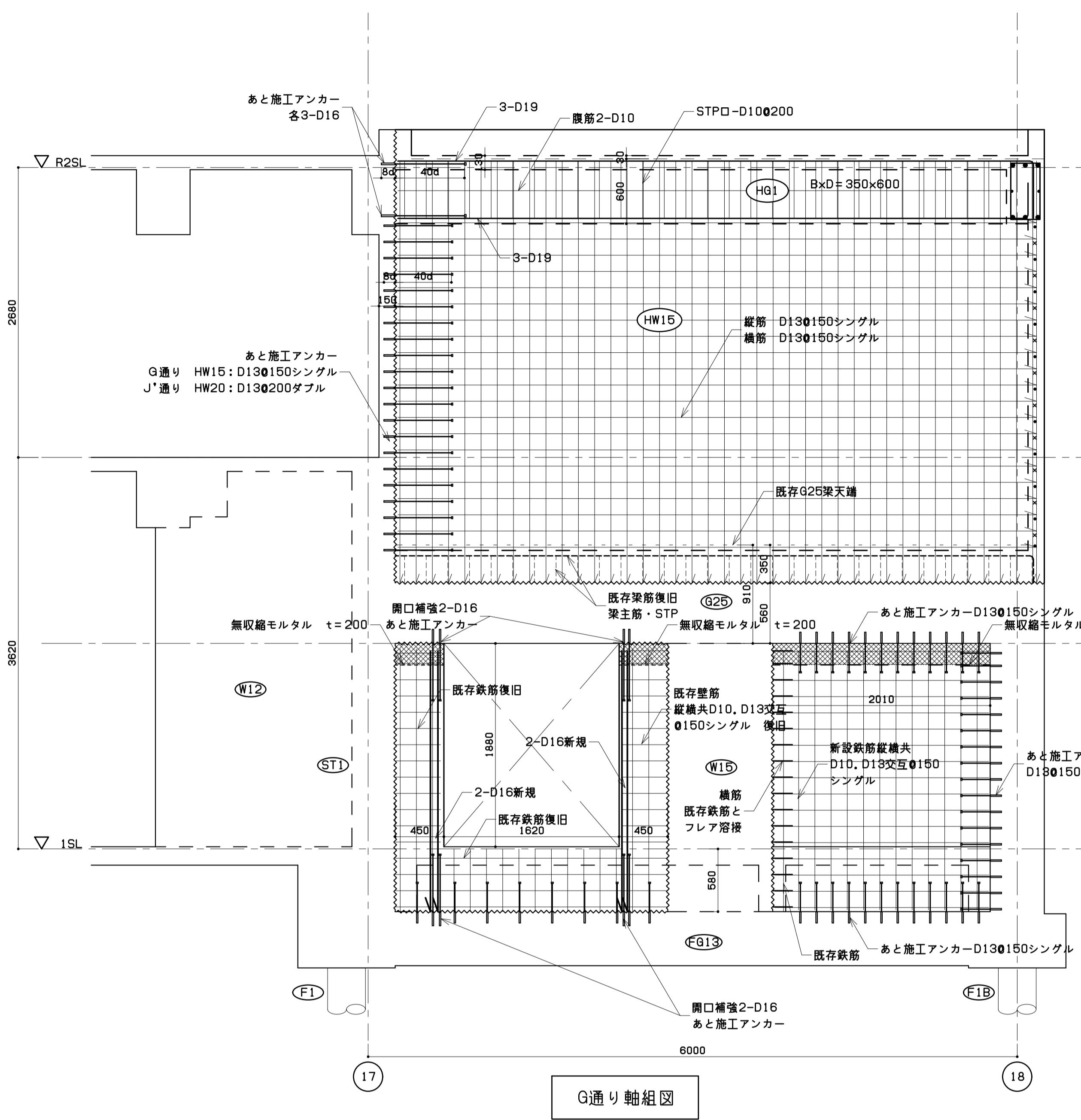


撤去図

改修図

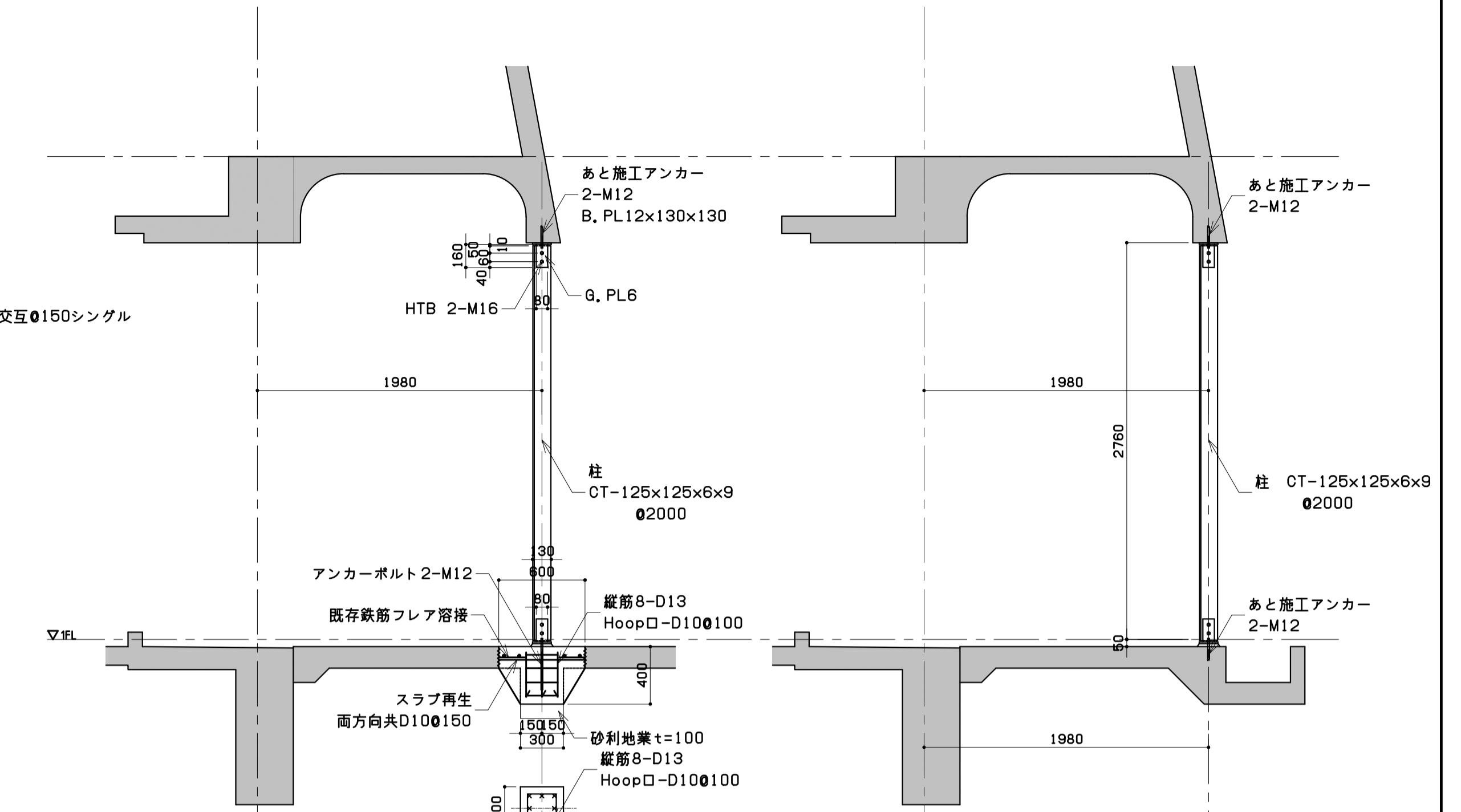
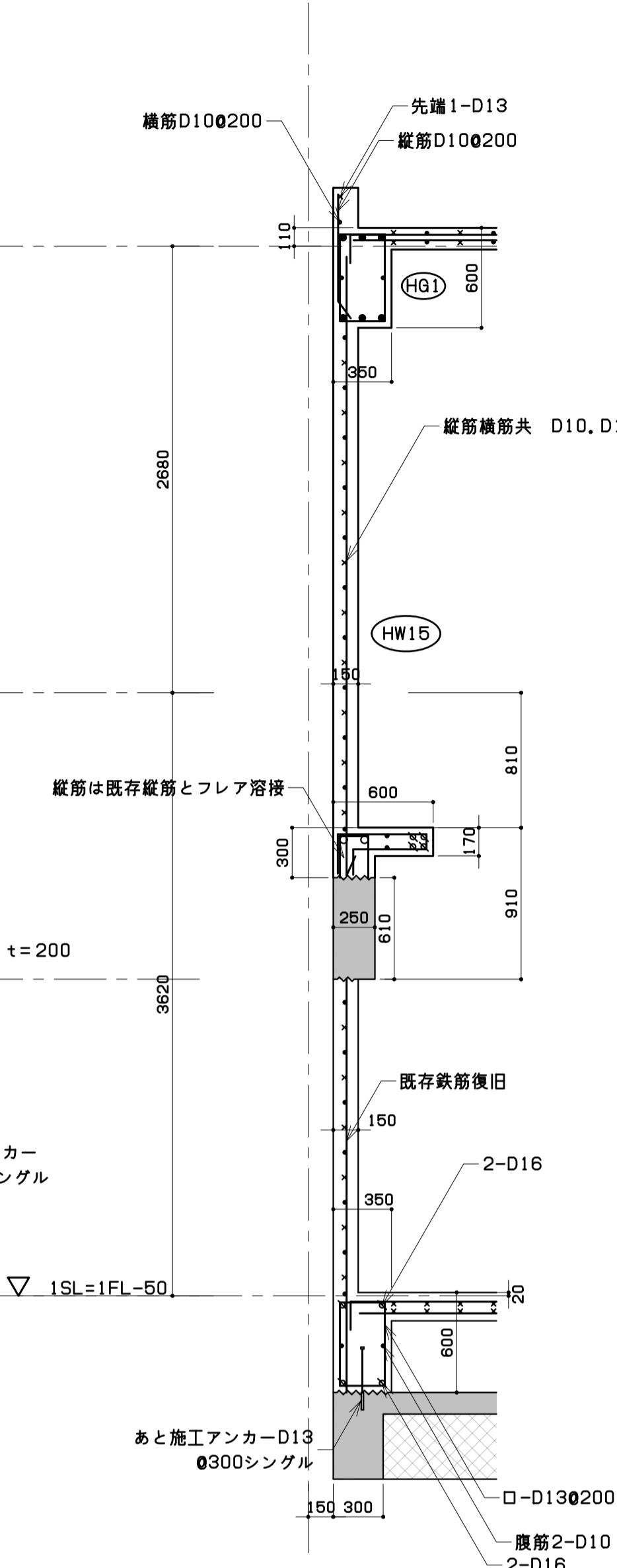
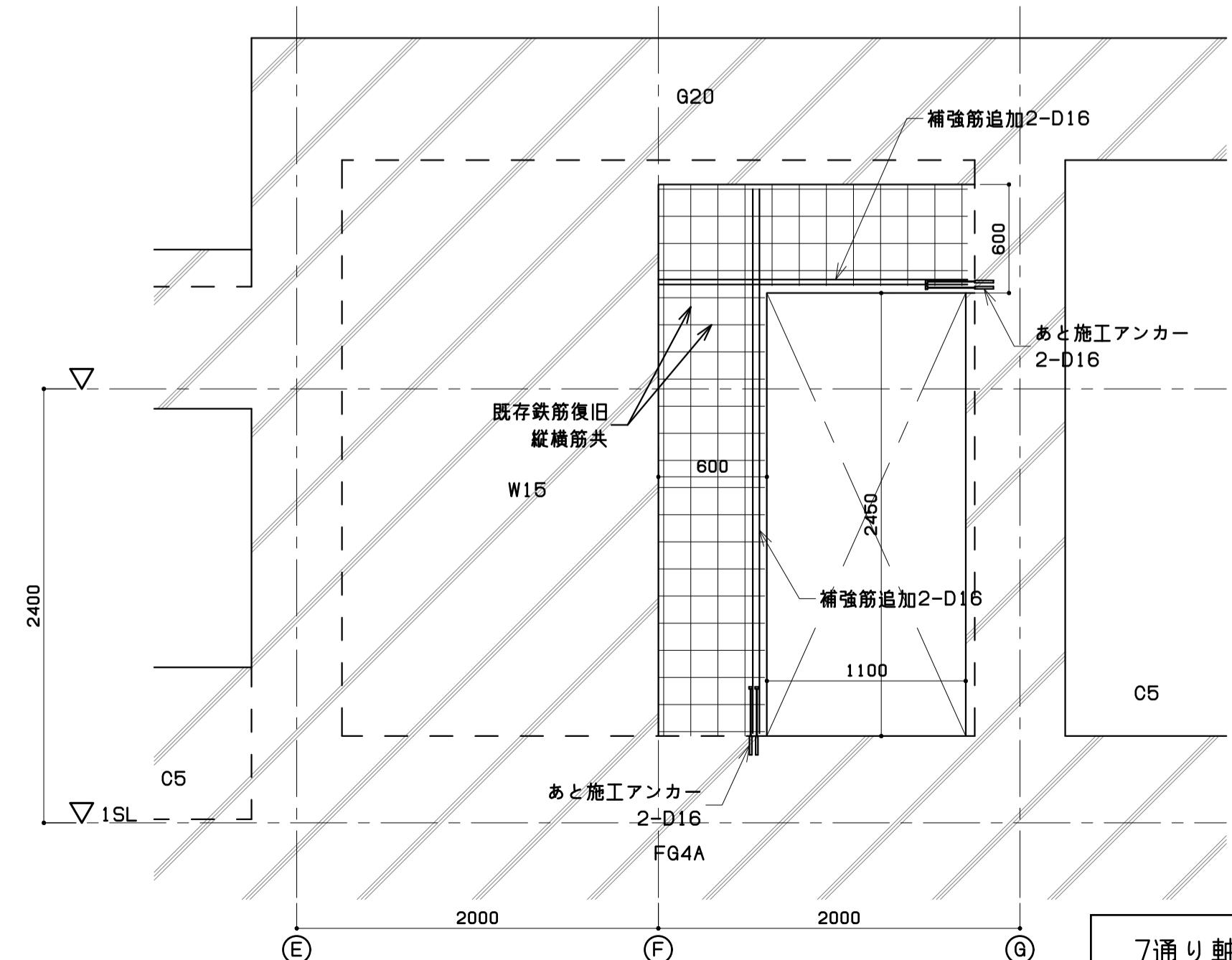
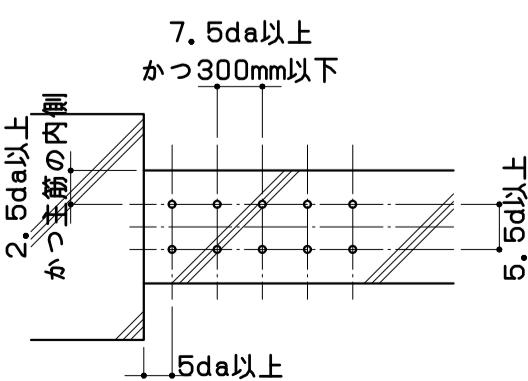
DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 撤去・改修 軸組図
Ishikawa			一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
		S-008	一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塙町4番5号 03(5315)0275
			S-1:100(A1) S-1:200(A3)





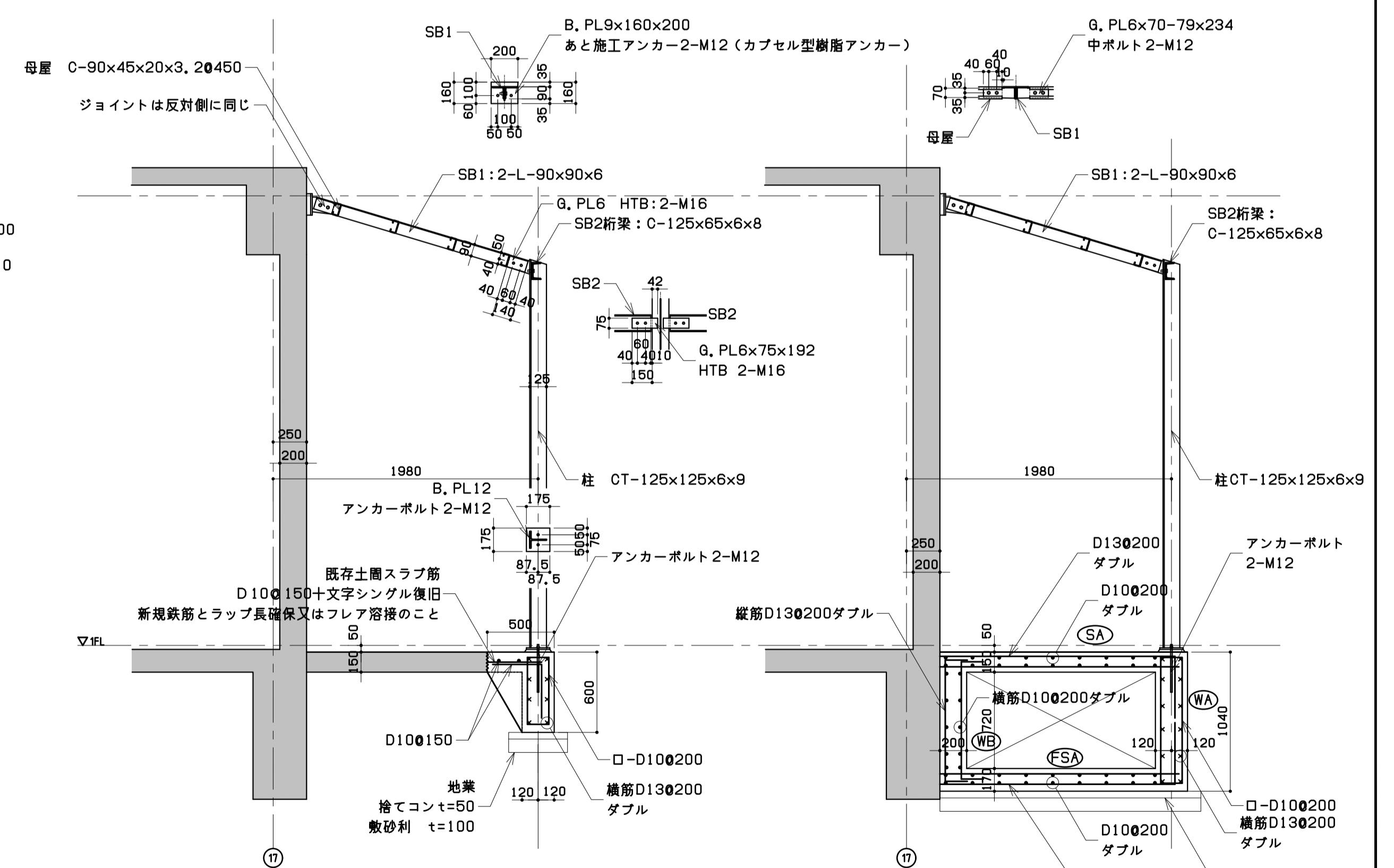
使 用 材 料	
コンクリート	普通コンクリート $F_c=24N/mm^2$ スランプ 18cm 水セメント比 55% 以下、単位セメント量 $320kgf/m^3$ 以上 空気量 $4.5\pm1.5$ (%)
無収縮モルタル	$F_c=30N/mm^2$
鉄 筋	SD295A D10～D16 規格品 SD345 D19 以上 規格品 継ぎ手は特記無き場合、重ね継ぎ手とする
スパイラル筋	JIS G 3532 SWM-B 又はSWM-P 6φ
アンカー	接着系アンカー D13～D16 SD295A D19 以上 SD345 補強壁内に定着するアンカー筋は、ナット付き異形棒鋼とし、 有効定着長さ 一般部 20da 開口補強用 40da 埋込み長さ 一般部 8da 開口補強用 12da da：アンカー筋の呼び径
鉄 骨	鋼材：SS400 アンカーボルト：SS400級 高力ボルト：S10T

敷砂利の下端は地表面-550以下とする



SC2 詳細図

SC1 詳細図

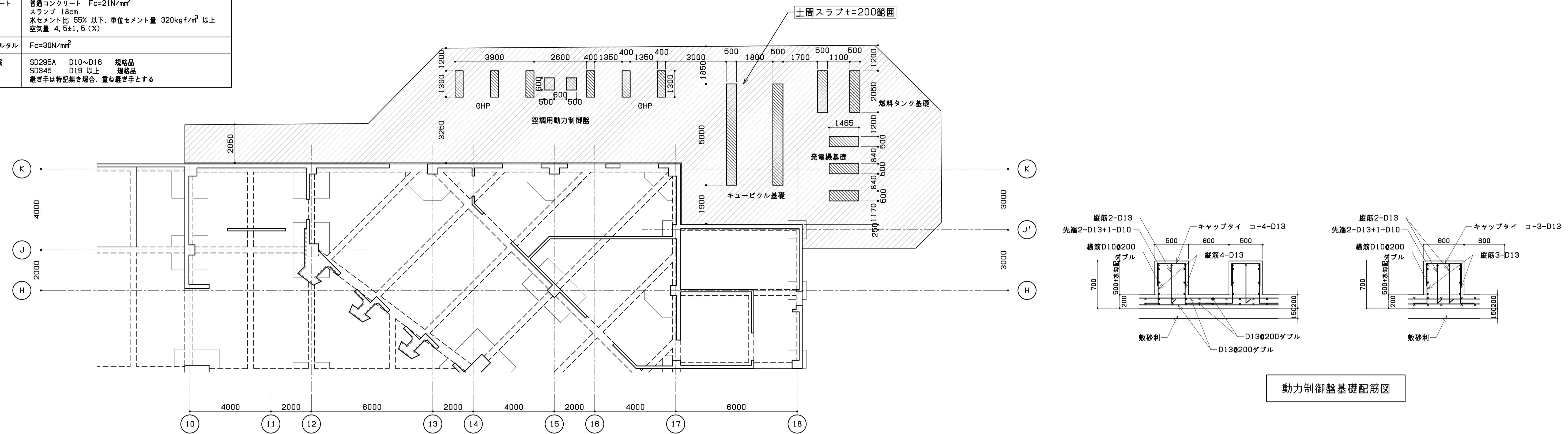


SC3詳細図

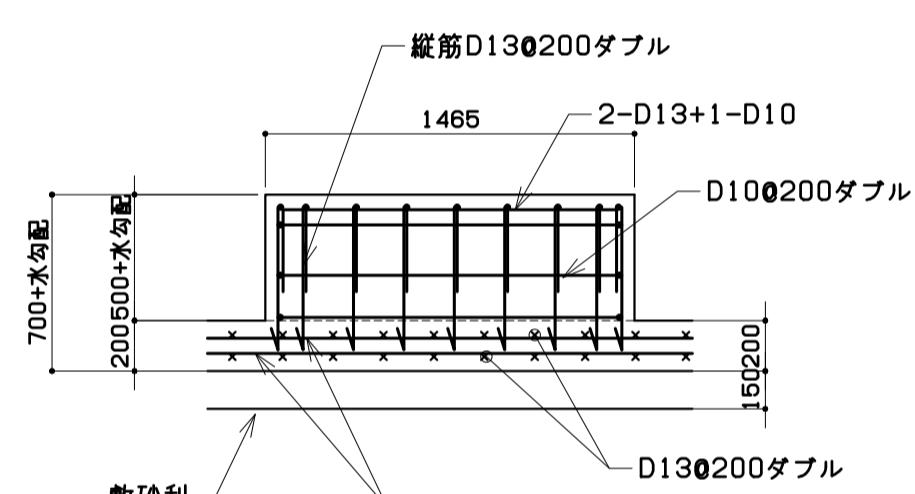
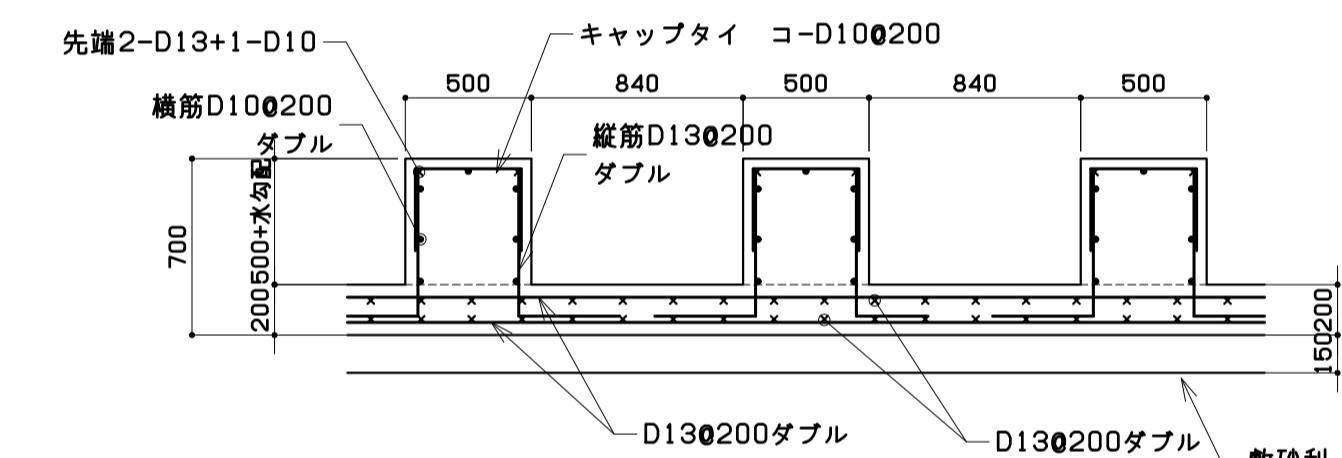
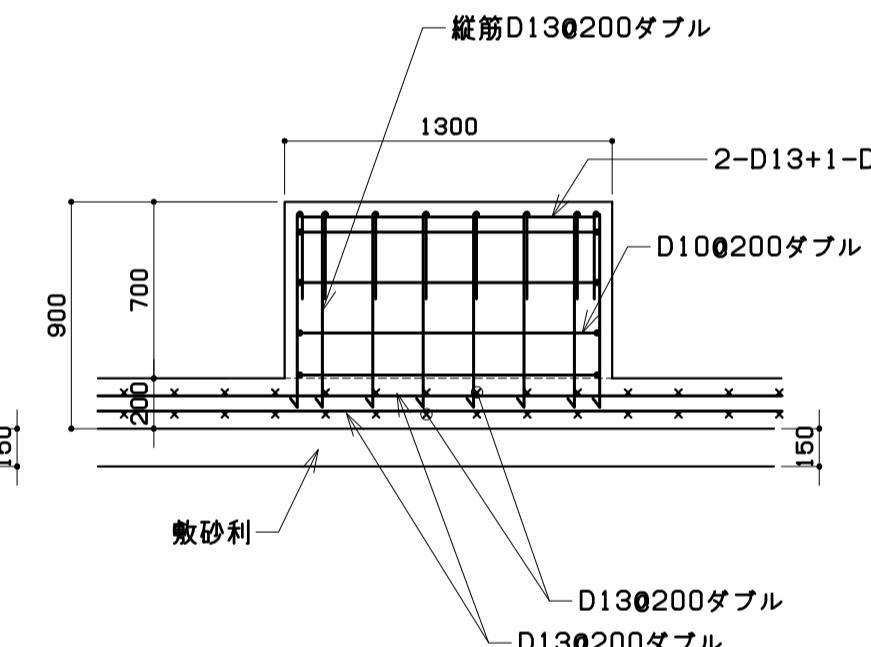
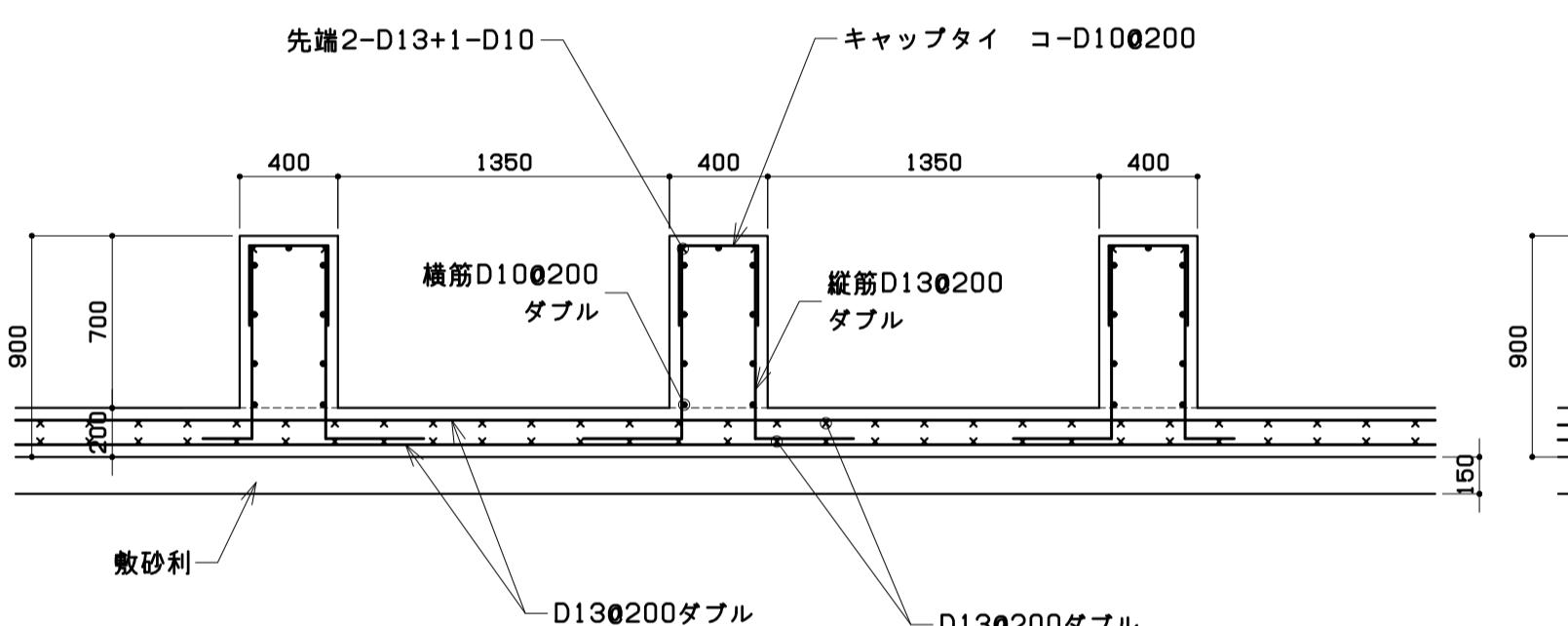
SC4詳細図

DRAWN BY Ishikawa	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 改修詳細図(2)
株式会社 林・石川構造設計事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塙町4番5号 03(5315)0275	S-010	検図 担当	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塙町4-5 03(3351)7101 一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 橋本功

使用材料	
コンクリート	普通コンクリート $F_c=21N/mm^2$ スラブ 18cm 水セメント比 55% 以下、単位セメント量 $320kgf/m^3$ 以上 空気量 $4.5\pm1.5$ (%)
無収縮モルタル	$F_c=30N/mm^2$
鉄筋	SD295A D10~D16 規格品 SD345 D19 以上 規格品 基準手は特記無き場合、重ね巻き手とする

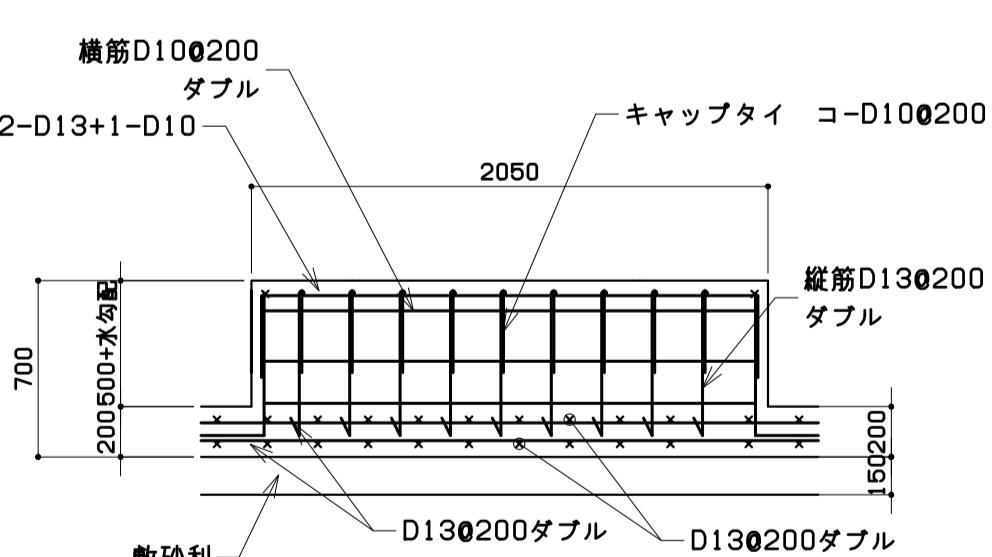
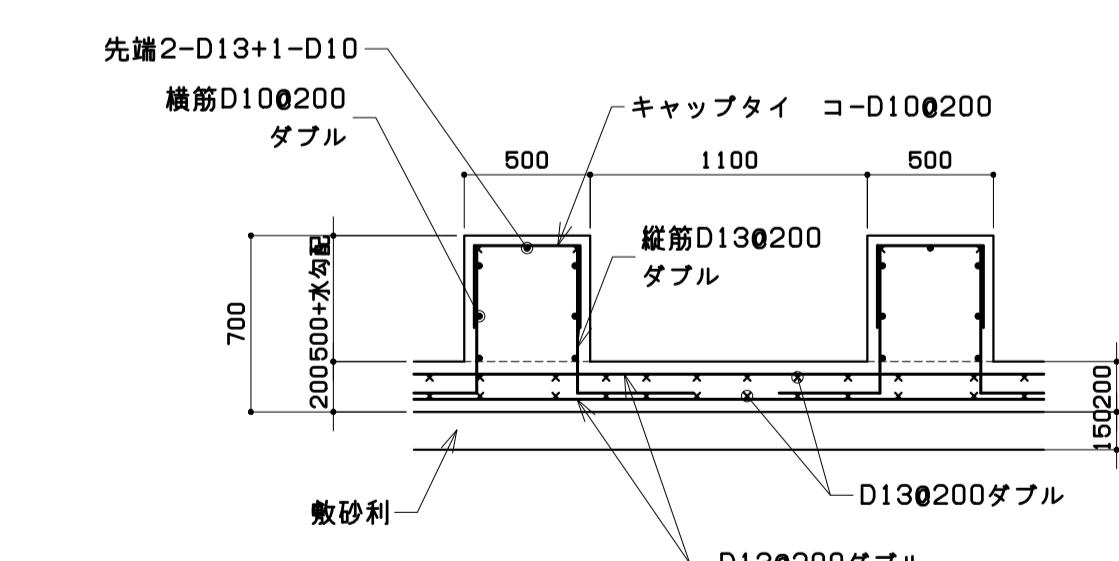
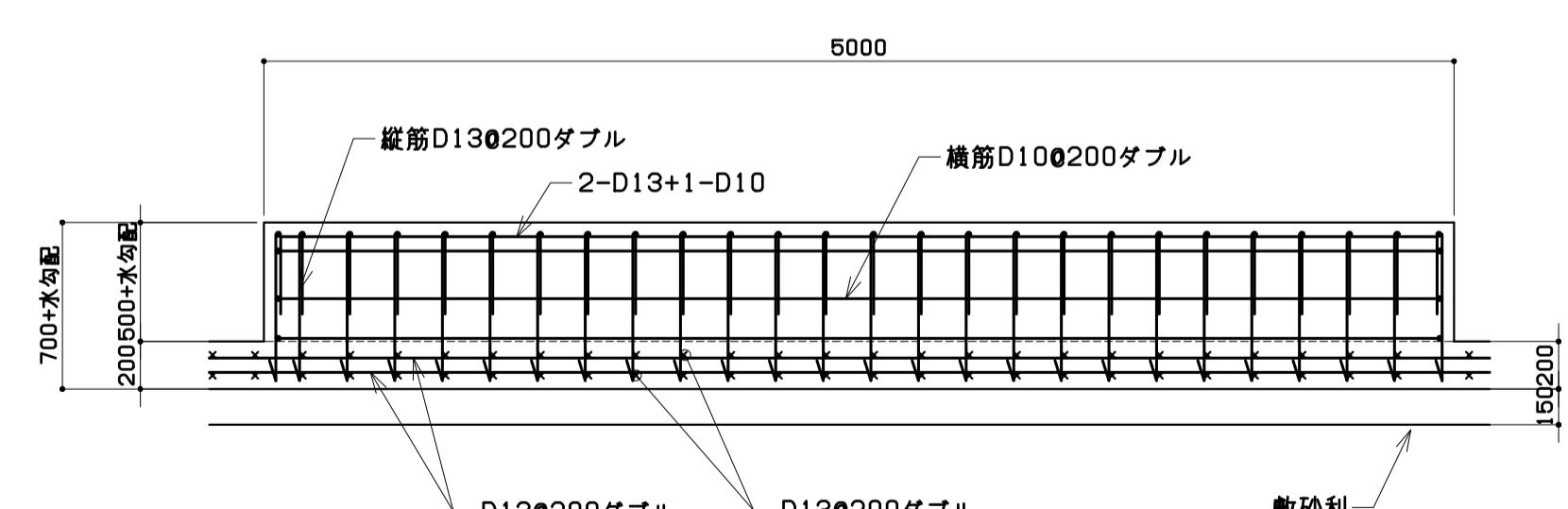
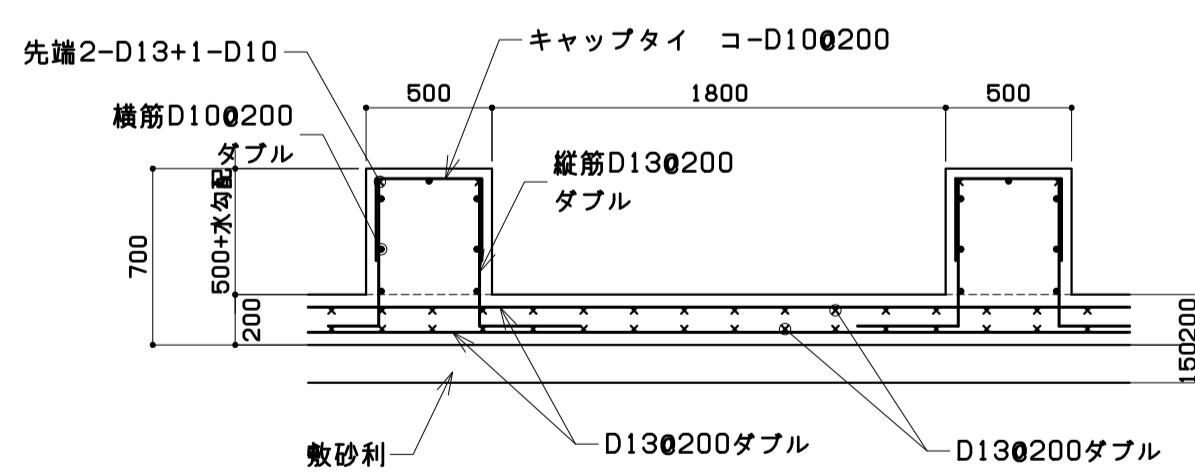


動力制御盤基礎配筋図



GHP基礎配筋図

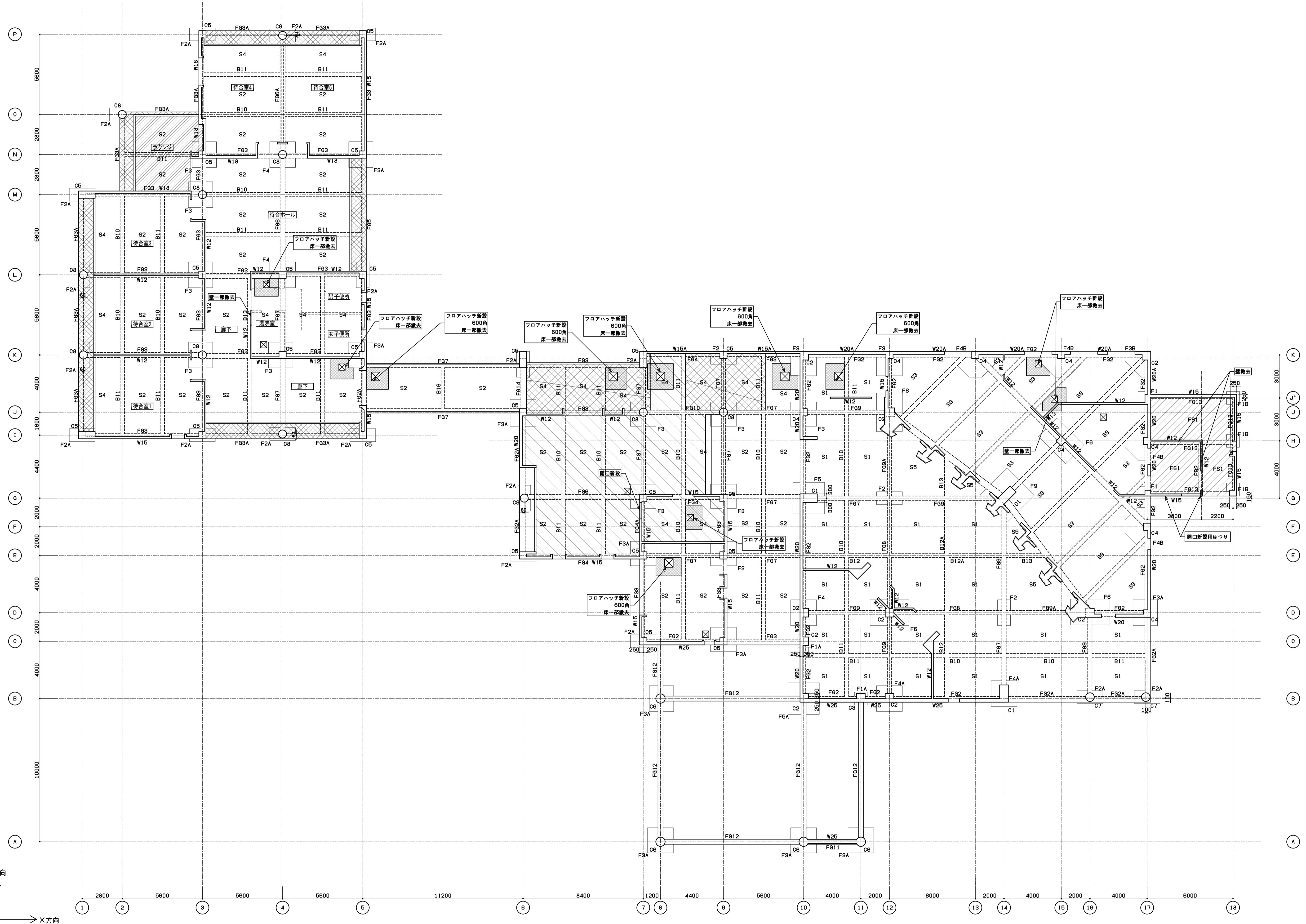
屋外発電機基礎配筋図



キューピクル基礎配筋図

屋外燃料タンク基礎配筋図

DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 屋外機器置場詳細図
Ishikawa			一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
株式会社 林・石川構造設計事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(5315)0275	S-011	検査 担当	一級建築士事務所 東京都知事登録第64270号 槙本功 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(3351)7101 一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 槙本功
S-1-30(A1)	S-1-60(A3)		

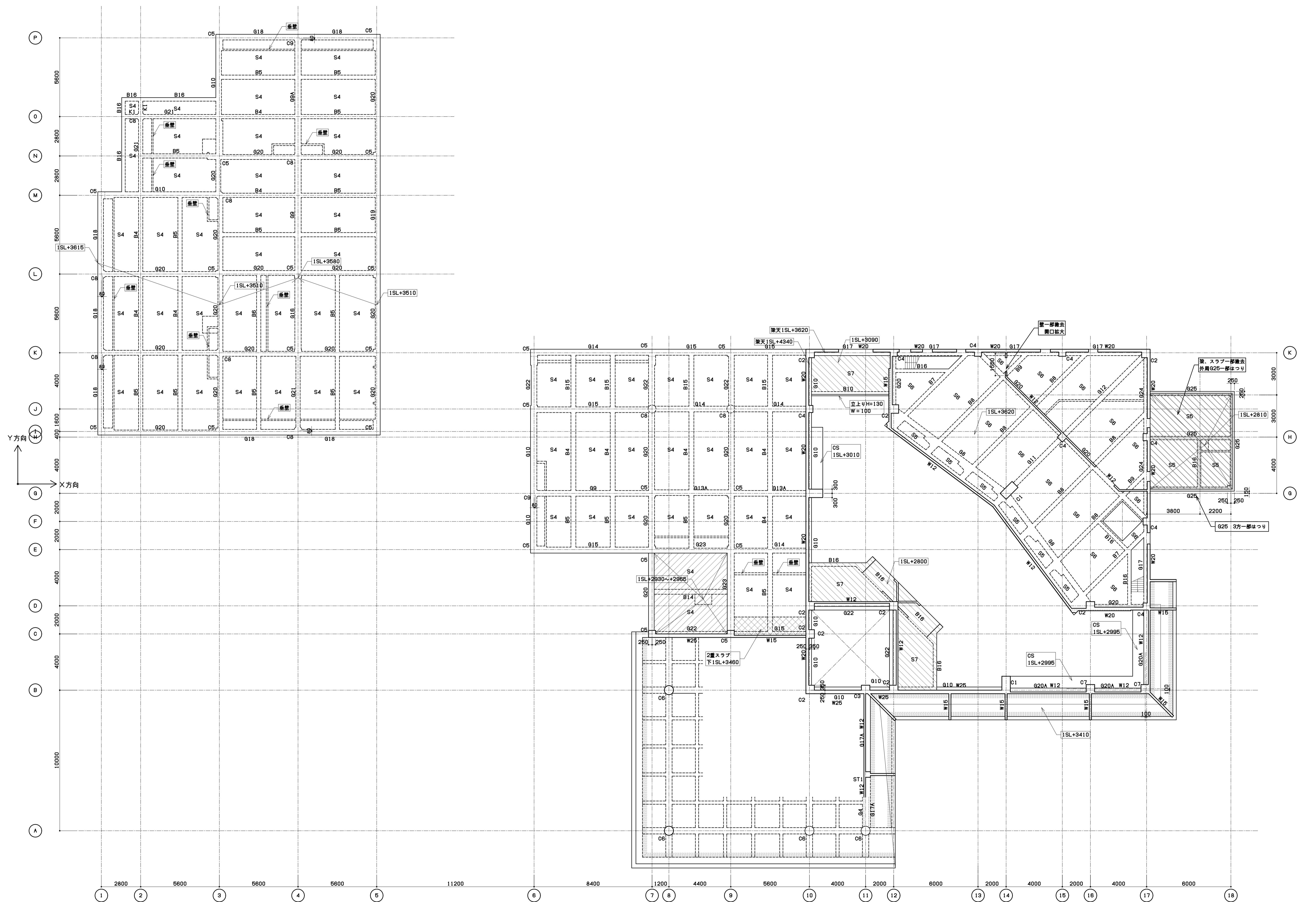


基礎・1階伏図

図内は、1FLからの耐震版天端レベルを示す。  
基礎大架の主筋は、X方向の梁を上通しとし、Y方向の梁を下通しとする。  
支持層は、N値50以上の充若とする。基礎底が充若に達しない場合は、支持層と基礎底の間を基礎底寸法で $F_c = 21N/mm^2$ のコンクリートで充填する。

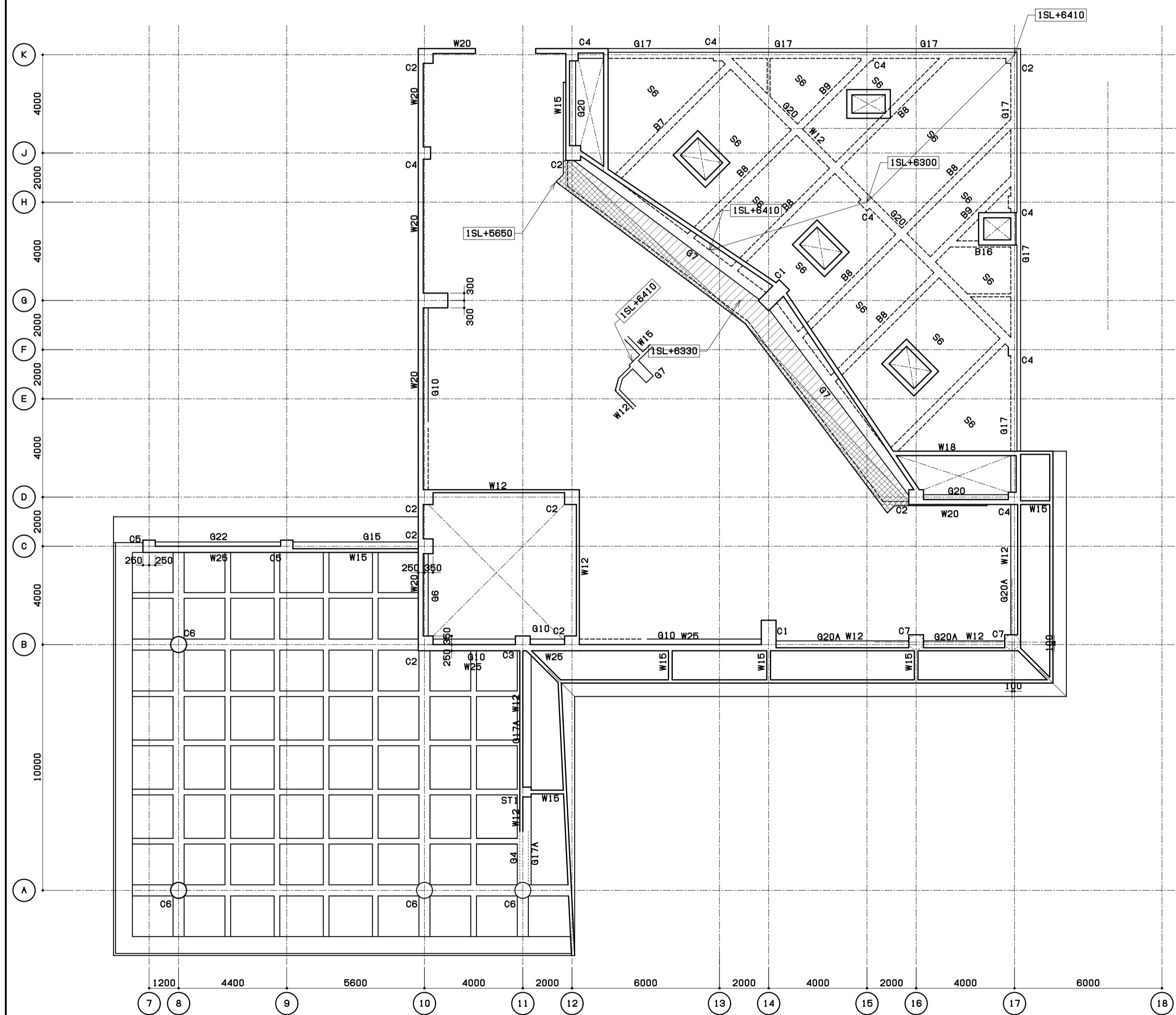
DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 基礎・1階伏図
Ishikawa		S-021	株式会社 前川建築設計事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(3515)0275
			7-1:125 (A1)
			7-1:250 (A3)

一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号  
株式会社 前川建築設計事務所  
一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号  
東京都新宿区四谷本塩町4-5 03(3515)7101  
一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 横本功

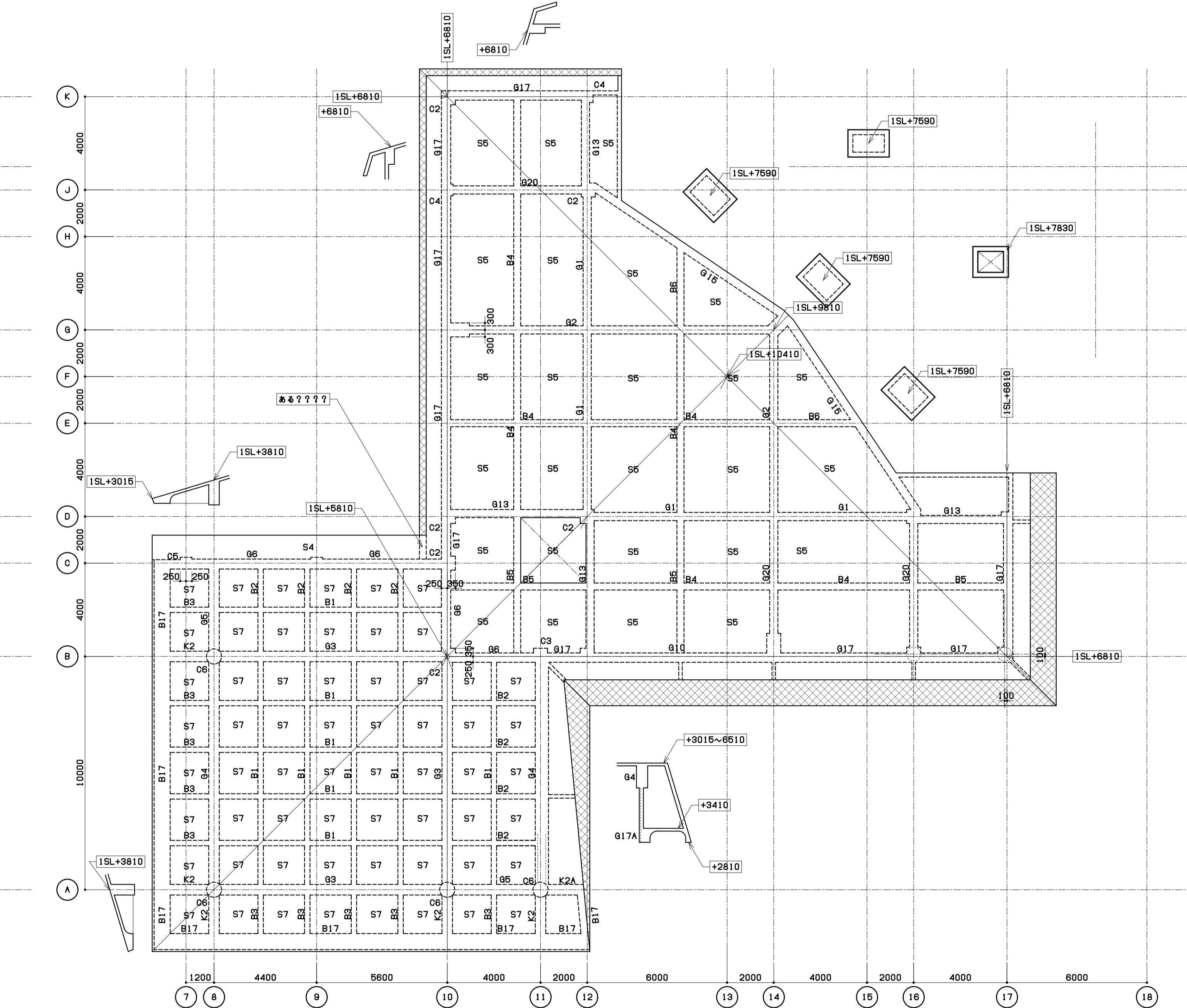


M2階伏図

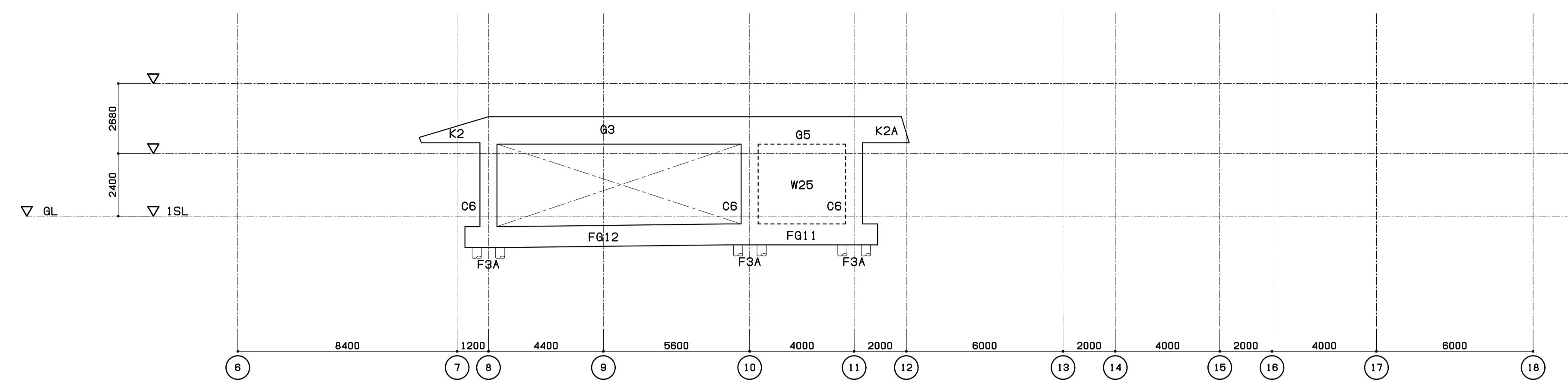
DRAWN BY Ishikawa	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 M2階伏図		
株式会社 林・石川構造設計事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塙町4番5号 03(5315)0275	S-022	検図		一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塙町4-5 03(3351)7101 一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 橋本功	担当



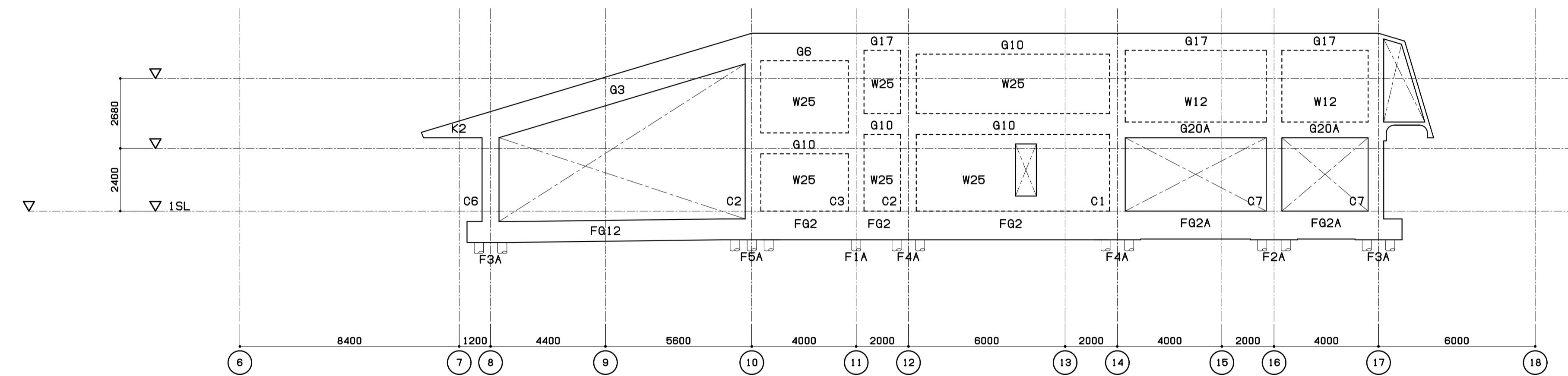
R 1 階伏図



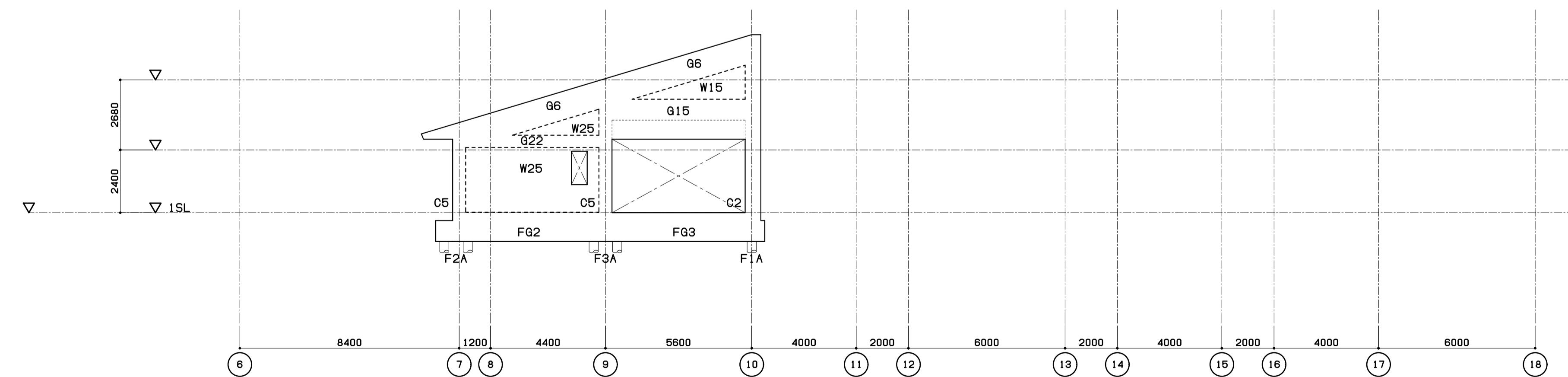
R2階伏図



A通り軸組図

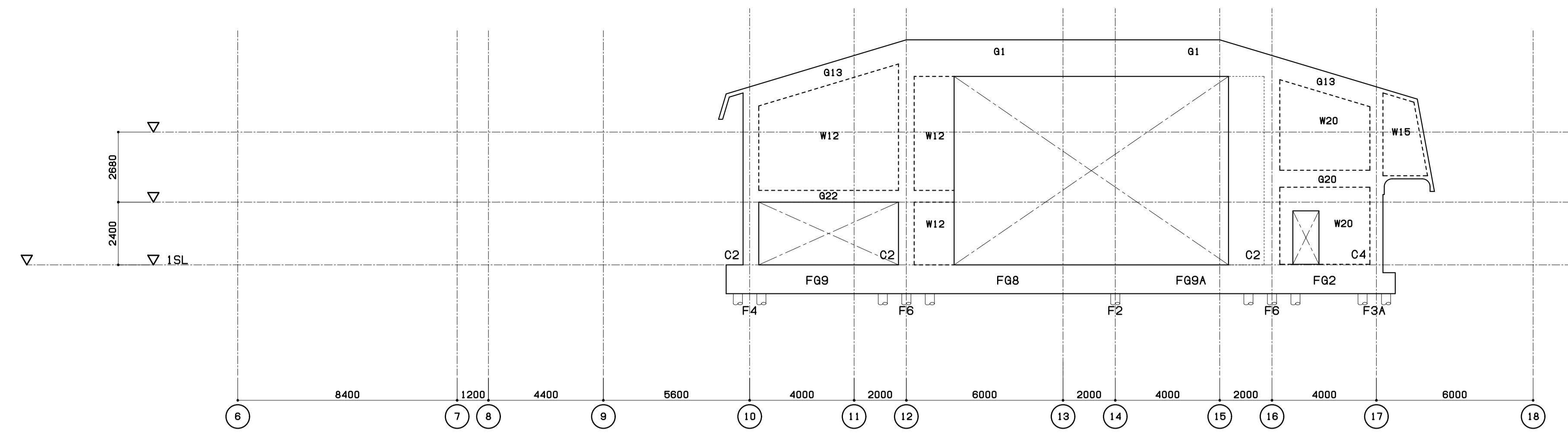


B通り軸組図

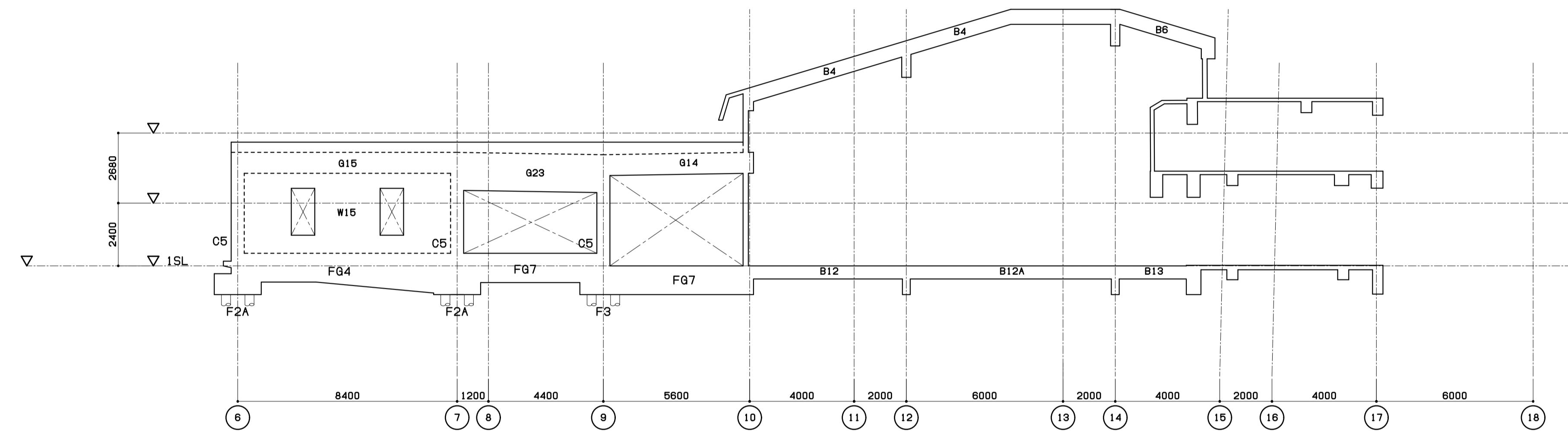


C通り軸組図

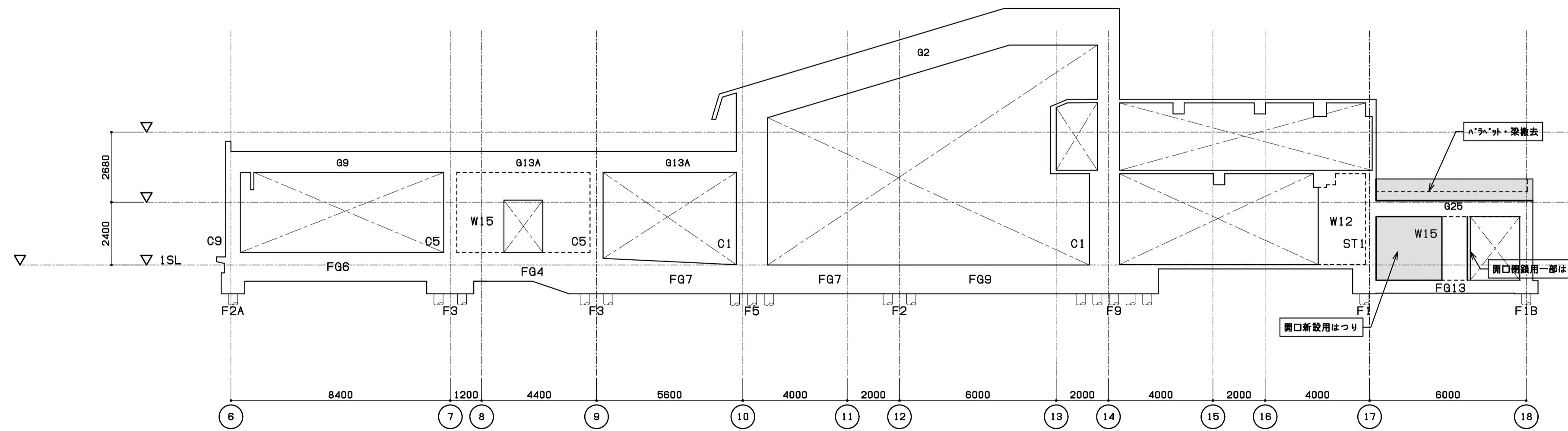
DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 軸組図(1)
Ishikawa		S-024	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(5315)0275		S-1125(A1)	検査
		S-1125(A3)	担当
			一級建築士 國土交通大臣登録第94270号 横本功



D通り軸組図

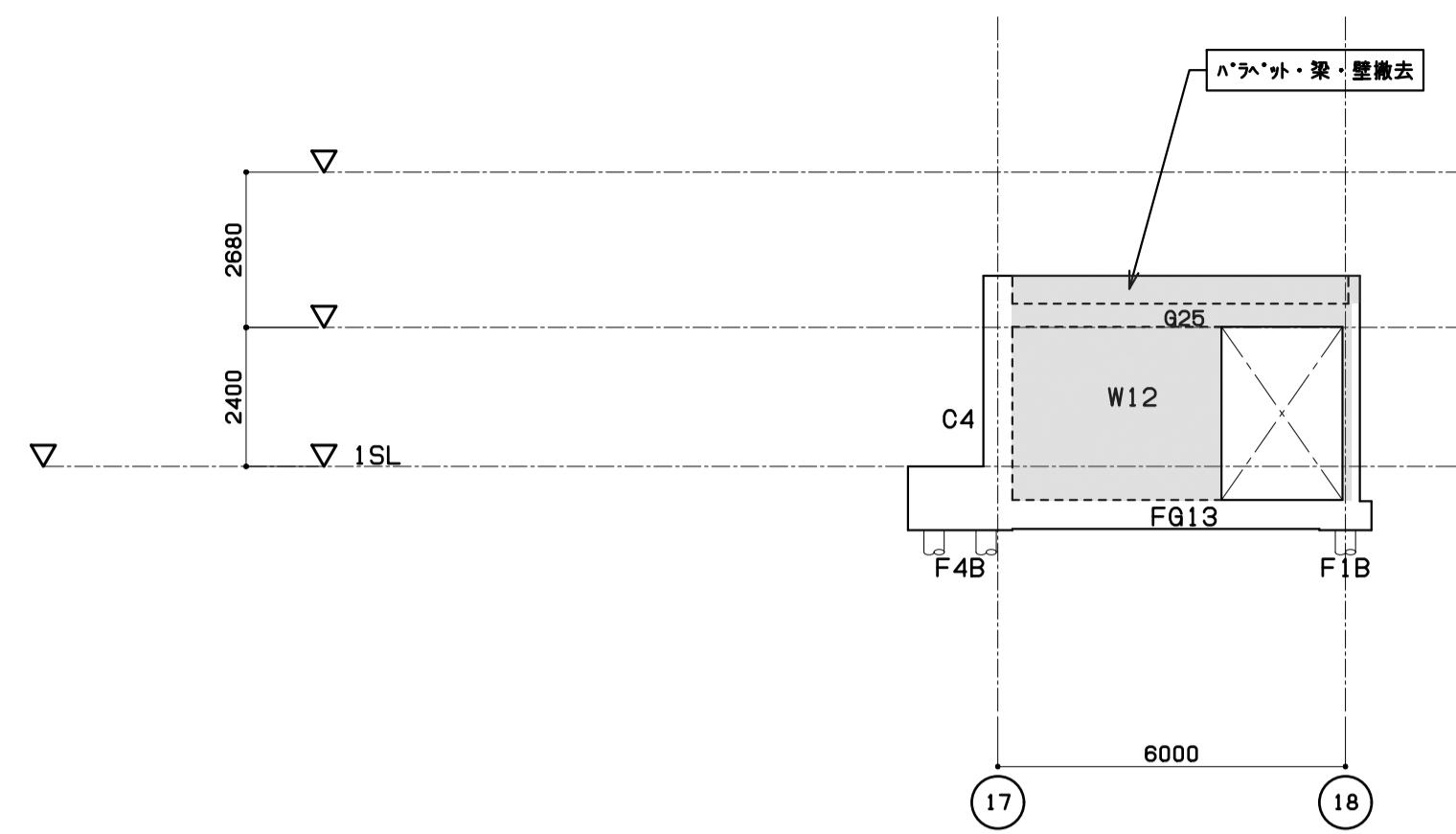


E通り軸組図

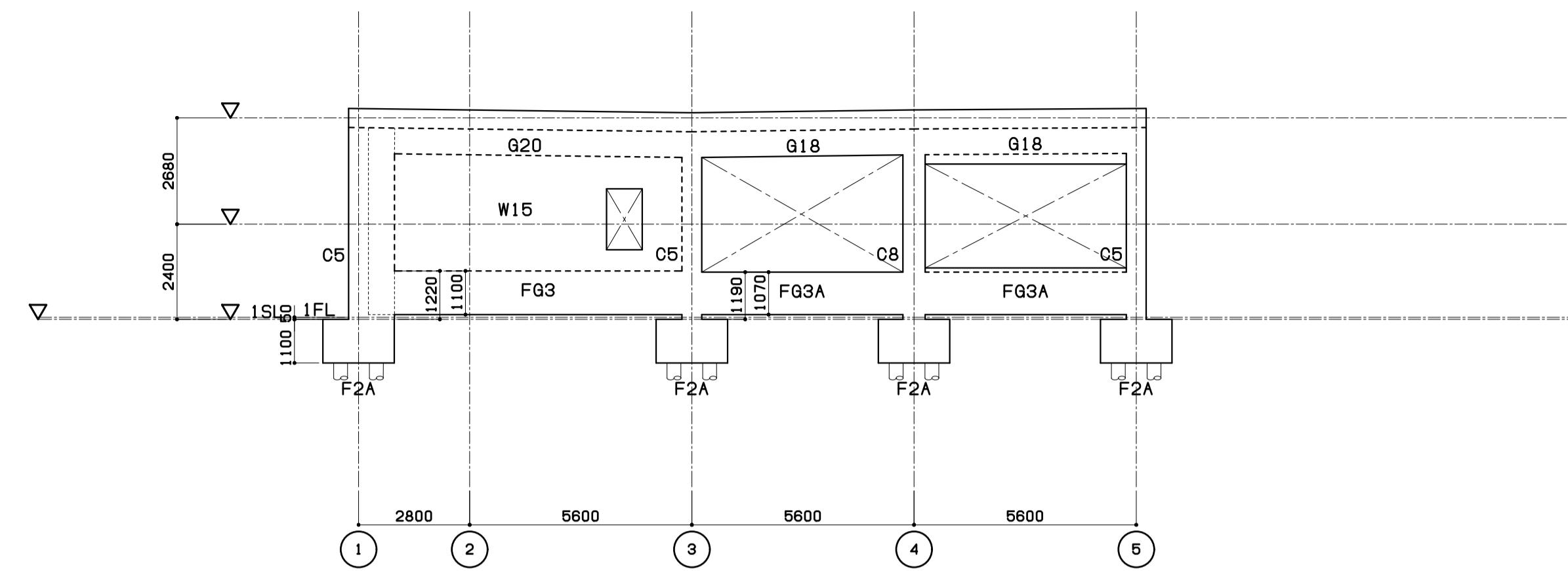


G通り軸組図

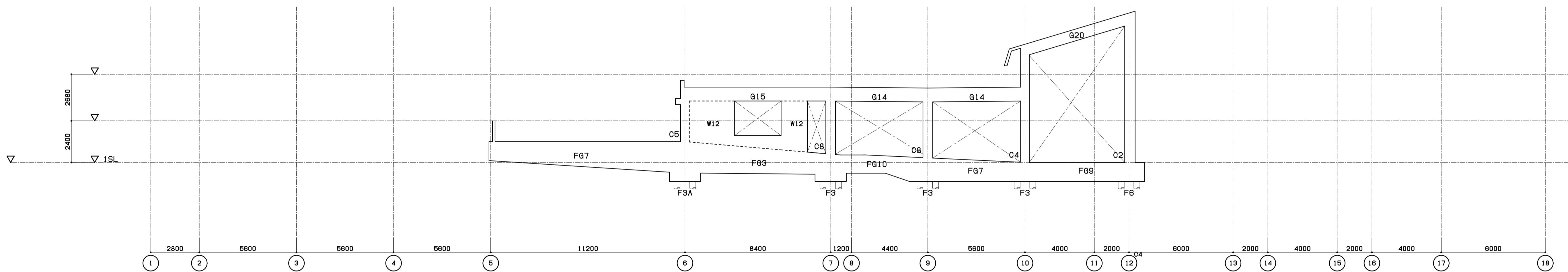
DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 軸組図(2)
Ishikawa			一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(3315)0275	S-025	検査	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
		担当	一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 横本功



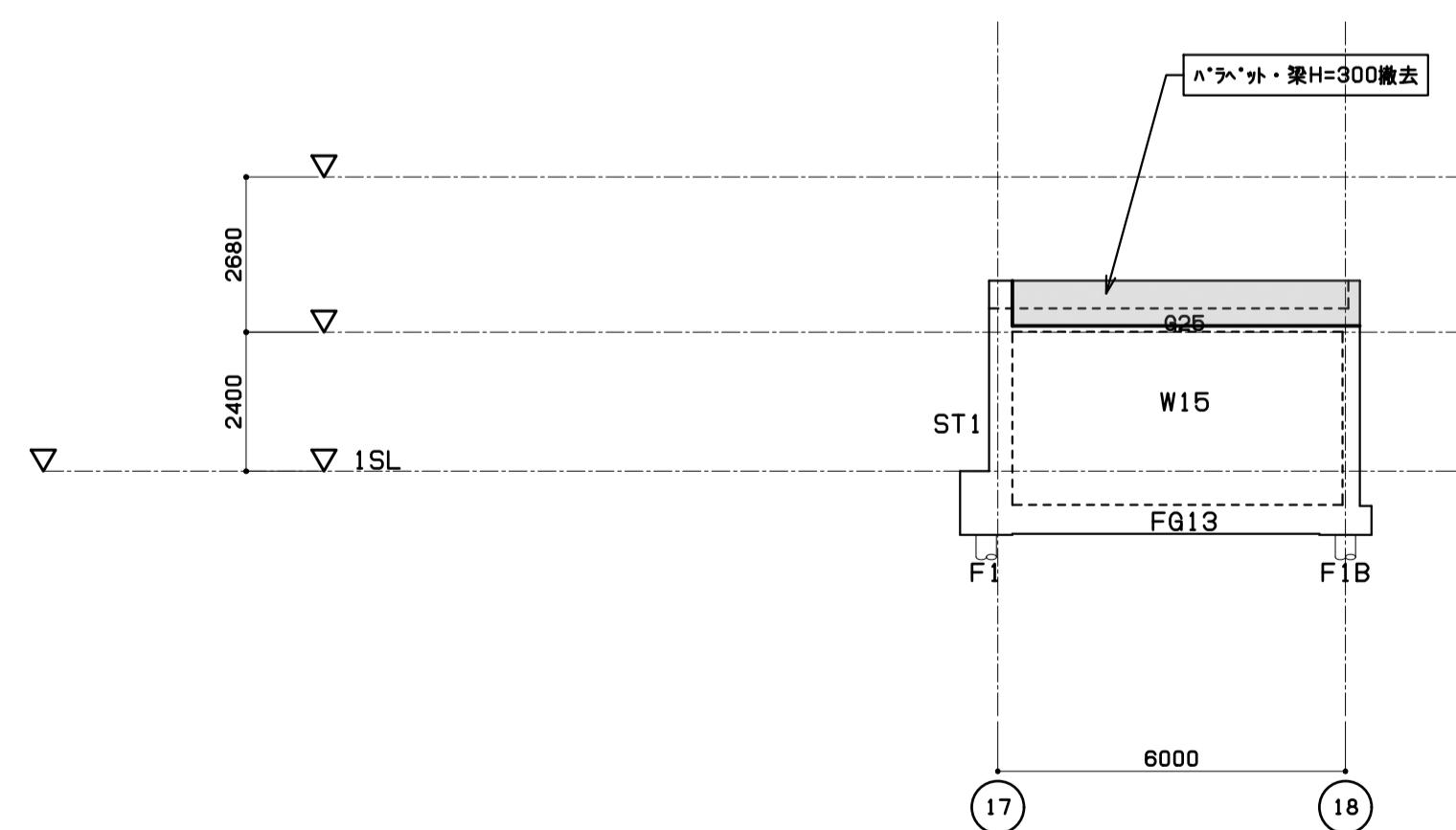
H通り軸組図



I通り軸組図



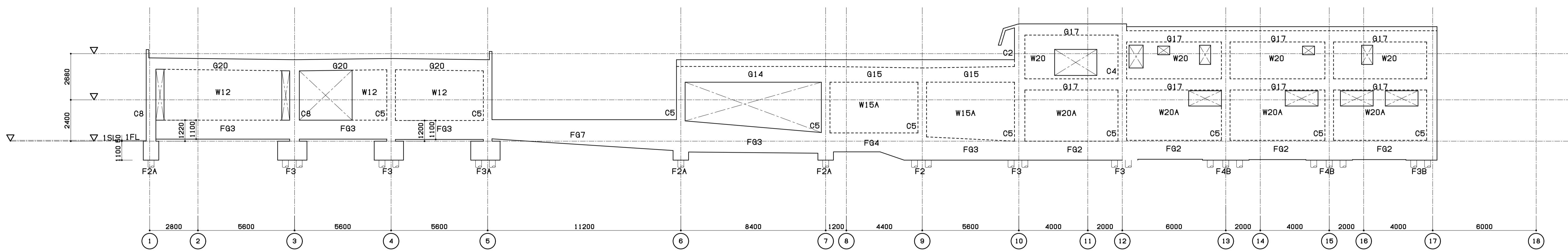
J通り軸組図



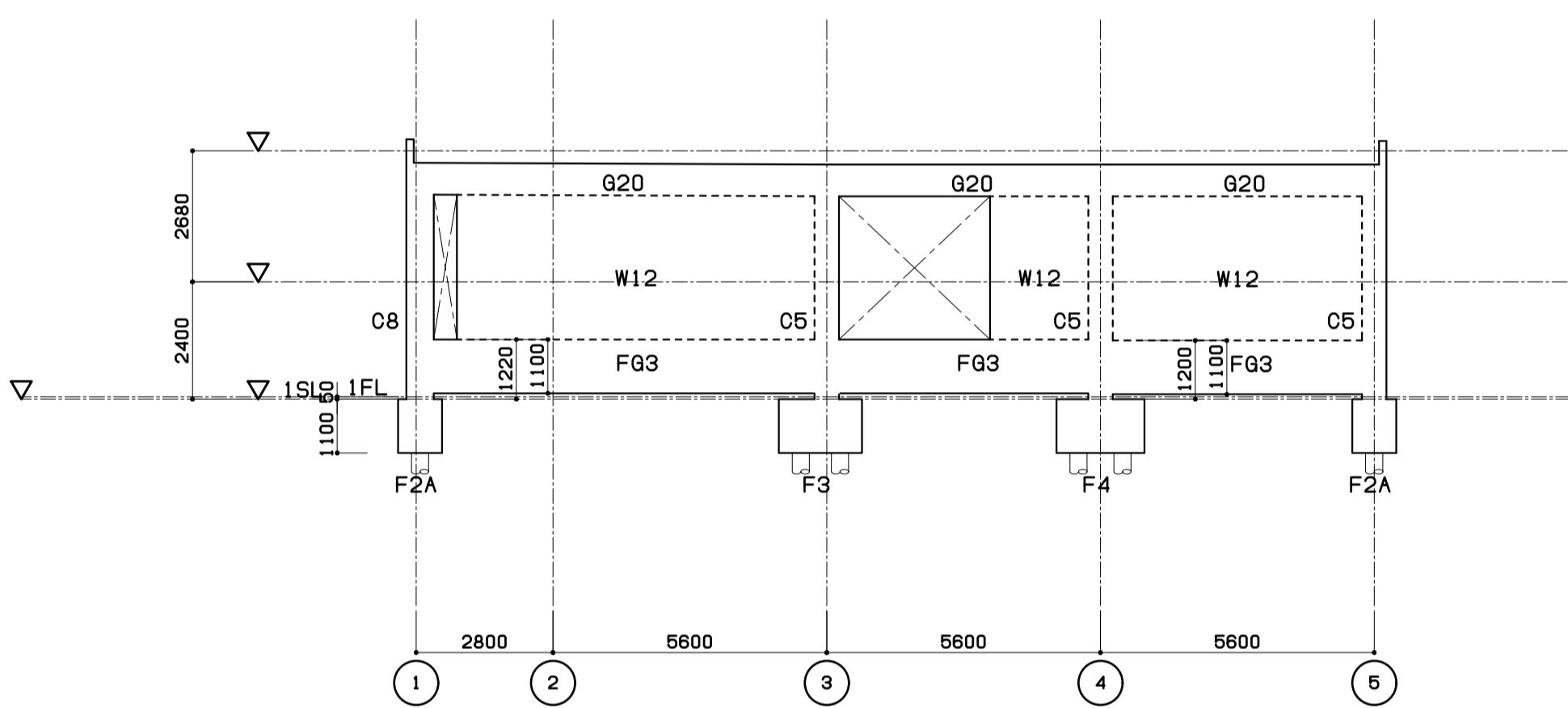
J'通り軸組図

DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 軸組図(3)
Ishikawa		S-026	株式会社 前川建築設計事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(3315)0275
			検査
			担当

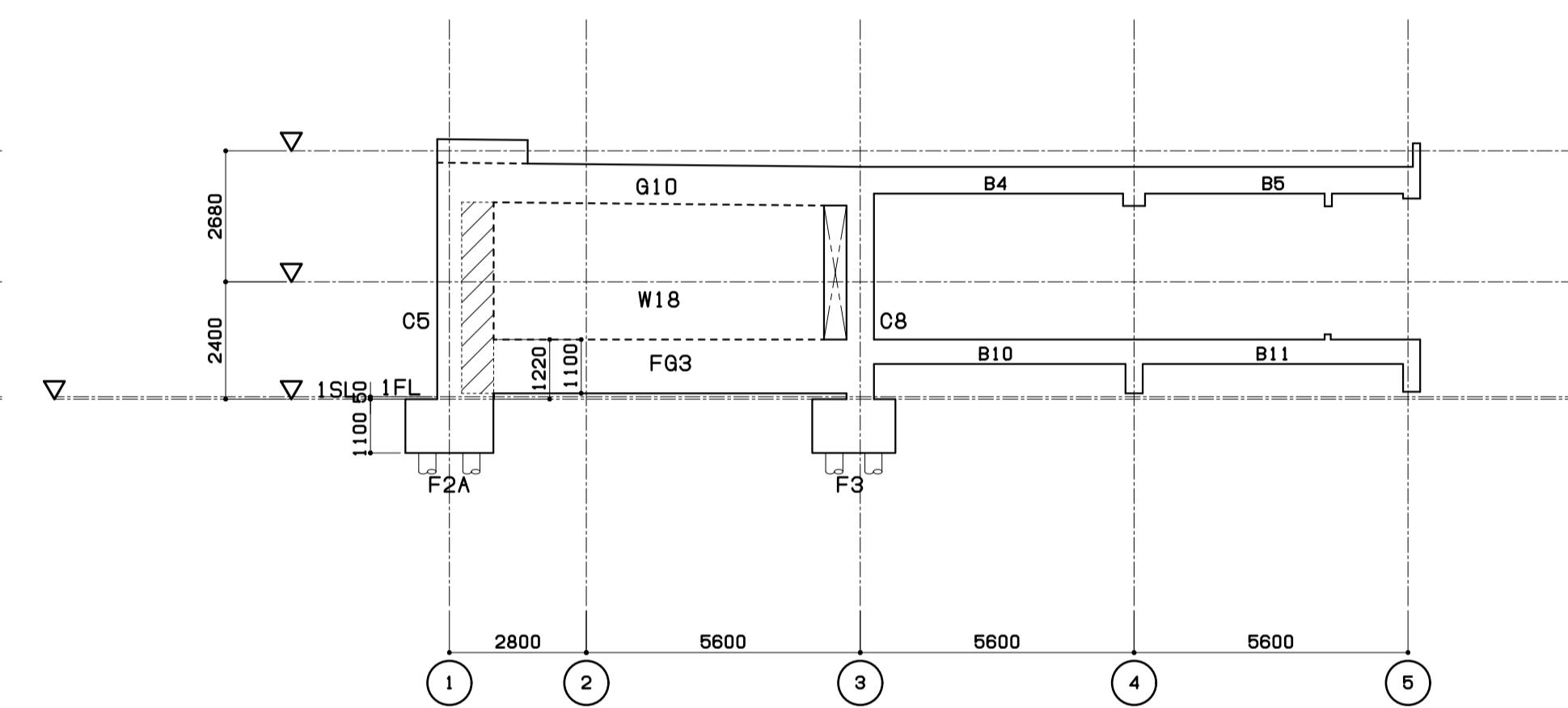
一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号  
株式会社 前川建築設計事務所  
東京都新宿区四谷本塩町4-5 03(3315)7101  
一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 横本功



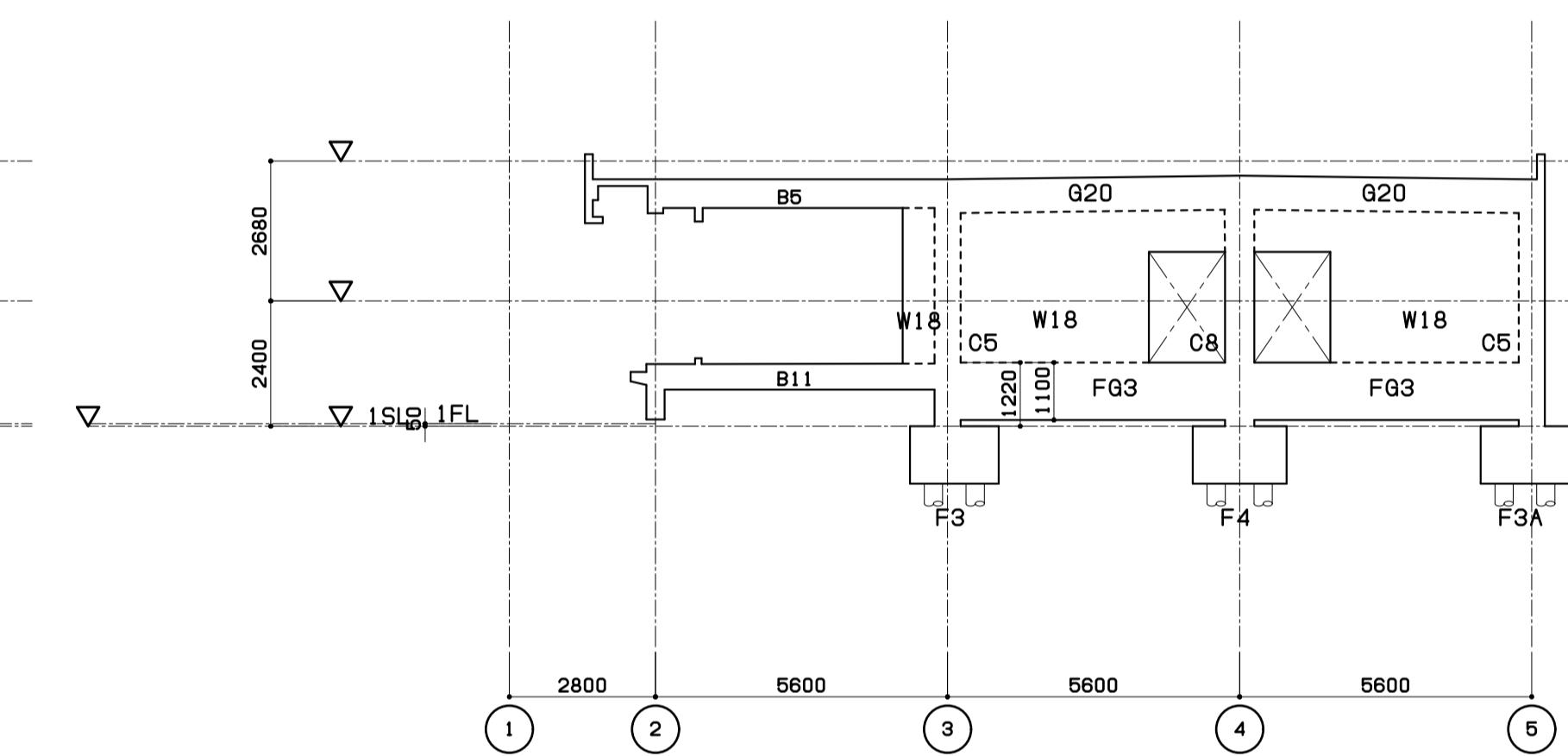
K通り軸組図



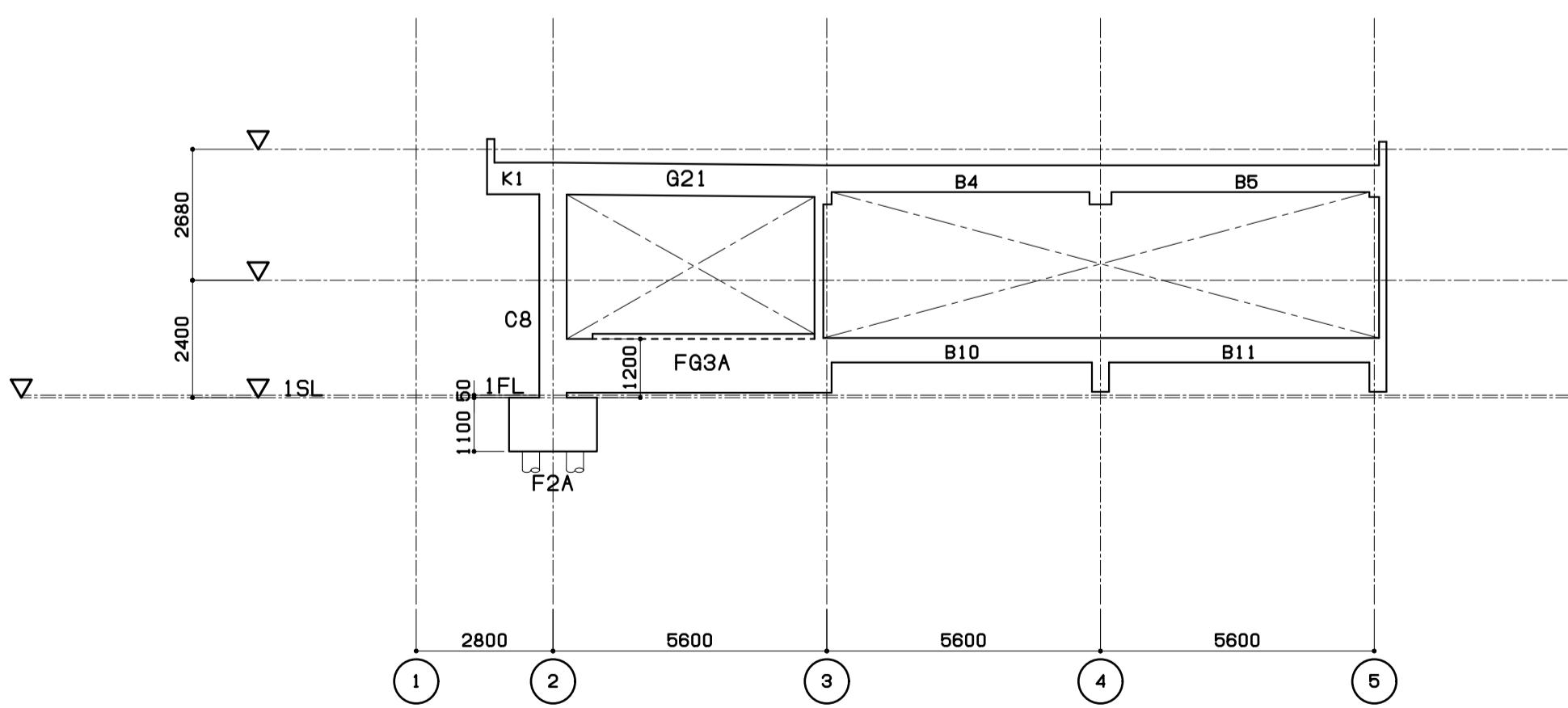
「通り軸組」



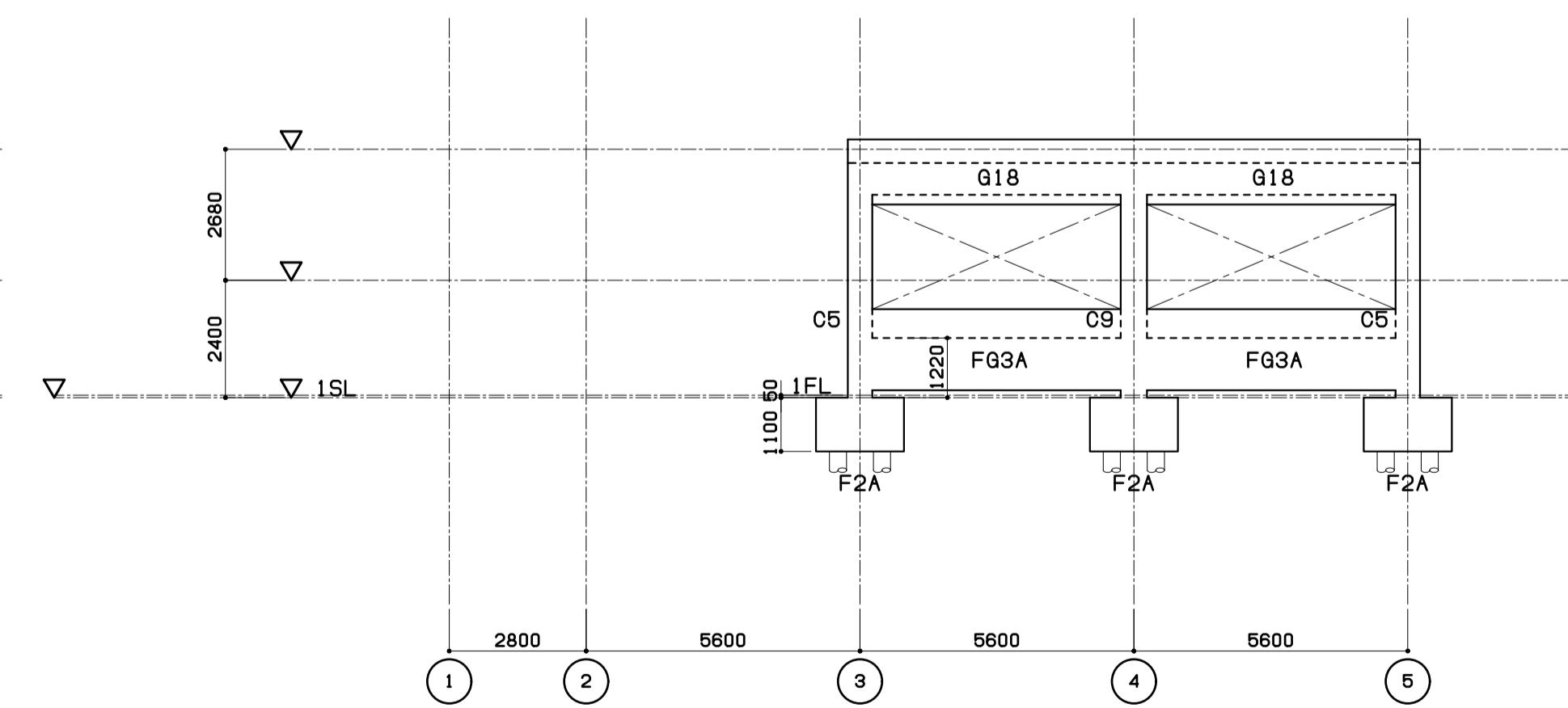
M通り軸組図



N通り軸組図

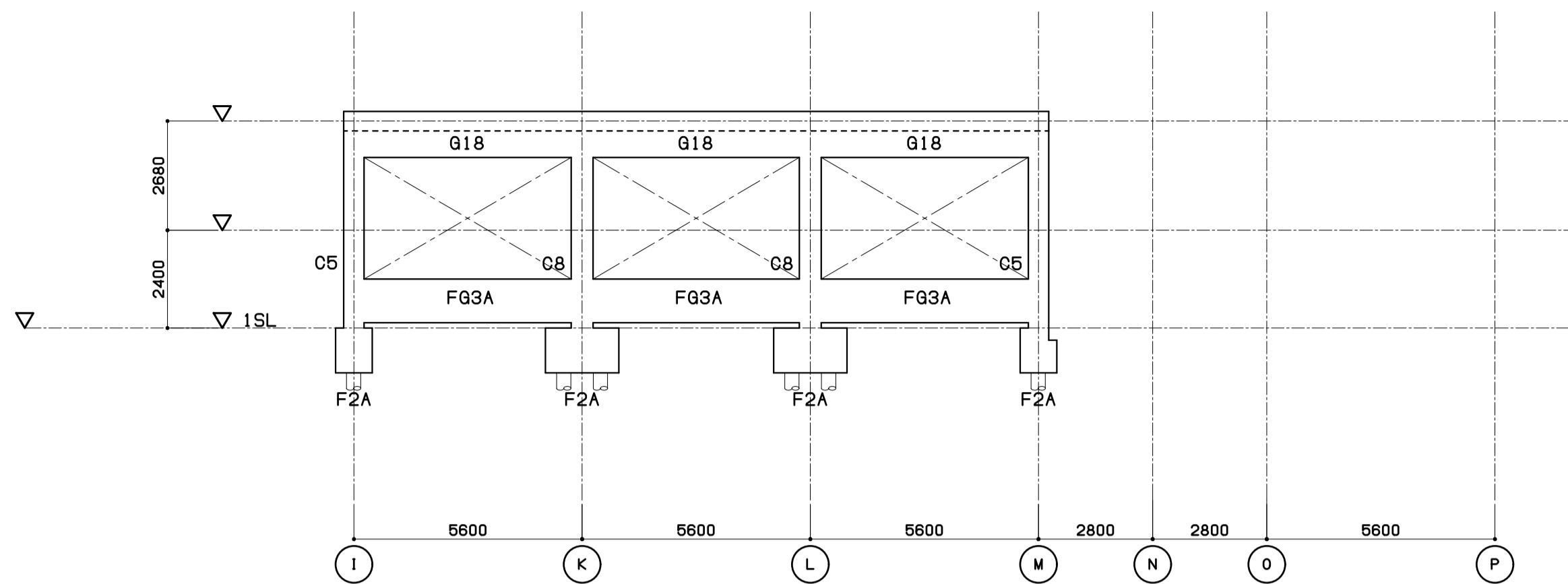


0通り軸組図

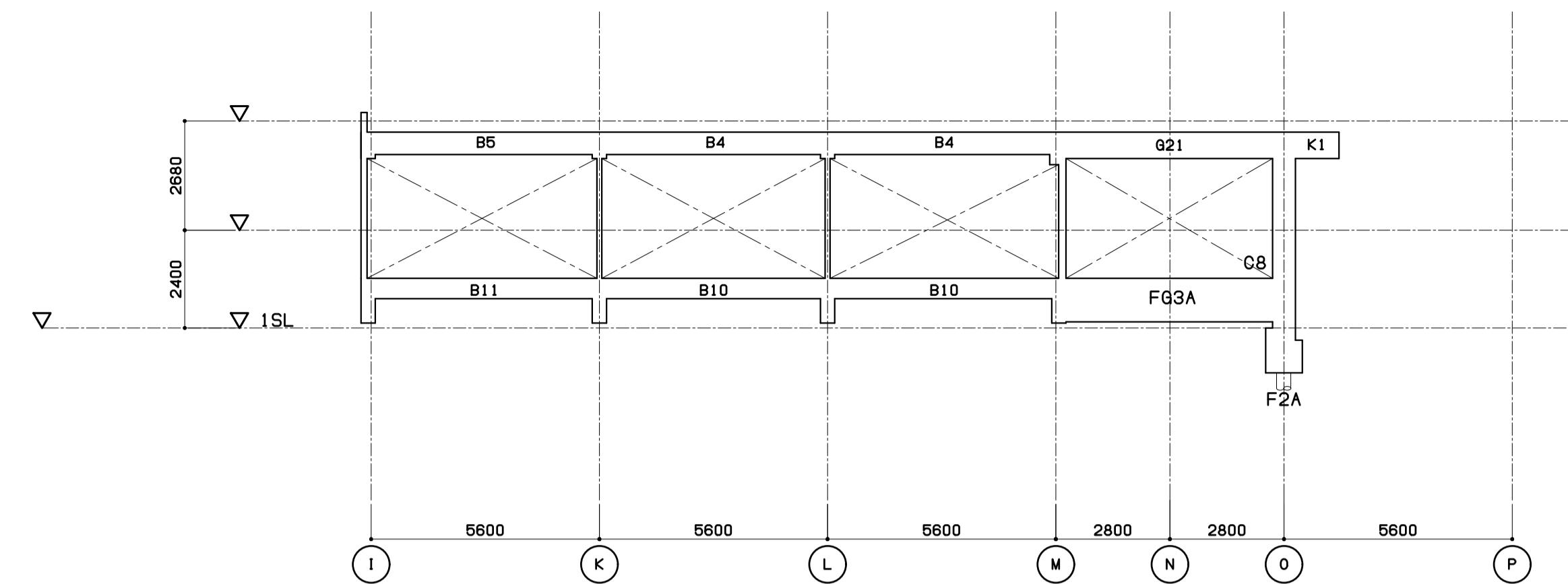


P通り軸組図

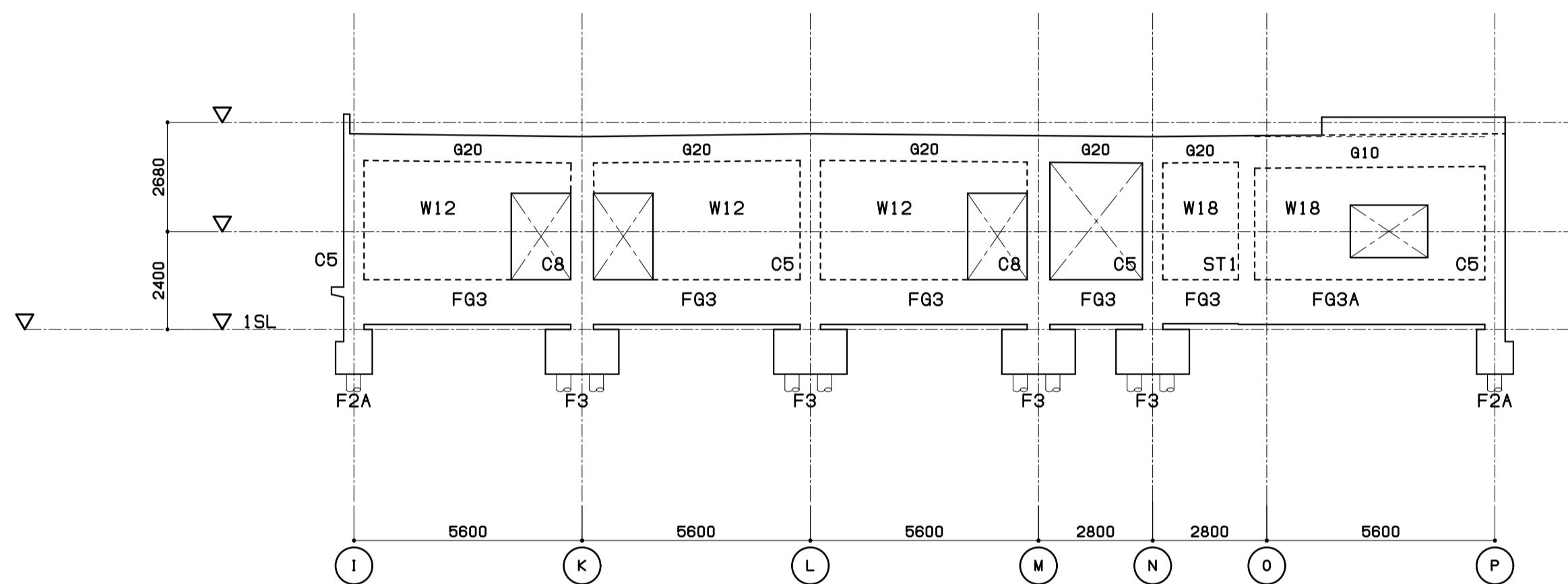
DRAWN BY Ishikawa	CHECKED BY 	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 軸組図(4)
株式会社 林・石川構造設計事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塙町4番5号 03(5315)0275	S-027	検図 担当 S-1:125(A1) S-1:250(A2)	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塙町4-5 03(3351)7101 一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 橋本功



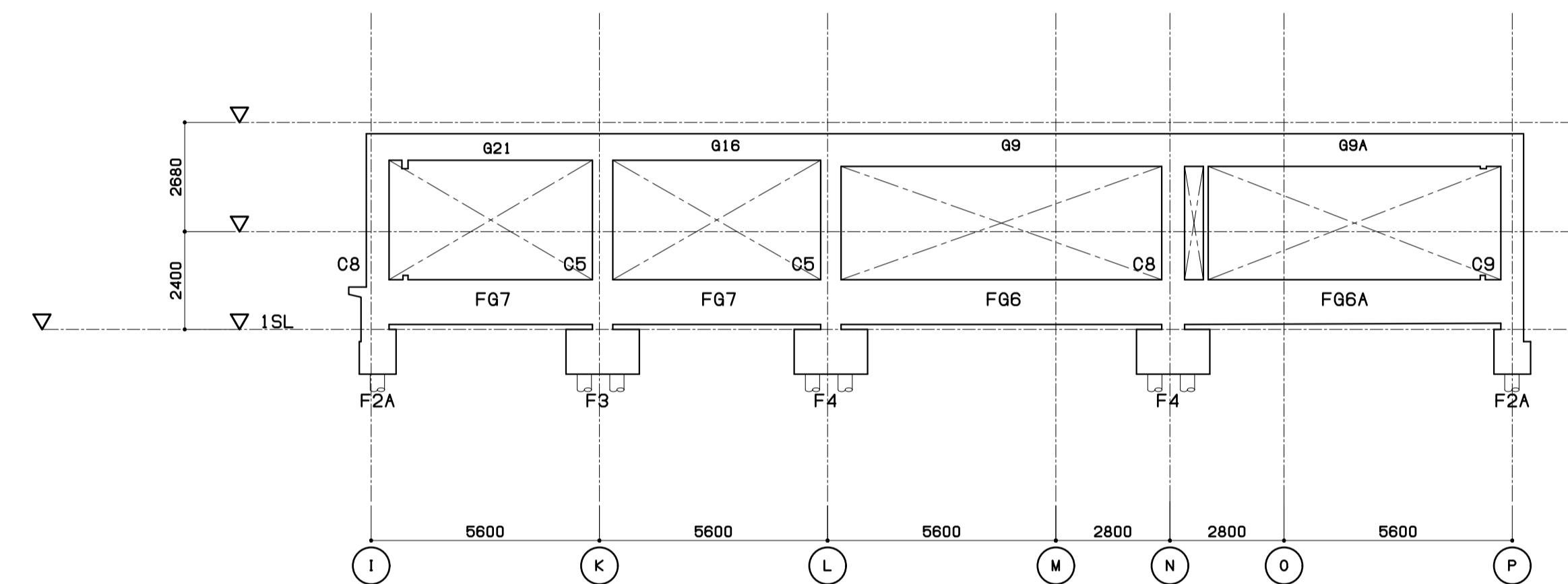
1通り軸組図



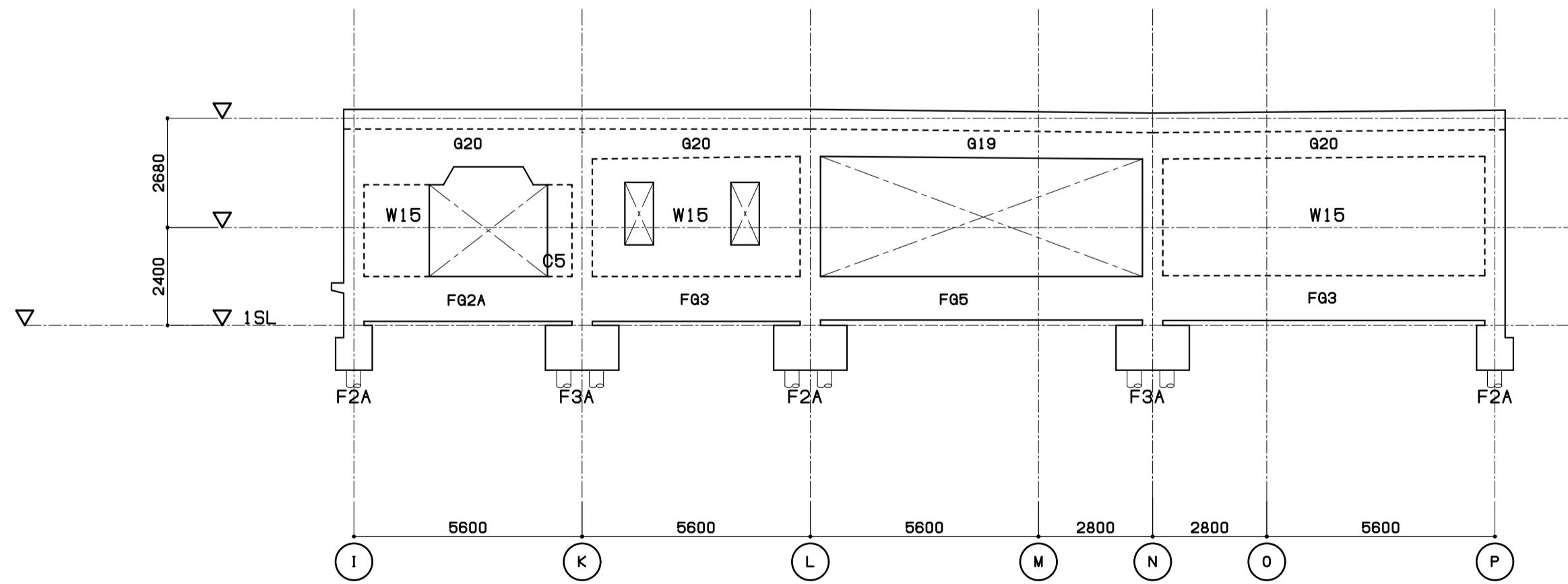
2通り軸組図



3通り軸組図

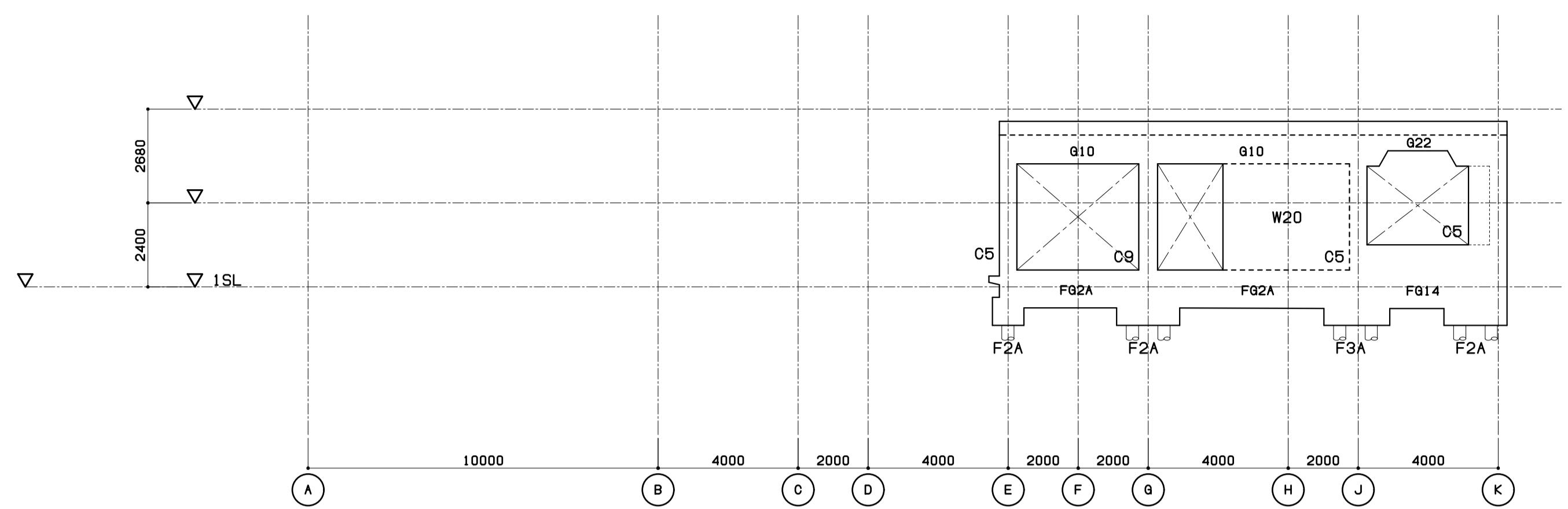


4通り軸組図

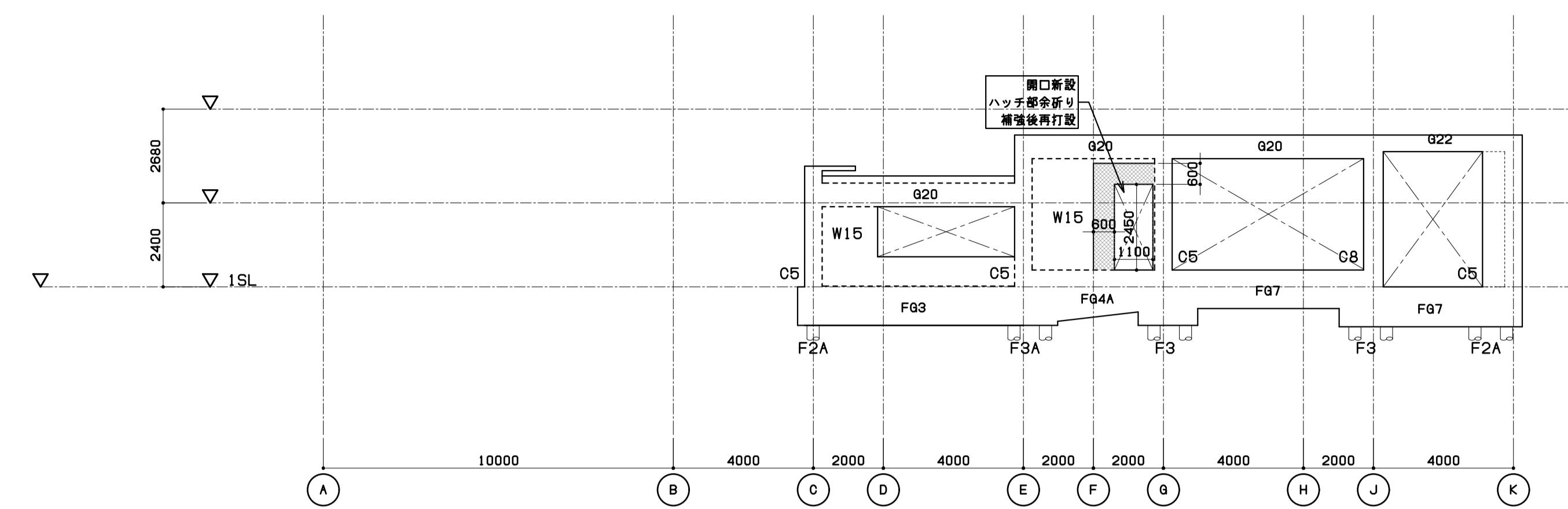


5通り軸組図

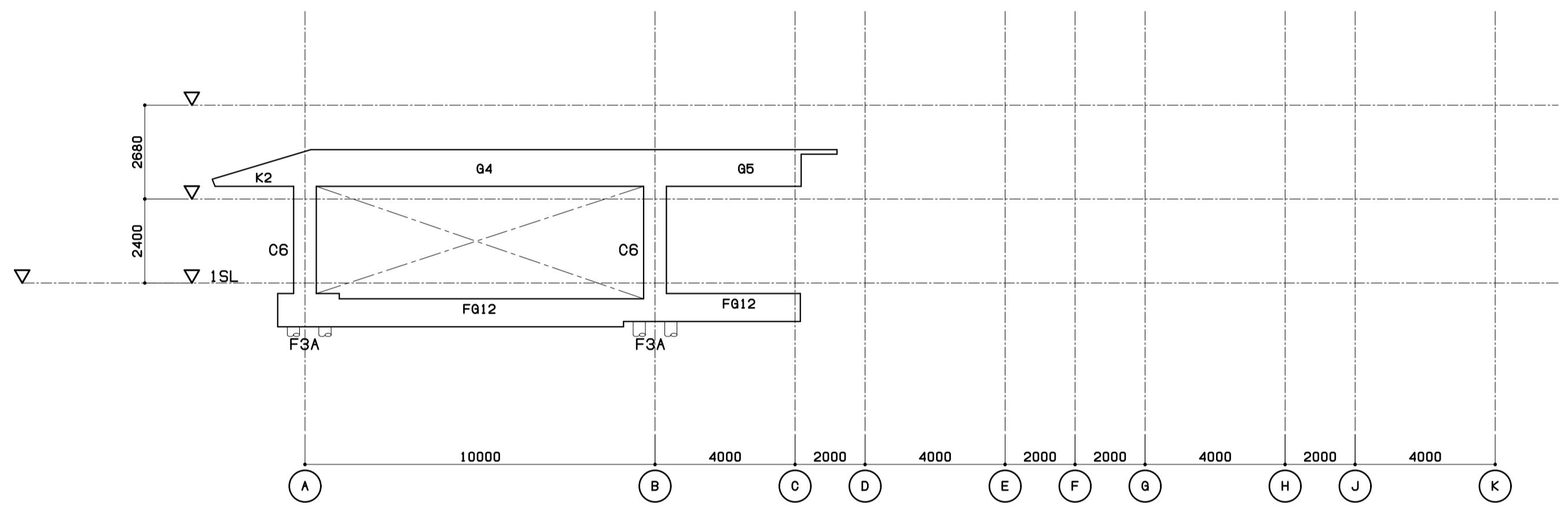
DRAWN BY Ishikawa	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 軸組図(5)
株式会社 林・石川構造設計事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(5315)0275	S-028 S=1:125(A1) S=1:250(A3)	検図 担当	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塩町4-5 03(3351)7101 一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 橋本功



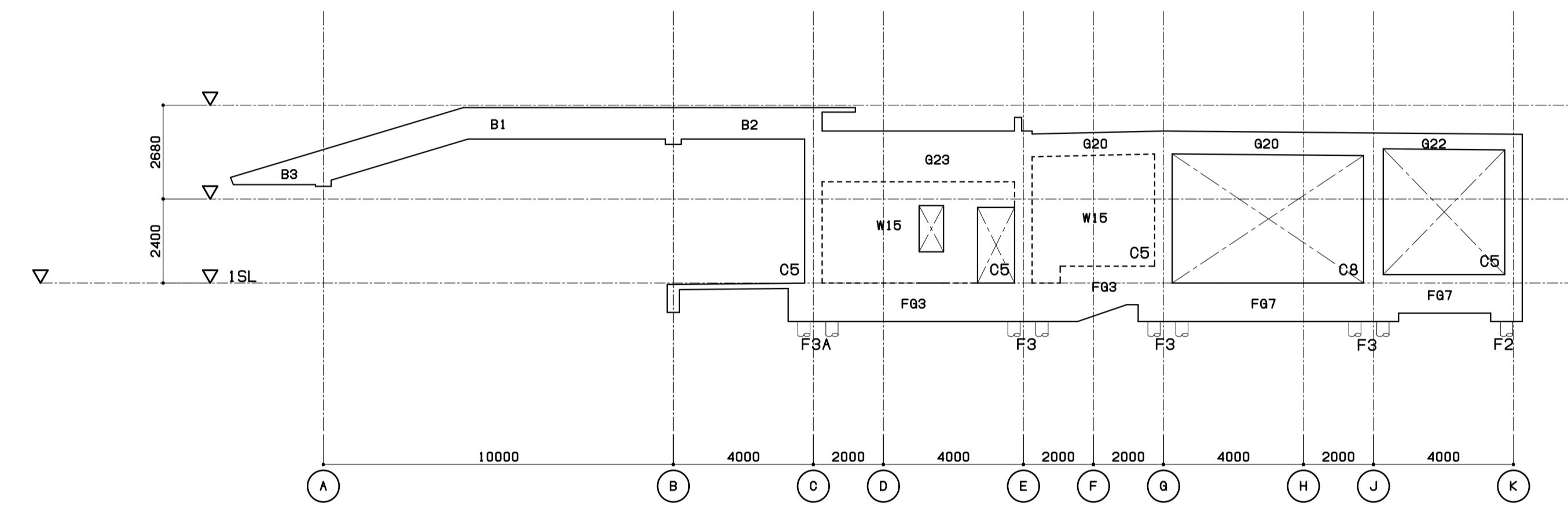
6通り軸組図



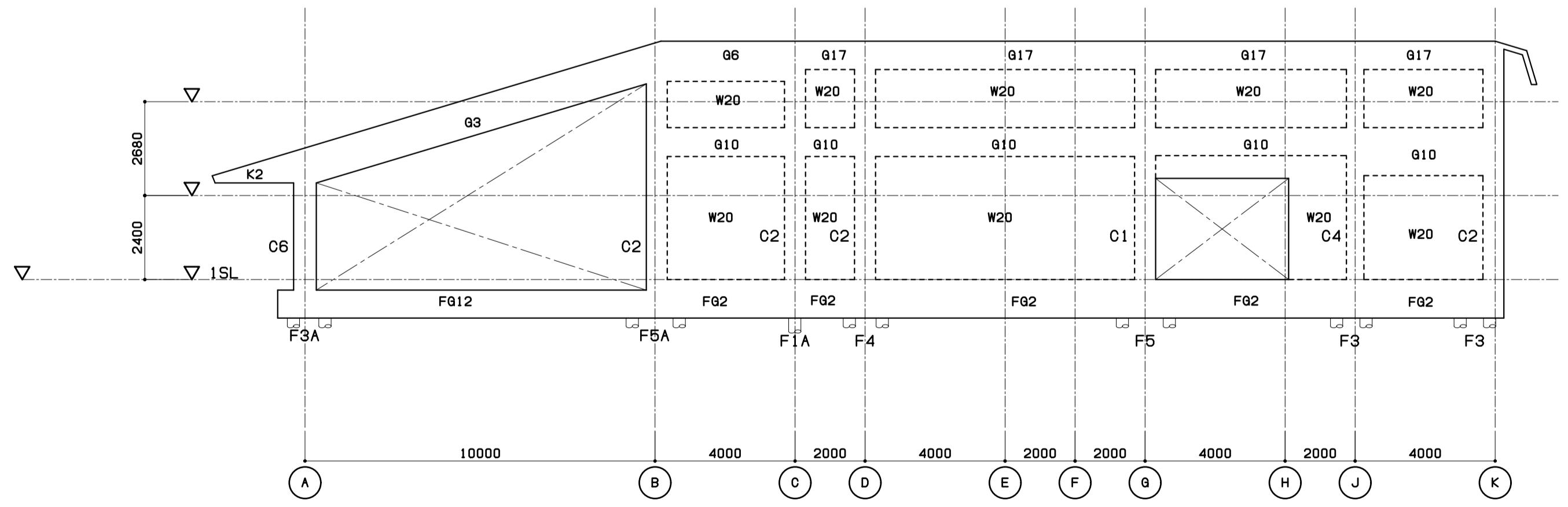
7通り軸組図



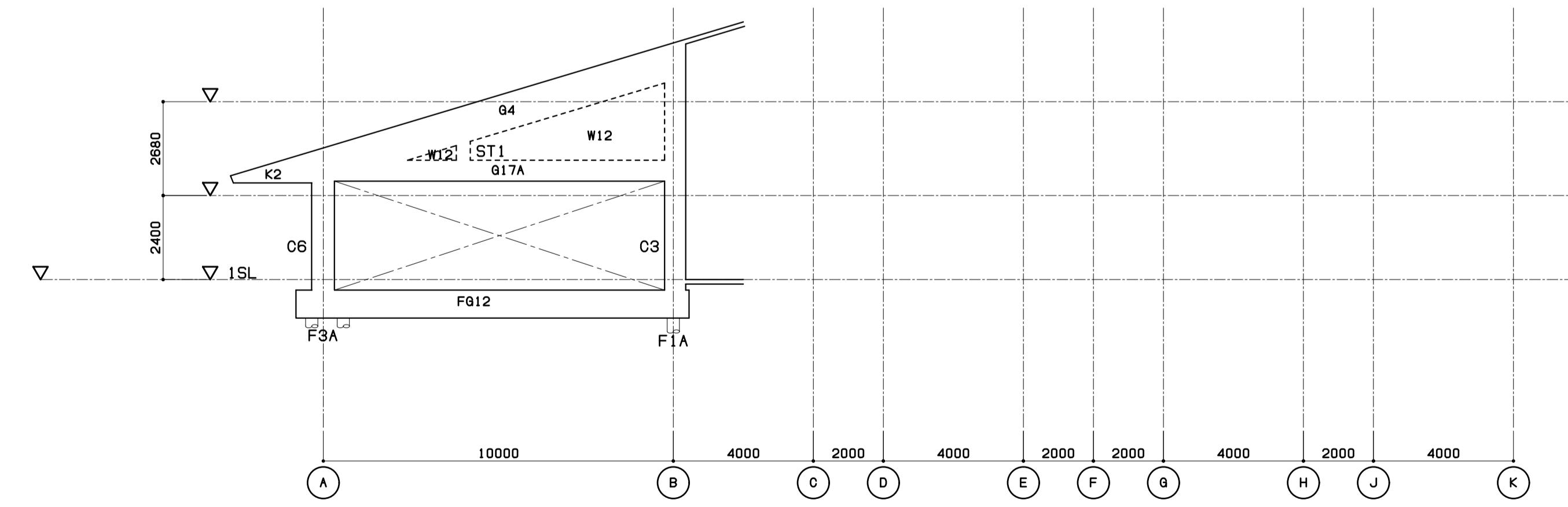
8通り軸組図



9通り軸組図



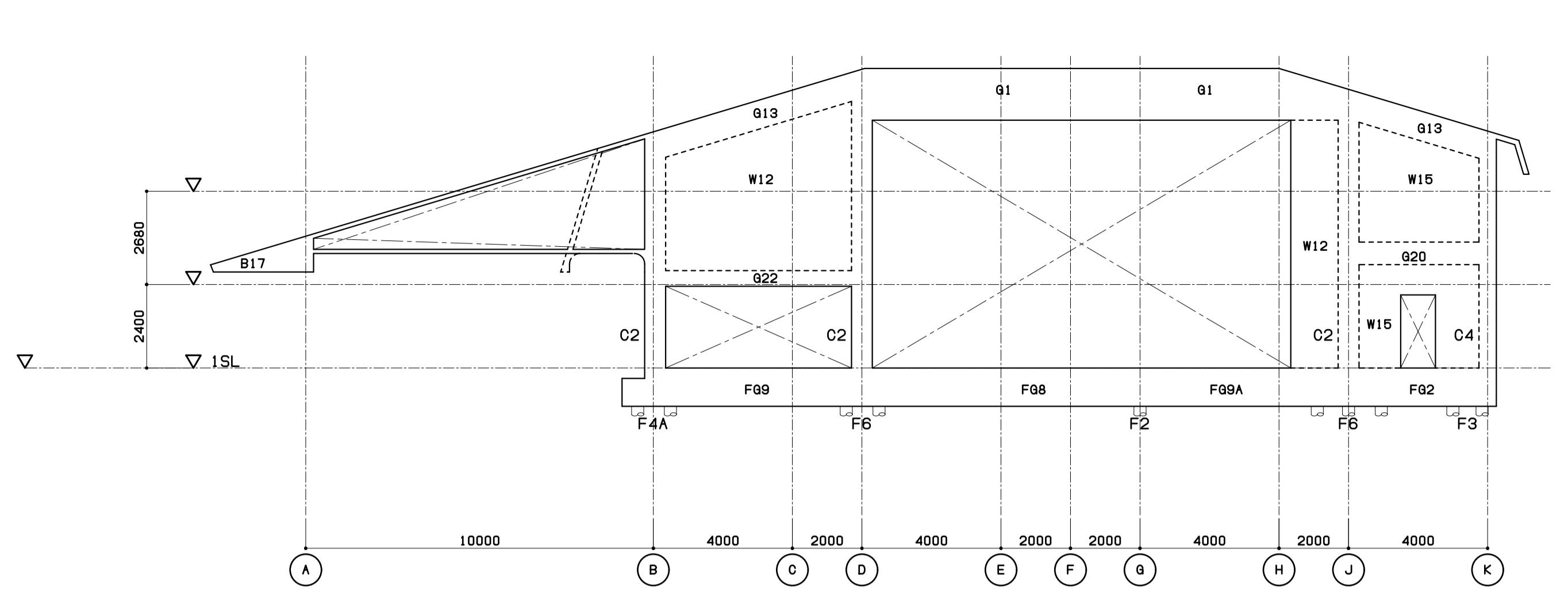
10通り軸組図  
図内は、1FLからの耐圧版天井レベルを示す。  
基礎大架の主筋は、X方向の梁を上邊とし、Y方向の梁を下邊とする。



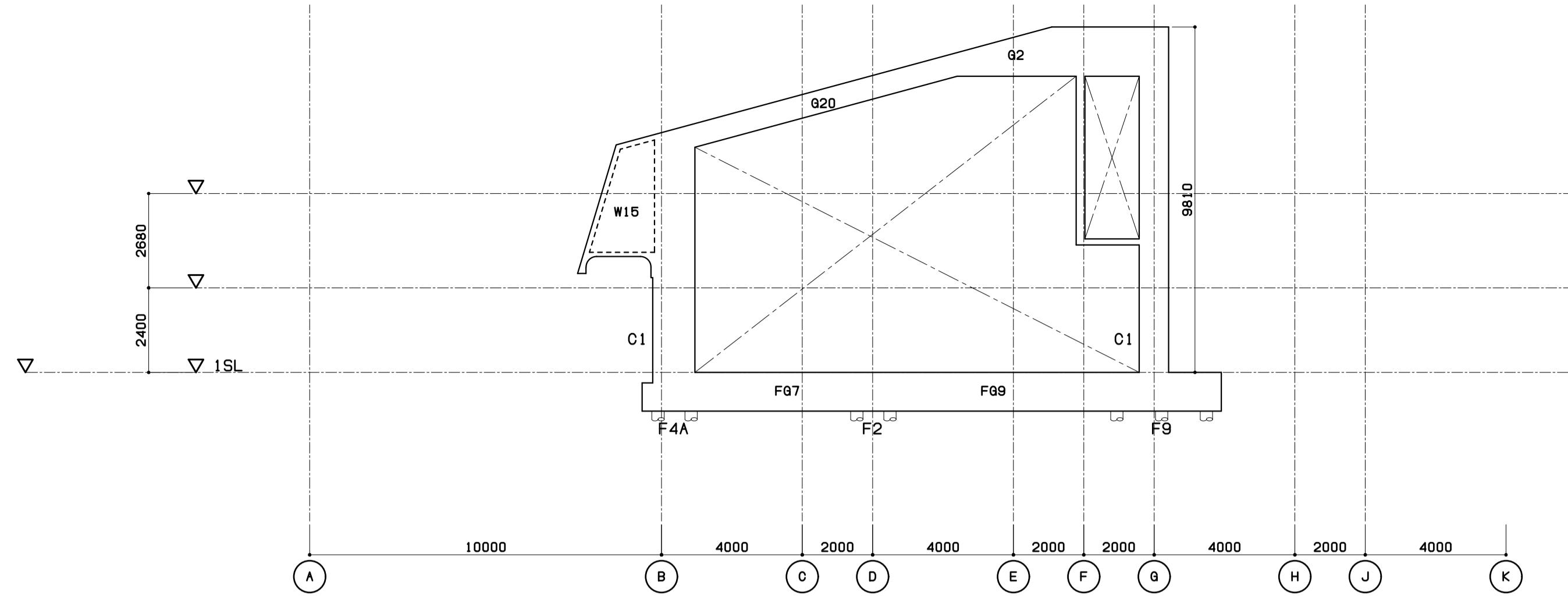
11通り軸組図

DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 軸組図(6)
Ishikawa		S-029	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
			一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(351)0275
			担当 S-1:125(A1) S-3:1:250(A3)

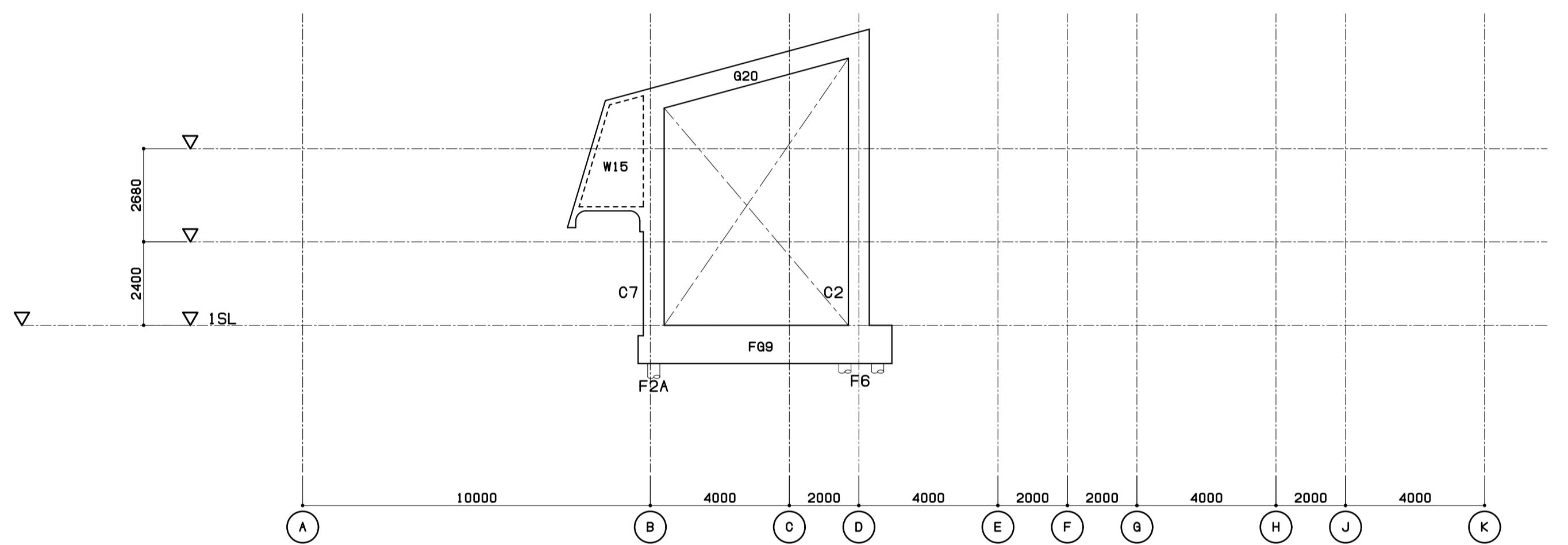
東京都新宿区四谷本塩町4-5 03(351)7101  
一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 横本功



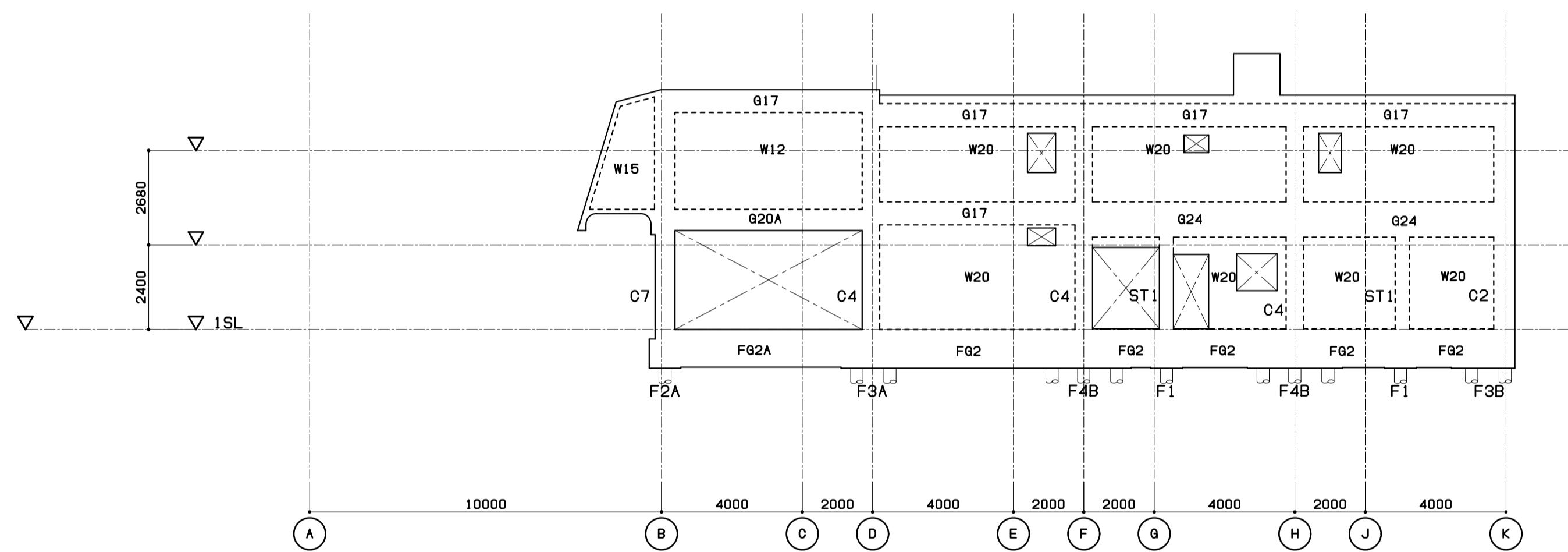
12通り軸組図



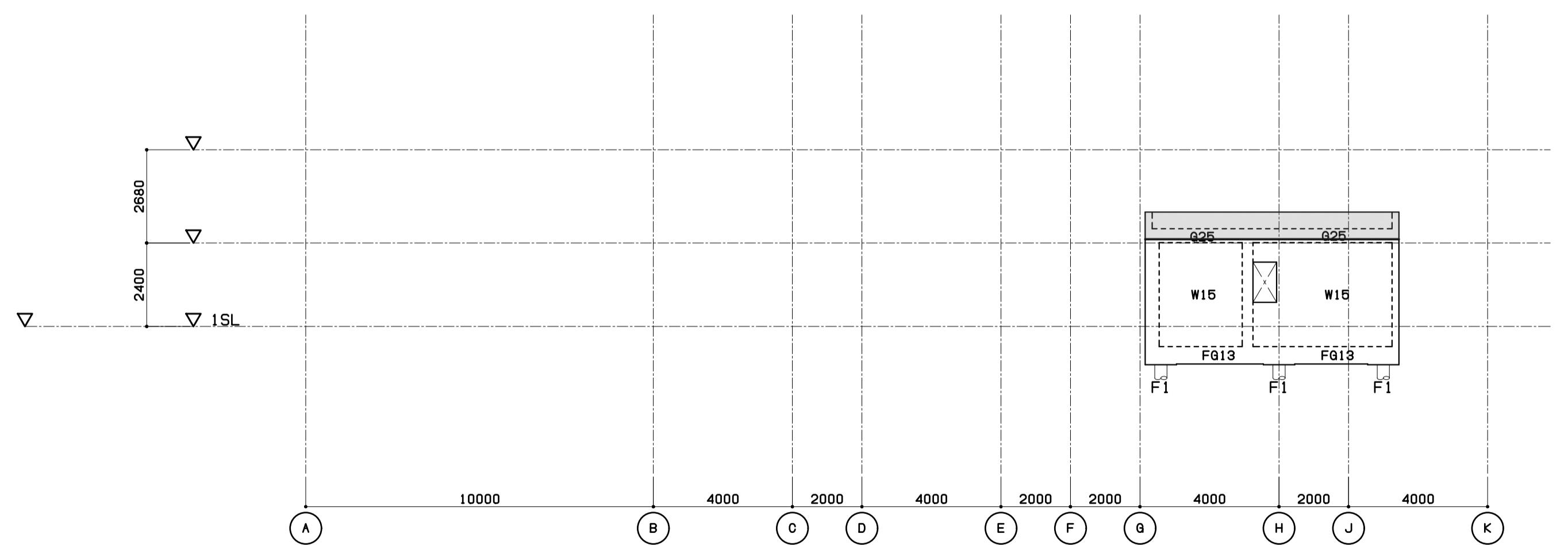
14通り軸組図



16通り軸組図



17通り軸組図

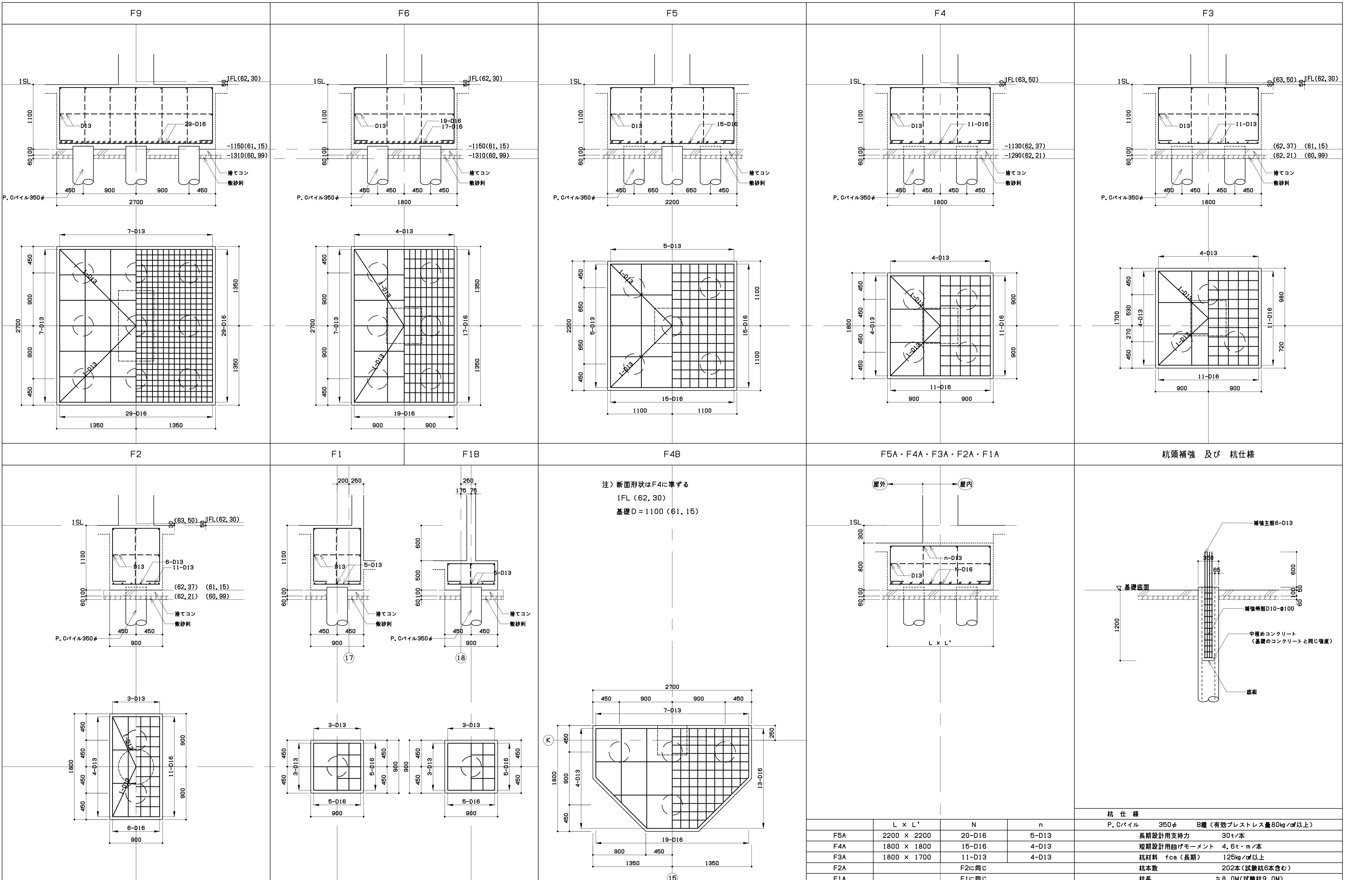


18通り軸組図

DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿化改修工事(建築工事) 既存 軸組図 (7)
Ishikawa		S-030	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(5315)0275		S-1:125(A1)	検査
		S-3:1:250(A3)	担当 一級建築士 国土交通大臣登録第94270号 横本功

## 基礎断面表

S=1/3.0 共通事項: 梁てコンクリート t=100 敷砂利 t=60



柱断面表

注) 1) Dia Hoop は D10-Φ600 交互とする。

階	符 号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	ST1	
1	柱頭 断面	同下	同下	同下	同下	同下	同下		同下			
	主筋	22-D22	12-D22	16-D22	12-D22	8-D22	12-D25	12-D25+4-D19	8-D22	16-D25		
	フープ	4-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	スパイラルD130100	スパイラルD130150	スパイラルD130100	スパイラルD130100		
階 柱脚 断面	柱脚 断面											
	主筋	22-D22	12-D22	16-D22	12-D22	8-D22	12-D25	12-D25	8-D22	8-D25	8-D19	
	フープ	4-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	2-2-D10, D13-alt0100	スパイラルD130100	スパイラルD130100	スパイラルD130100	スパイラルD130100	2-2-D100150	

Y方向  
↑  
X方向 →

スラブ断面表

S=1/6.0

符 号	長辺方向	短辺方向	符 号	全断面
S1			S3	
			S4	
S2			S5	
			S6	
			S7	

DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 柱・スラブ断面表
株式会社 林・石川構造設計事務所 一级建築士事務所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塩町4番5号 03(5315)0275 S-1:30(A1) S-1:60(A3)	株式会社 前川建築設計事務所 一级建築士事務所 東京都知事登録第64270号 横本坊 担当	S-032	一级建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塩町4-5 03(3351)7101 S-1:30(A1) S-1:60(A3)

## 基礎梁断面表

注) 1) 梁コン  $t = 100\text{mm}$ , 敷き砂利  $t = 60\text{mm}$ とする。  
 $S = 1/30$

符 号	FG1			FG2 (2A)	FG3 (3A)	FG4 (4A)		FG5		FG6 (6A)			
位 置	外 鑓	中 央	内 鑓	全断面	全断面	左端(右端)	中央・右端(左端)	両 端	中 央	左端(右端)	中 央	右端(左端)	
断 面													
B x D	450 x 1100		400 x 1100 (1070)	350 x 1100 (1070)	350 x 1100	350 x 1100~1580		350 x 1070		350 x 1100			
上端筋	7-D22	5-D22	10-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	6-D22	
下端筋	5-D22	7-D22	10-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	5-D22	
スターラップ	2-D10, D13alt0200			2-D10, D13alt0200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	
腹 筋	4-D10		4-D10	4-D10	4-D10	4-D10+2-D13		4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	
符 号	FG7		FG8		FG9 (9A)			FG10		FG11	FG12	FG13	FG14
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	左端(右端)	中 央	右端(左端)	左 端	中 央・右 端	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面													
B x D	300 x 1100		300 x 1100	300 x 1100	300 x 1100	300 x 1100	300 x 1100	300 x 1100	300 x 1100~1580	450 x 800	350 x 800	300 x 500	400 x 1840
上端筋	3-D22	2-D22	5-D22	2-D22	3-D22	2-D22	5-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	2-D22	4-D22
下端筋	2-D22	3-D22	2-D22	5-D22	2-D22	3-D22	2-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	2-D22	4-D22
スターラップ	2-D10200		2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10200	2-D10, D13alt0200	2-D10200	2-D10200	2-D10200
腹 筋	4-D10		4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10+2-D13	2-D10	2-D10	2-D10	-

## 基礎スラブ断面表

S = 1/30 注) 梁コン  $t = 60\text{mm}$ , 敷き砂利  $t = 60\text{mm}$ とする。

符 号	全断面
FS1	 主筋D10, D13alt0150ダブル 60 30 配筋D100200ダブル
FS2	 D13 D100150十文字 350 60 150 D100150

DRAWN BY Ishikawa	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事) 既存 基礎梁・基礎スラブ断面表
株式会社 林・石川構造設計事務所 一级建築士事務所 東京都知事登録第64264号 東京都新宿区四谷本塙町4番5号 03(5315)0275 S-033	徐國	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塙町4-5 03(3351)7101 S-1:30(A1) S-1:60(A3)	担当

## 大梁断面表

注) 1)鉄骨でC型材については、SN490材を用いる。その他、端部材SN400B、中央材SN400Aとする。  
2)巾止め筋 D100×1000 3) SRC梁で主筋間隔が300mm以上となる場合、主筋方向にD13を追加する(定着無し)  
4)主筋は、X方向の梁を上通しとし、Y方向の梁を下通しとする。  
5)Y方向の大梁主筋は、柱への定着長を4dとする。

S=1/30

符 号	G1		G2		G3			G4			G5	G6	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	左 端	中 央	右 端	左 端	中 央	右 端	全断面	全断面	
断 面													
B × D	350 × 1400		350 × 1400		450 × 1050			450 × 1050		450 × 1050	400 × 1050		
上端筋	8-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D25	4-D25	8-D25	4-D25	4-D25	8-D25	8-D25	3-D25	
下端筋	6-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D25	6-D25	8-D25	4-D25	8-D25	4-D25	4-D25	3-D25	
スターラップ	2-D10, D13alt+0200		2-D10, D13alt+0200		2-D10, D13alt+0200			2-D10, D13alt+0200		2-D10, D13alt+0200	2-D10, D13alt+0200	2-D10, D13alt+0200	
腹 筋	4-D10+2-D13		4-D10+2-D13		4-D10			4-D10		4-D10	4-D10	4-D10	
符 号	G7		G8			G9(9A)			G10	G11			
位 置	両 端	中 央	外 端	中 央	内 端	左 端(右端)	中 央	右 端(左端)	全断面	左 端	中 央	右 端	
断 面													
B × D	400 × 1000		400 × 1000			450 × 800			400 × 800		350 × 800		
上端筋	6-D22	2-D22	6-D22	4-D22	8-D22	5-D22	5-D22	10-D22	3-D22	4-D22	2-D22	6-D22	
下端筋	2-D22	4-D22	2-D22	4-D22	4-D22	3-D22	5-D22	7-D22	3-D22	6-D22	4-D22	4-D22	
スターラップ	2-D10, D13alt+0200		2-D10, D13alt+0200			2-D10, D13alt+0200			2-D10, D13alt+0200		2-D10, D13alt+0200	2-D10, D13alt+0200	
腹 筋	4-D10		4-D10			2-D10			2-D10		2-D10	2-D10	
符 号	G12		G13(13A)	G14		G15	G16	G17(17A)	G18		G19		G20(20A)
位 置	両 端	中 央	全断面	両 端	中 央	全断面	全断面	全断面	両 端	中 央	両 端	中 央	全断面
断 面													
B × D	350 × 800		350(400) × 800		350 × 800	350 × 800	450 × 650	450 × 650(600)	400 × 650		350 × 650		350 × 650(600)
上端筋	4-D22	2-D22	4-D22	3-D22	2-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22+1-D16	2-D22+1-D16	5-D22	3-D22	3-D22
下端筋	2-D22	4-D22	4-D22	2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D22+1-D16	3-D22+1-D16	3-D22	5-D22	3-D22
スターラップ	2-D10+0200		2-D10+0200		2-D10+0200		2-D10, D13alt+0200	2-D10, D13alt+0200	2-D10+0200		2-D10+0200		2-D10+0200
腹 筋	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10
符 号	G21		G22	G23	G24	G25							
位 置	両 端	中 央	全断面	全断面	全断面	全断面							
断 面													
B × D	300 × 650		350 × 450		350 × 1450	400 × 1000	250 × 400						
上端筋	3-D22	2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D22						
下端筋	2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D22						
スターラップ	2-D10+0200		2-D10+0200		2-D10+0200	2-D10, D13alt+0200	2-D10+0200						
腹 筋	2-D10		-	4-D10+2-D13		4-D10	-						

## 片持梁断面表

S=1/30

符 号	K1	K2(K2A)	
位 置	全断面	固 定 端	先 端
断 面			
B × D	300 × 650	450 × 1000	450 × 300
上端筋	3-D22	4-D25	4-D25
下端筋	2-D22	4-D25	4-D25
スターラップ	2-D10+0200	2-D10, D13alt+0200	
腹 筋	2-D10	4-D10	-

DRAWN BY	CHECKED BY	704	令和7年度 弘前市斎場長寿命化改修工事(建築工事)
Ishikawa			既存 大梁・片持梁断面表
株式会社 林・石川構造設計事務所		S-034	一級建築士事務所 東京都知事登録第16680号 株式会社 前川建築設計事務所 東京都新宿区四谷本塙町4番5号 03(5315)0275
一级建筑师事务所 東京都知事登録第64284号 東京都新宿区四谷本塙町4-5 03(3351)7101			
S=1:30(A1)	S=1:60(A3)		一级建筑师 国土交通大臣登録第94270号 横本坊

小梁断面表

S = 1/30

符号	B1		B2	B3	B4		B5			B6	B7						
位置	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央	外端	中央	内端	全断面	両端	中央					
断面																	
B x D	230 × 900		230 × 900	230 × 900~300	300 × 550		300 × 550			300 × 550	300 × 550						
上端筋	4-D19	2-D19	4-D19	4-D19	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D22				
下端筋	2-D19	4-D19	2-D19	2-D19	2-D22	3-D22	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	5-D22				
スターラップ	2-D100200		2-D100200	2-D100200	2-D100200		2-D100200			2-D100200	2-D100200		2-D100200				
腹筋	4-D10		4-D10	4-D10	-		-			-		-					
符号	B8			B9		B10		B11			B12(B12A)						
位置	外端	中央	内端	外端	中央・内端	両端	中央	外端	中央	内端	左端(右端)	中央	右端(左端)				
断面																	
B x D	300 × 550			300 × 550		300 × 500		300 × 500			300 × 500			300 × 500			
上端筋	3-D22	2-D22	5-D22	3-D22	5-D22	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	3-D22	3-D22	2-D22	5-D22				
下端筋	2-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D22	3-D22	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	2-D22				
スターラップ	2-D100200			2-D100200		2-D100200		2-D100200			2-D100200			2-D100200			
腹筋	-			-		-		-			-			-			
符号	B13	B14		B15			B16	B17									
位置	全断面	両端	中央	外端	中央	内端	全断面	全断面									
断面																	
B x D	300 × 500		350 × 450		300 × 450		250 × 400	300 × 300									
上端筋	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	3-D22	2-D22	2-D19									
下端筋	2-D22	2-D22	4-D22	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22	2-D19									
スターラップ	2-D100200		2-D100200		2-D100200		2-D100200	2-D100200									
腹筋	-		-		-		-										

壁断面表

注) 1)巾止め筋 D1001000とする。

符 号	W12	W15	W20(W18)	W20A	W25	W15A
断 面						
縦 筋	D10@150シングル	D10, D13alt@150シングル	D10, D13alt@200ダブル	D13@150ダブル	D13@200ダブル	上図参照
横 筋	D10@150シングル	D10, D13alt@150シングル	D10, D13alt@200ダブル	D10, D13alt@150ダブル	D13@200ダブル	上図参照
端部補強筋 及び 開口補強筋	縦 1-D13	2-D13	4-D13	4-D13	4-D13	2-D13
	横 1-D13	2-D13	4-D13	4-D13	4-D13	2-D13
	斜め 1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13

D10, D13a  $\leftarrow$  150ダブル D10, D13a  $\leftarrow$  150シングル